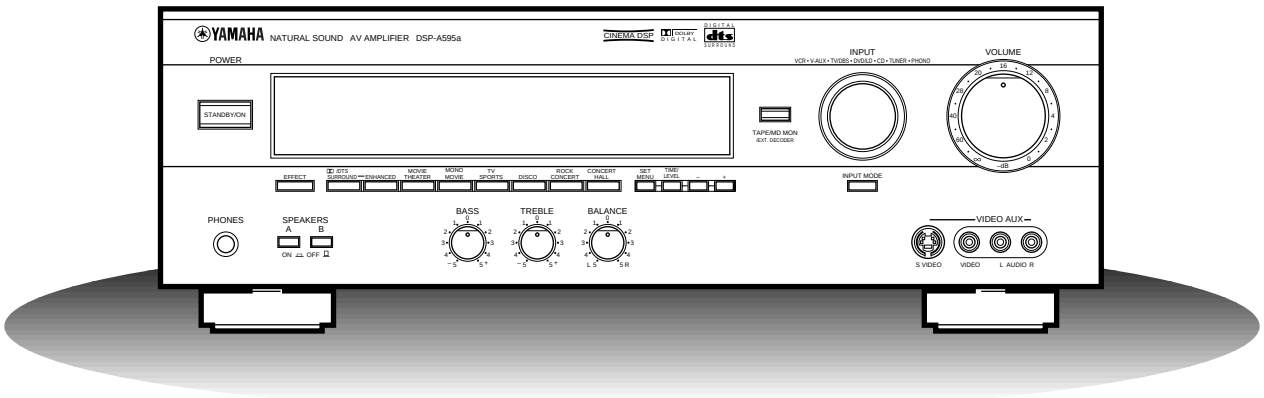
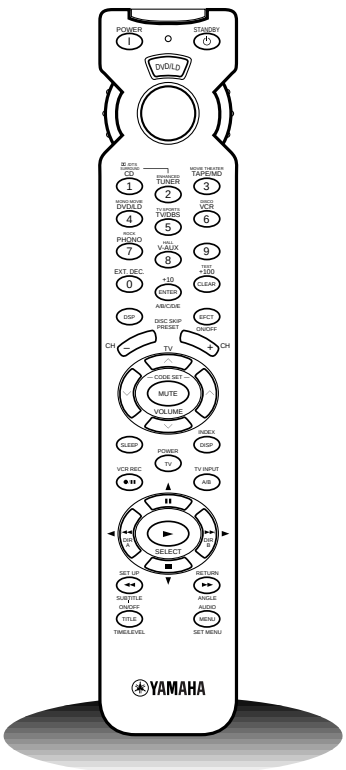
YAMAHA

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

DSP-A595a

取扱説明書





このたびは、YAMAHA AVアンプDSP-A595aをお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。
DSP-A595aの優れた性能を充分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共に保管してください。

保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。

◆ご使用の前に必ずお読みください◆

安全上のご注意（安全に正しくお使いいただくために）

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。
● この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示の例

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

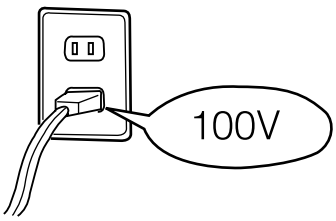
分解禁止
⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

警告

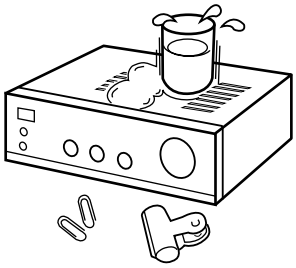
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

電源電圧交流100V以外の電圧で使用しない



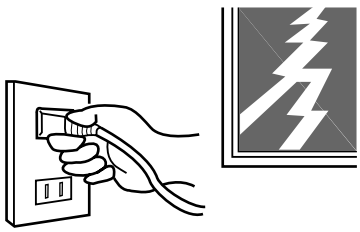
火災・感電の原因となります。
本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。

水を入れたり、ぬらさない



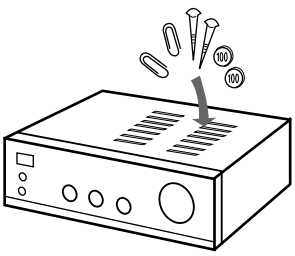
火災・感電の原因となります。
本機の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。

雷が鳴っているときは、アンテナ線や電源プラグに触れない



感電の原因となります。

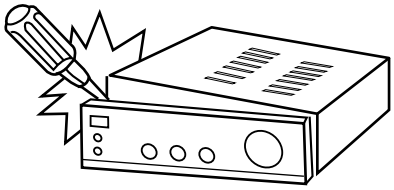
通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落し込んだりしない



火災・感電の原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

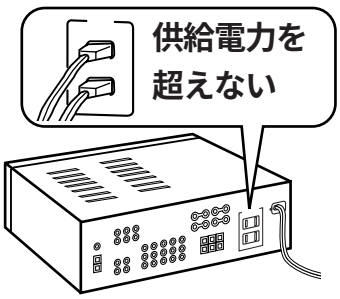
分解・改造を絶対しない（キャビネットをはずすことも含む）

分解禁止



火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

供給電力を超える消費電力の機器を、電源供給コンセントに接続しない



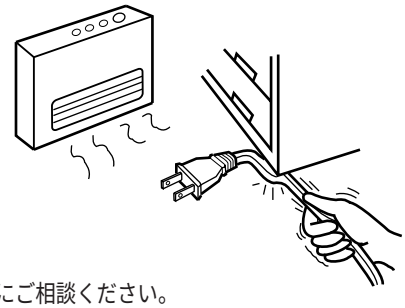
火災の原因となります。
接続機器の消費電力の合計が本機背面に表示されている供給電力を超えないようにしてください。また、供給電力内であっても電源を入れたときに大電流の流れる機器（電熱器具、ヘアドライヤー、電子レンジなど）は接続しないでください。

警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

電源コード・プラグを破損するようなことをしない

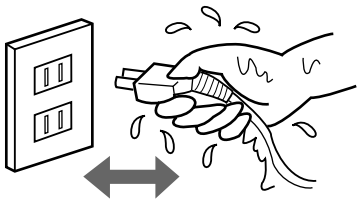
(傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる・ねじる、引っぱる、束ねる、重いものをのせるなどしない)



火災・感電の原因となります。

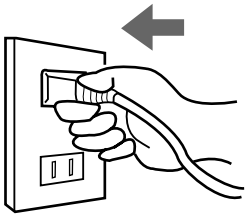
- コードやプラグの修理は販売店にご相談ください。

濡れた手で電源プラグの抜き差しをしない



感電の原因となります。

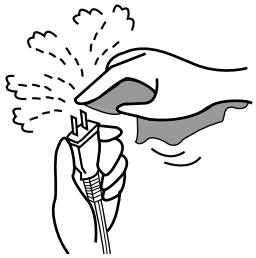
電源プラグは根元まで確実に差し込む



差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。

- 抜くときは必ずプラグを持ち、コードを引っぱらないでください。
- 傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使わないでください。

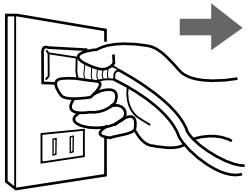
電源プラグのほこりなどは定期的にとる



プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。

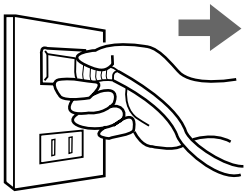
- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

機器の内部に水や異物が入った場合は、まず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く



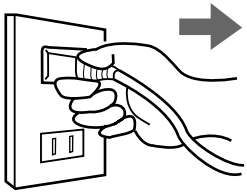
販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

煙が出たり変なにおいや音がしたら、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜く
また、電源プラグの抜き差しがしやすいコンセントに接続する



そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

落としたりして本機を損傷した場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く

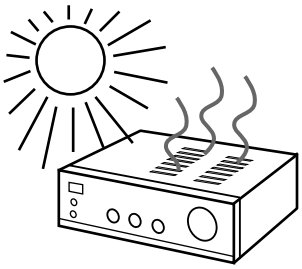


そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

⚠ 注意

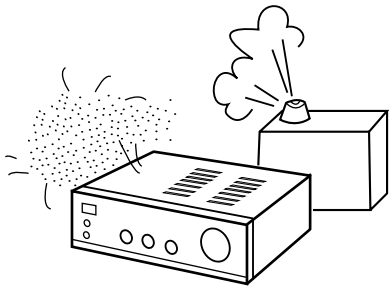
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に置かない



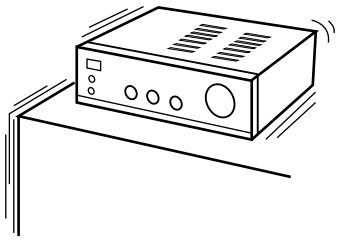
キャビネットや部品に悪い影響を与えたり、内部の温度が上昇し、火災の原因となります。

湿気やほこりの多い場所に置かない



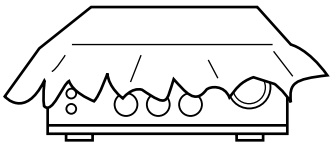
火災・感電の原因となります。

振動のある場所、ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない



落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。

通風孔をふさがない



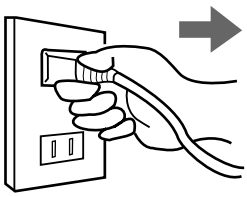
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となりますので、次の点に注意してください。

- テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや、布団の上に置かないでください。
- 本機を押し入れ、本箱など風通しの悪い狭い所に押し込まないでください。

放熱をよくするために他の機器との間は少し離して置く

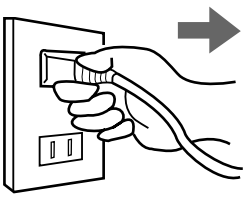
火災・故障の原因となります。ラックなどに入れるときは、本機の天面から10cm以上、背面から10cm以上のすきまを開けてください。

各機器を接続する場合は電源プラグを抜き、説明に従って接続する



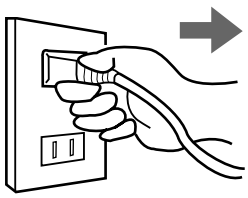
各々の機器の取扱説明書をよく読み、接続には指定のコードを使用してください。

移動するときは電源スイッチを切り、必ず電源プラグを抜き、外部の接続コードを外す



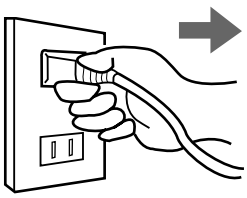
コードが傷つくと火災・感電の原因となります。

お手入れの際は、安全のため電源プラグを抜く



感電の原因となります。

長期間使わないときは、必ず電源プラグを抜く

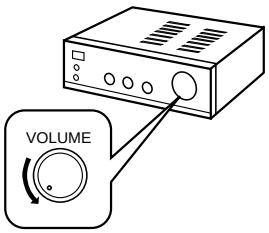


火災の原因となります。

⚠ 注意

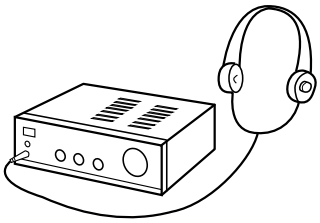
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

⚠ 電源を入れる前には音量を最小にする



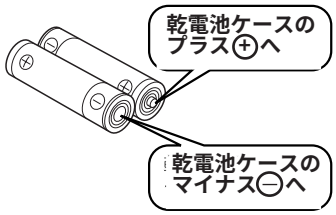
突然大きな音が出て聴力障害などの原因となります。

⊘ ヘッドホンを使うときは、音量を上げすぎない



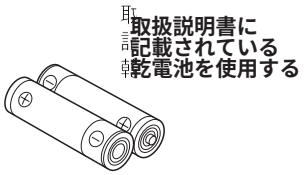
大きな音で聞くと、聴力障害などの原因となります。

⚠ 付属のリモコンに電池を挿入する場合、極性表示（プラス⊕とマイナス⊖）通りに入れる



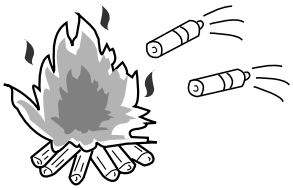
間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

⊘ 指定以外の乾電池は使用しない



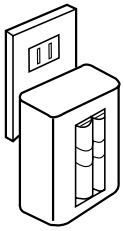
また、種類の違う乾電池、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となります。

⊘ 乾電池はショート、分解、加熱、火に入れるなどしない



発熱、液もれ、破裂などを起こし、けが、やけどの原因になります。

⊘ 乾電池は充電しない



液もれ、破損などを起こし、けが、やけどの原因になります。

⚠ アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。

⚠ 1年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご相談ください。

本機の内部にほこりがたまったまま長い間掃除しないと、火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。

特長

ドルビーデジタル[*1]対応

最新のシアターサウンド“ドルビーデジタル”を家庭で楽しめるドルビーデジタルデコーダーを搭載、DSP（デジタルサウンドフィールドプロセッサー）と組み合わされた各種音場で楽しめます。

DTS[*2]（デジタルシアターシステムズ）対応

ドルビーデジタルサウンドとともに優れたデジタルサラウンドサウンドを提供してきたDTSをご家庭にお届けするため、本機にはDTSデコーダーも搭載しています。ドルビーデジタルと同様に、DSPと組み合わされた各種音場で楽しめます。

豊富な音場プログラムを搭載

大規模音場処理のキーデバイスとして、YSS918-Fを搭載しました。YSS918-Fはヤマハ独自のCINEMA-DSP処理に必要な機能を内蔵しており、デジタルドルビープロ・ロジックデコーダ及び、高度なDSP音場処理をワンチップで実現しています。最新のドルビーサラウンド映画からモノラルの名画まで、またコンサート、ディスコ等の幅広いソフトを多彩な音場効果で楽しめます。

オールディスクリート構成の高音質パワーアンプを搭載

YSS-918の搭載により高度な音場処理を実現しながら実装体積を大幅に縮小できました。本機の内部は強力な電源部とオーディオ的に熟慮された高音質パワーアンプを中心にレイアウトされています。エフェクトアンプに至るまでオーディオクオリティを重視して設計。本格的5チャンネルCINEMA-DSPをフルスペックで楽しめます。

多彩な入出力端子

入力端子は、AVソース/オーディオソースにマルチに対応。デジタル信号をダイレクトに接続できるCOAXIAL/OPTICAL端子は、ドルビーデジタル信号／DTS信号を自動判別して再生します。また、AVソースをよりクリアーな映像でお楽しみいただけるよう、Sビデオ端子の充実をはかりました。
出力端子は、音声チャンネル/映像チャンネルの豊富な出力端子に加え、サブウーファー端子を備えていますので、効果的な重低音再生を実現します。さらに、6チャンネルの外部デコーダー入力を装備したことにより、すべてのマルチチャンネルのディスクリート音声を手軽にしかも本格的に楽しめます。

多様な機器に対応するコードセットリモコン

本機に付属のリモコンでは、ヤマハの機器だけでなく、コードをプリセットするだけで他社の機器もあわせて操作できます。

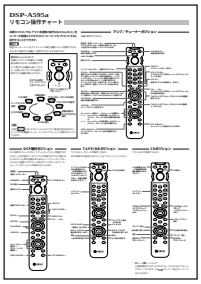
[*1] ドルビーライセンシングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。
ドルビー、DOLBY、PRO LOGIC、およびダブルD記号 DD は、ドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションの商標です。
著作権1992年ドルビーラボラトリーズインコーポレーティッド。不許複製。
[*2] DTS Technology LLCからのライセンスに基づき製造されています。
さらに、以下のPCT（特許協力条約）/US95/0059に由来する米国特許5,451,942および米国国内特許出願によるライセンスを受けています。米国特許および外国特許を追加出願中です。
“DTS”はDTS Technology LLCの商標です。
なお、これらの一部または全部を許可なしに複製することはできません。

はじめに、次のことをお確かめください。

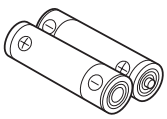
1 保証書にお買い上げ店名を記入してもらいましたか？

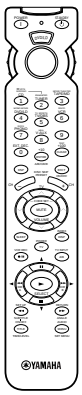
2 付属品はすべてそろっていますか？

リモコン操作チャート



単3乾電池2本





リモコン

目次

安全上のご注意 2

特長 6

目次 7

音場効果をお楽しみいただくために 8
- スピーカーシステムについて 8
- スピーカーの配置 9
- サブウーファーについて 10

接続のしかた 11
- 正しい接続のために 11
- オーディオ機器の接続 12
- ビデオ機器の接続 13
- 6（5・1）チャンネル音声について 15
- スピーカーの接続 16
- 電源プラグ、電源供給コンセントの接続 17

リモコンの準備 18
- 乾電池の入れかた 18
- リモコンの使用範囲 18

各部の名称とはたらき 19
- フロントパネル 19
- ディスプレイ 20
- リモコン 21

スピーカーモードの設定＜再生の前に＞ 23
- 設定のしかた 23
- 各スピーカーモードの設定内容 24

スピーカーレベルの調節＜再生の前に＞ 26

再生する 28
- 入力モードについて 30

音場効果を楽しむ 31
- 音場プログラムの選びかた 34
- ディレイタイムの調節とスピーカーレベルの再調節 35

セットメニューの設定 37
- 設定のしかた 37
- 各メニュー項目の設定内容 38

録音/録画について 39

スリープタイマー 39

タイマー再生／録音 40
- 接続 40
- 操作 40

リモコンで操作する 41
- 各機器を操作する 41
- 機器別のリモコン機能 42

コードをリモコンにプリセットする 46
- コードのプリセット 46

メーカーコード一覧表 48

故障かなと思ったら 49

参考仕様 51

ヤマハホットラインサービスネットワーク 52

これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

音場効果をお楽しみいただくために

本機にはセンタースピーカー、リアスピーカーを設置して楽しむ音場処理機能があります。音場効果を十分にお楽しみいただくため、ご使用の前にこの項目をお読みになり、適切なスピーカーシステムを設置してください。

スピーカーシステムについて

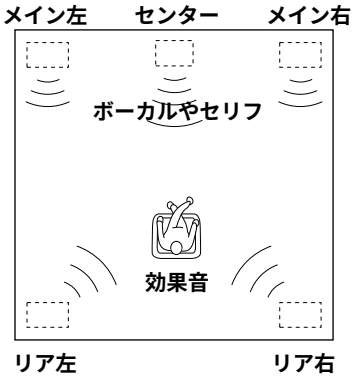
本機の音場効果を楽しむためには、合計5本もしくは4本のスピーカーが必要となります。
スピーカーの音色が違うと、映画などで移動する主人公の声の音色が不自然に変わることがあります。なるべく音色の揃ったスピーカーをお使いください。
小型のスピーカーをお使いの場合は、充分な重低音や臨場感をお楽しみいただくために、サブウーファーの追加をおすすめします。（10ページ参照）

スピーカーシステムを選ぶ

下記を参考にして、5スピーカーシステムまたは4スピーカーシステムのいずれかを選びます。スピーカーシステムに応じてセンターモードが決まります。

5スピーカーシステム（センタースピーカーを使用する）

従来の2チャンネルステレオで使用する2本の左右メインスピーカーに加えて、ドルビー プロ・ロジック サラウンド効果を最大限に発揮させるためのセンタースピーカー、およびリスナーの後方に設置する左右リアスピーカーの合計5本のスピーカーを使用します。



- メインスピーカーの間隔が広い場合には、センタースピーカーの使用はセリフの定位などの改善に効果的です。
- 使用するセンタースピーカーに合わせてセンタースピーカーモードをLARGEまたはSMALLに設定します（24ページ）。

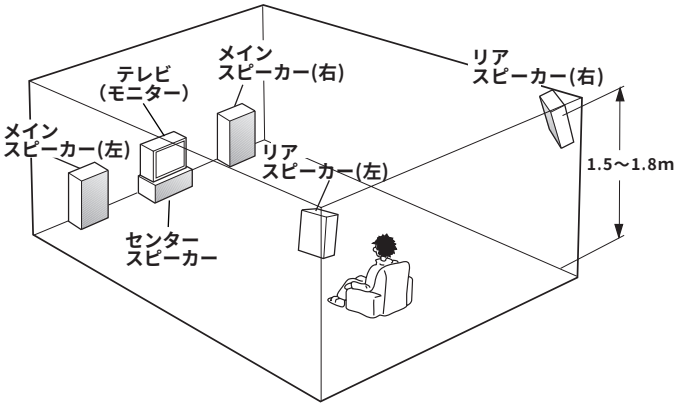
4スピーカーシステム（センタースピーカーを使用しない）

左右のメインスピーカー2本と、左右のリアスピーカー2本合計4本のスピーカーを使用するシステムです。
ドルビー プロ・ロジック再生時のセンターチャンネル信号は、左右のメインスピーカーが再生します。

- TVの両側にメインスピーカーを設置するような、スピーカーの間隔が比較的狭い場合は、センタースピーカーを使用しなくても充分な効果が得られます。
- センタースピーカーモードはNONEに設定します（24ページ）。

スピーカーの配置

5スピーカーシステムの配置例



スピーカーは上図のような位置関係が理想ですが、厳密に揃わなくても充分な効果が得られます。

メインスピーカー

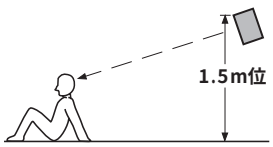
従来のステレオ再生と同様に、左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。テレビをはさんで設置する場合は、左右のスピーカーとテレビの距離を同じにします。スクリーンを設置している場合は、スクリーンの両脇に設置してください。

センタースピーカー

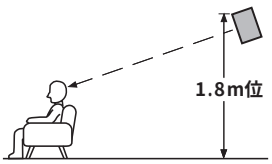
テレビを設置している場合は、テレビ画面とスピーカーの前縁を揃え、テレビの下または上など、できるだけテレビ画面に近いところに設置してください。スクリーンを設置している場合は、スクリーンの下中央に設置してください。

リアスピーカー

上図の配置例のようにメインスピーカーより左右の間隔を開けた後方斜めに配置し、スピーカーをリスニングポイントに向けてください。
スピーカーの高さは、床に直接座って聴く場合床から1.5m位、椅子に座って聴く場合1.8m位が適当です。

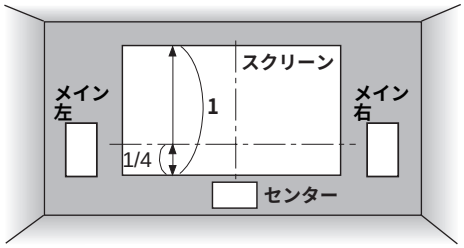


直接座って聴く場合の高さ



椅子に座って聴く場合の高さ

スクリーン使用時の設置例



- メイン左、右は、スクリーン下辺から1/4の高さが適当です。
- センタースピーカーは、スクリーンのすぐ下中央に設置します。1本使いが定位の点で効果が得られます。

ご注意

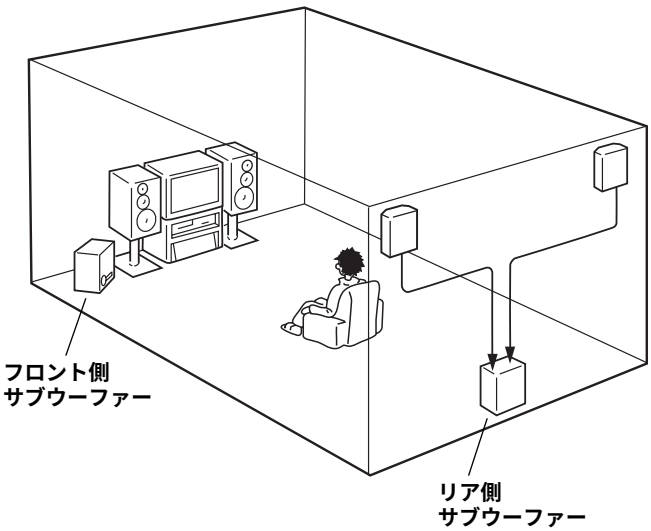
スピーカーによっては、テレビ(モニター)の画面が乱れることがあります。画面近くに設置するセンタースピーカーやスーパーウーファには、防磁型スピーカーの使用をお薦めします。
(テレビの画面が乱れる場合は、テレビとスピーカーを離してください)

サブウーファーについて

スピーカーシステムにサブウーファーを加えると、映画再生時の迫力や臨場感を大きく改善することができます。メインスピーカーに比較的大型のスピーカーを使用する場合でも、良質のサブウーファーを追加することで大きな効果が得られます。1台目はフロント側に、2台目をリア側に設置することをお薦めします。

フロント側サブウーファーは、スピーカーモードの「4. BASS（バスアウトモード）」（25ページ）の設定にしたがって信号を出力します。EXT. DECDR（外部デコーダー）入力のときはEXTERNAL DECODER INPUTのSUB WOOFER端子に入った信号をそのまま出力します。

映画ではリアチャンネル側の低音再生も非常に重要です。メイン側の低音とリア側の低音が再現されると迫力だけでなく、特にCINEMA-DSP音場プログラムのリアリティが大きく改善されます。



フロント側サブウーファー

配置

左右どちらかの外側で、壁の反射を防ぐために少し内振りに設置します。低音の聞こえ方は、スピーカーを置く位置と聞く位置の両方に影響されるので、設置する位置を変えてお試しください。

接続

本機背面のサブウーファー用のSUB WOOFER OUTPUT端子に接続します（16ページ）。

リア側サブウーファー

配置

視聴位置より後方に設置します。左右の位置は関係しません。

接続

リア専用のサブウーファーは、リアスピーカーのL、R端子からスピーカーコードで接続します。詳しくは、サブウーファーの取扱説明書をご覧ください。

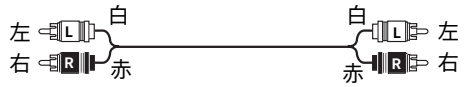
接続のしかた

正しい接続のために

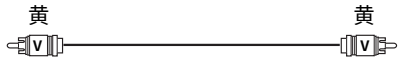
- 接続の際は、必ず本機および接続する機器の電源を切ってください。
- ヤマハCDプレーヤー、チューナー、テープデッキなどとシステム接続する場合は、各機器と本機の同じ番号(1、2など)のついた端子どうしを接続してください。
- 接続する機器によって接続方法や端子名が異なることがあります。接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。
- ピンジャックの入／出力端子は、信号別に色分けされています。
  - ・音声信号の左(L)チャンネル：白色
  - ・音声信号の右(R)チャンネル：赤色
  - ・モノラル信号：黒色
  - ・同軸デジタル信号：オレンジ
  - ・映像信号(コンポジット)：黄色
- 入／出力端子の接続には、市販のピンプラグコードをご用意ください。
- 本機が他の機器(テレビ、チューナーなど)に影響を与えるような場合は、本機と他の機器の設置場所を離してください。障害をなくすために、チューナーやテレビのアンテナには、屋外アンテナを使用し、同軸ケーブルで接続することをお薦めします。
- 接続が終わったら正しく配線されているか、もう一度お確かめください。

接続図では、接続コードを次のように示します。

音声信号接続コード



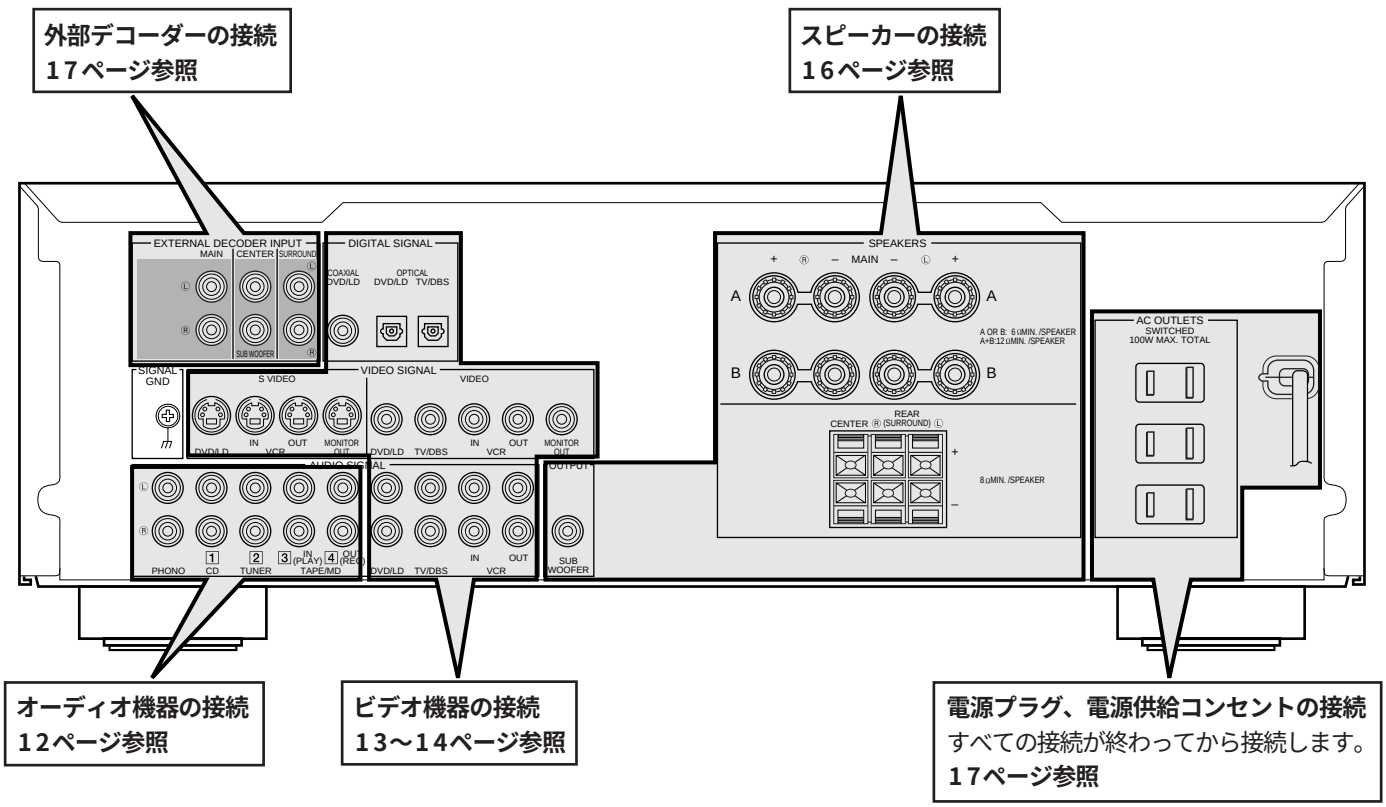
映像信号接続コード(コンポジット)



S映像信号接続コード

同軸デジタル接続コード

光デジタル接続コード



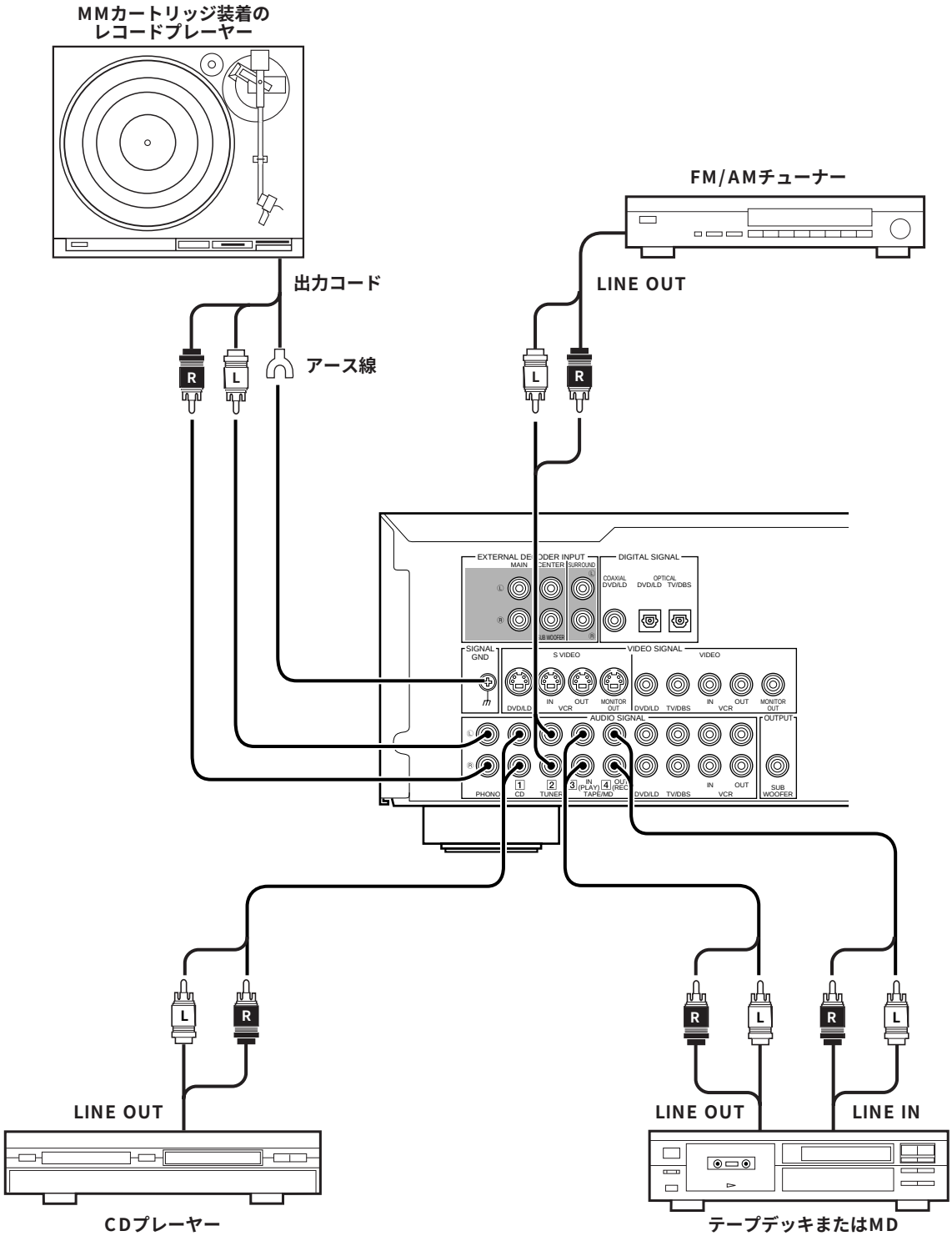
オーディオ機器の接続

右チャンネル(R)、左チャンネル(L)、入力(IN)、出力(OUT)を確認して正しく接続してください。

PHONO（フォノ）端子について

MMカートリッジまたは高出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続します。
低出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続するときは、昇圧トランスあるいは、MCヘッドアンプが別途必要になります。

- レコードプレーヤーによっては、まれにアース線を接続しない方がハムノイズが減少する場合があります。



ビデオ機器の接続

VCR、モニターの接続

AUDIO SIGNAL端子の接続（VCRのみ）

右チャンネル(R)、左チャンネル(L)、入力(IN)、出力(OUT)を確認して正しく接続してください。

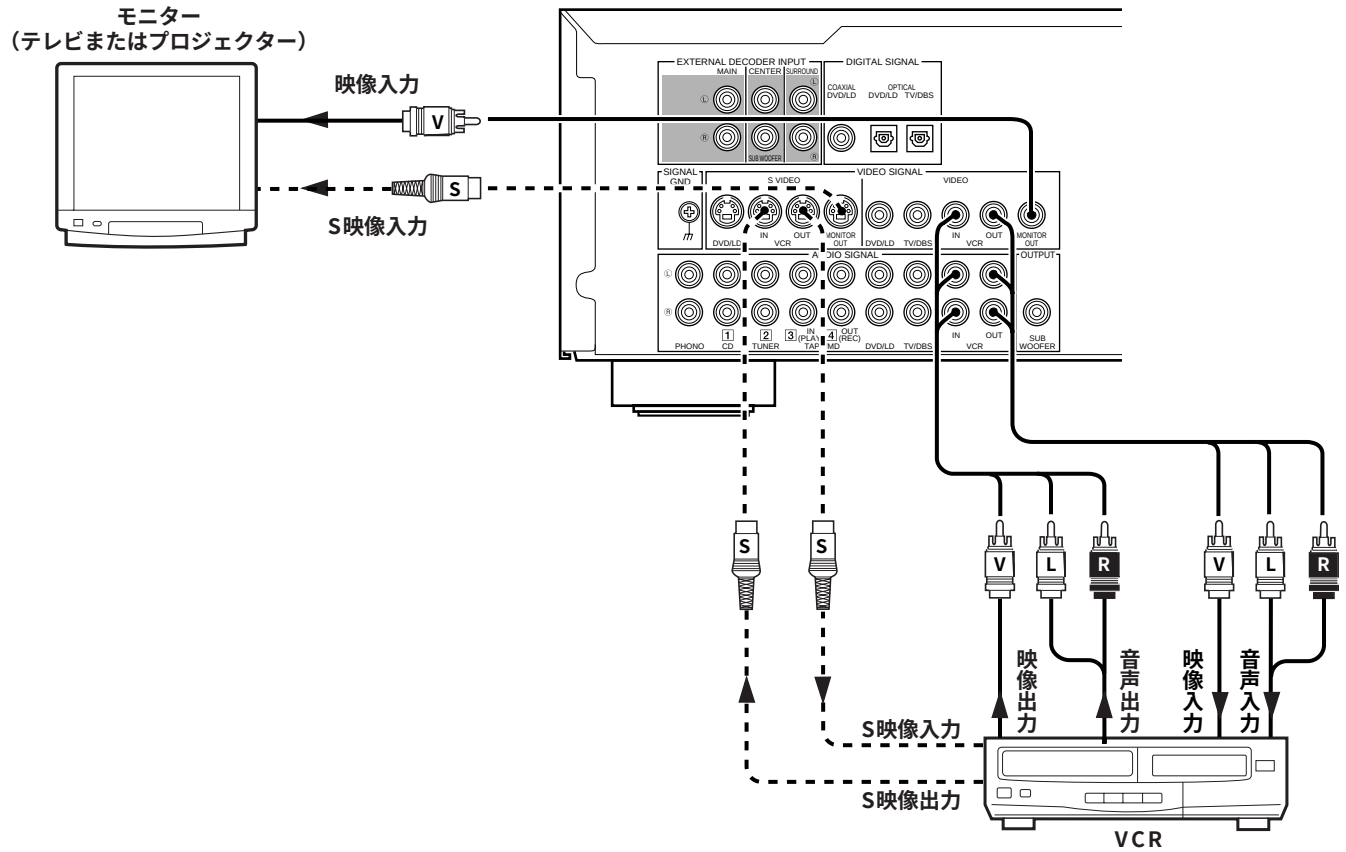
VIDEO SIGNAL端子の接続

入力(IN)、出力(OUT)を確認して正しく接続してください。

S VIDEO SIGNAL端子について

S VIDEO信号は、ビデオ信号（コンポジット信号）の輝度を表わす信号（Y信号）と、色を表わす信号（C信号）に分けて伝送する方式です。
S VIDEO端子を利用すると映像信号をロスなく伝え、より美しい映像で録画・再生が行えます。
S VIDEO端子に接続した機器の操作については、その機器の取扱説明書をご覧ください。

- S VIDEOの接続には専用のSビデオケーブルを用意してください。
- 本機では、S VIDEO端子とピンジャックのVIDEO端子間は独立しています。ピンジャックから入った信号はピンジャックに出力され、S VIDEO端子から入った信号はS VIDEO端子に出力されます。



DVD/LDプレーヤー、テレビ／BSチューナーの接続

AUDIO SIGNAL(アナログ)端子の接続

右チャンネル(R)、左チャンネル(L)を確認して正しく接続してください。

VIDEO SIGNAL端子の接続

再生機器の出力(OUT)と接続します。

DIGITAL SIGNAL(デジタル)端子の接続

本機のDVD/LD端子、TV/DBS端子は、ドルビーデジタル信号やテレビ／BSチューナーなどのデジタル信号をダイレクトに接続できるデジタル端子(COAXIAL[同軸]／OPTICAL[光])を装備しています。(デジタル端子はPCM*/ドルビーデジタルDTS兼用です。)

本機はドルビーデジタルおよびDTSデコーダーを内蔵しています

ので、DVD/LDデジタル端子に接続するだけでこれらの対応ソフトをドルビーおよびDTSデジタル再生でお楽しみいただけます。

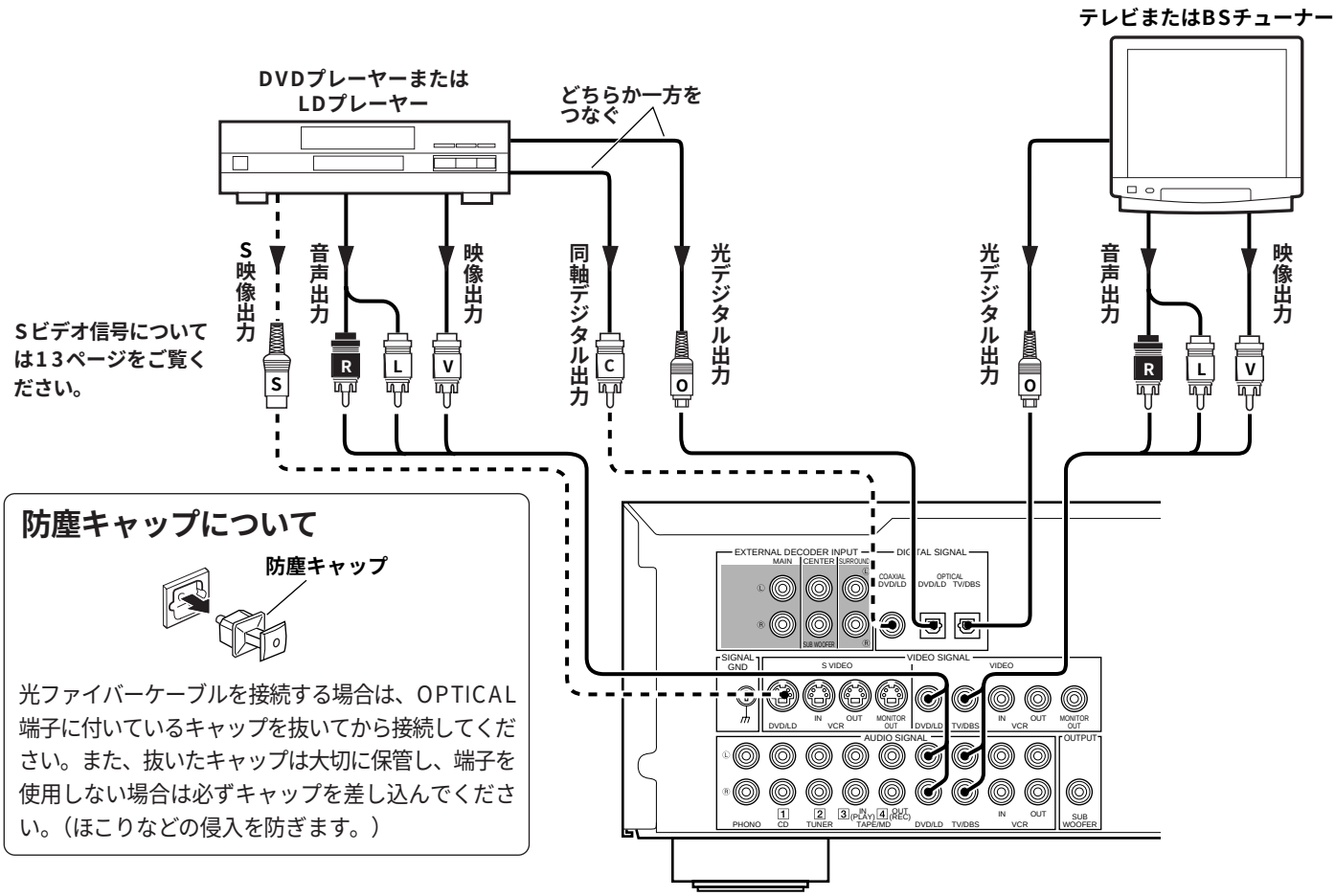
DVDまたはLDプレーヤーにデジタル出力端子がある場合は、本機のDIGITAL SIGNAL COAXIAL(またはOPTICAL) DVD/LD端子とつなぎます。

テレビまたはBSチューナーにOPTICALデジタル出力端子がある場合は、本機のDIGITAL SIGNAL OPTICAL TV/DBS端子とつなぎます。

COAXIAL端子に接続する場合はピンプラグコード(市販)を、OPTICAL端子に接続する場合は光ファイバーケーブル(市販)を使用してください。

*PCMについて

本機のデジタル入力端子は、サンプリング周波数32kHzの衛星放送Aモードから、CDディスクの44.1kHz、衛星放送BモードとDVDディスクの48kHzに対応しています。



防塵キャップについて

光ファイバーケーブルを接続する場合は、OPTICAL端子に付いているキャップを抜いてから接続してください。また、抜いたキャップは大切に保管し、端子を使用しない場合は必ずキャップを差し込んでください。(ほこりなどの侵入を防ぎます。)

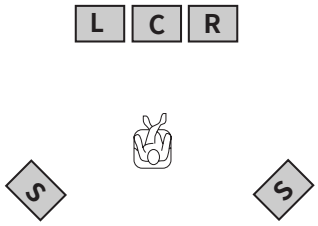
ご注意

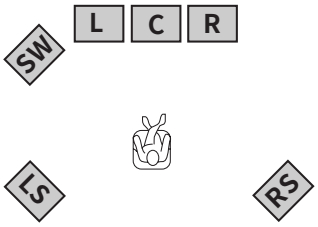
- デジタル端子の接続だけでなく、AUDIO SIGNAL端子(アナログ音声)も接続してください。デジタル音声を録音することはできませんが、デジタル・アナログ両端子が接続されていれば本機のINPUT MODEキーでアナログ音声信号を選んで録音することができます。
- 本機にLDプレーヤーなどのドルビーデジタルRF出力を直接接続することはできません。接続するには、ヤマハのAPD-1(別売)などのデモジュレーターユニットを使用してください。
- 本機のOPTICAL端子は、EIAJ規格に基づいて設計されています。EIAJ規格を満たさない光ファイバーケーブルを使用すると、正常に動作しないことがあります。

メモ

DVD/LDのCOAXIAL、OPTICAL両端子から同時にデジタル信号が入力されると、COAXIAL端子からの入力を優先します。

6(5・1)チャンネル音声について





ドルビープロ・ロジック		ドルビーデジタルおよびDTS
2	**記録チャンネル数**	6
4	**再生チャンネル数**	6
前方左右＋前方中央＋後方	**再生チャンネル構成**	前方左右＋前方中央＋後方左右＋低域効果音
マトリックス処理、ドルビー・サラウンド	**音声処理**	ディスクリート処理、ドルビーデジタルまたはDTSエンコード*1、デコード*2
16ビット	**信号処理ビット数**	20ビット
7kHz	**サラウンド音声の高域再生限界**	20kHz

*1 信号や情報を加工、圧縮、デジタル化することをエンコードといいます。エンコードすることで、非常に多くの信号、情報量を一枚のCDやDVDなどに収録することができます。
*2 エンコードされた信号はそのままでは音として聞くことができません。これをもとの信号に戻すことをデコードといい、音として聞くことができます。

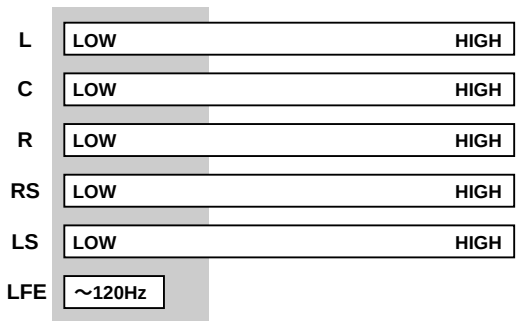
映画ソフトの音響システムを家庭で楽しむには、それなりの再生システムをリスニングルームに構築しなければなりません。従来の劇場用ドルビーステレオの場合は、ドルビープロ・ロジックという家庭用の規格「前方左右＋前方中央＋後方＝計4チャンネル」が用意されていました。
そして、劇場用ドルビーデジタルに対して、家庭用に生まれた規格が“ドルビーデジタル”や“DTS(デジタルシアターシステムズ)”の「前方左右＋前方中央＋後方左右＋低域効果音(LFE)＝計6チャンネル」です。
本機はドルビーデジタルおよびDTSデコーダーを搭載していますので、DVDプレーヤーやLDプレーヤーの再生するドルビーデジタルおよびDTSソフトを、それぞれのサラウンドサウンドシステムならではの臨場感にあふれた再生でお楽しみいただけます。

ご注意

ドルビーデジタルまたはDTS対応のDVDプレーヤーやLDプレーヤーを本機にデジタル接続しても、ドルビーデジタルやDTSでエンコードされていないディスク(ソフト)ではドルビーデジタル／DTS再生にはなりません。ドルビーデジタルまたはDTS対応のディスク(ソフト)を再生してください。

● LFEについて

ドルビーデジタルやDTSで導入されたLFEは、特殊な低域効果音、あるいは5チャンネル部に収録しきれない部分の低域音として使用されます。ただし「LFEチャンネルだけが、ドルビーデジタルのサブウーファー用信号ではない」ということに注意が必要です。下図のように、全チャンネルフル帯域化により、5チャンネルには、それぞれの方向情報を持った低域成分が含まれており、この低域をバランス良く再生することが、映画ソフトをサラウンド再生するときの最重要課題となります。
本機では、低域再生をより良く行えるように、スピーカーに応じた設定が可能です(23ページ)。また、LFEレベルを調整することも可能です。(38ページ)



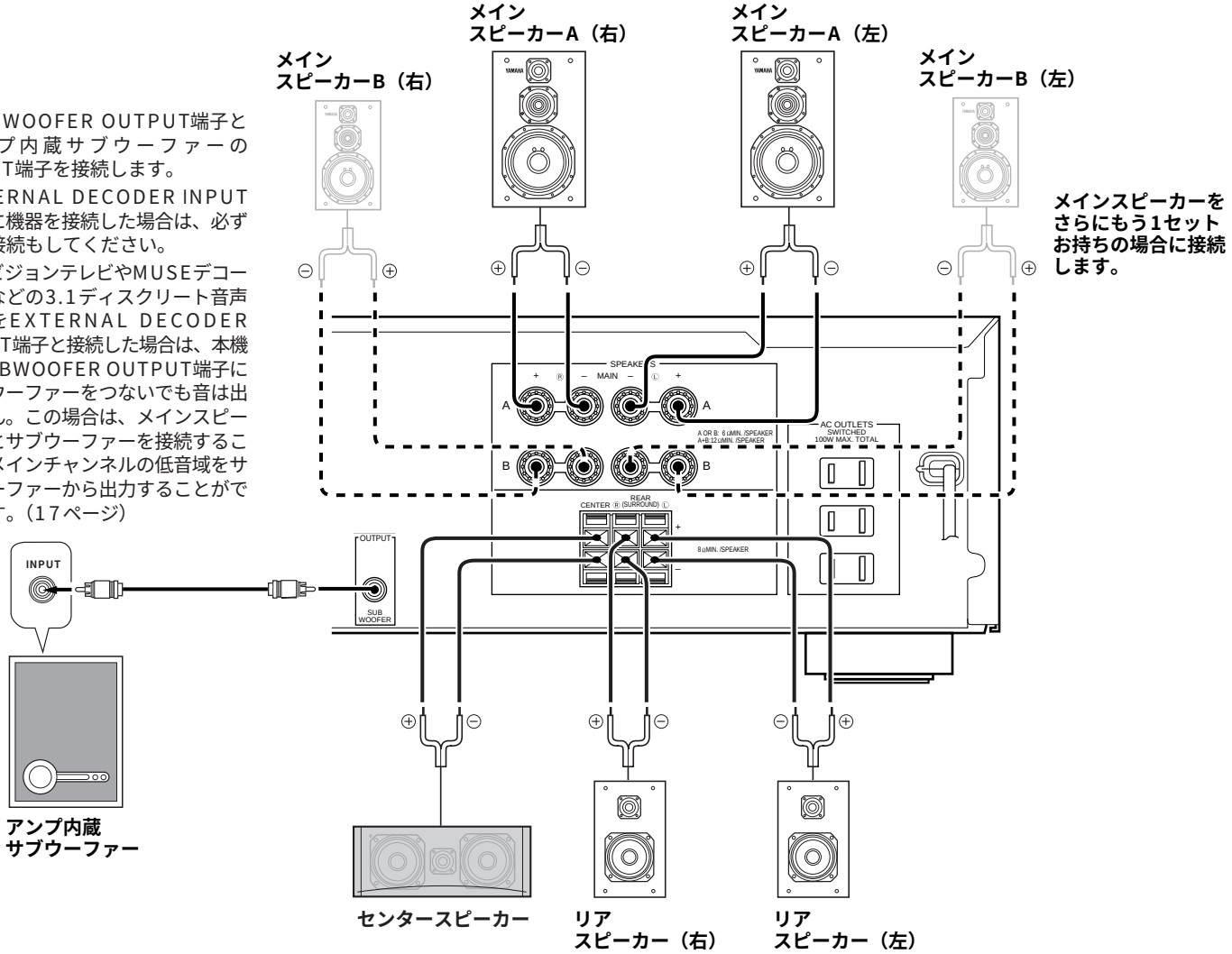
ドルビーデジタルとDTS(デジタルシアターシステムズ)

ドルビーデジタルとDTSは、今日、私たちが家庭で体験できる5.1チャンネルサラウンドサウンドシステムの双璧を成しています。両者のあいだには、エンコード時のデータ圧縮の違いはありますが、5.1チャンネル音声を基本とした優れたオーディオパフォーマンスの再現において、ほとんど差異は認められません。ドルビーデジタル、DTSにかかわらず、それぞれのソフト作成者の意図により(各チャンネルにどの音を割り当てるかなど)数々の特長を持った個性あるソフトが生み出されています。本機ではドルビーデジタルデコーダーとDTSデコーダーの両方を搭載したことにより、ドルビーデジタル対応およびDTS対応を問わずそれぞれのディスクの特長を生かしたオーディオパフォーマンスを体験できます。

スピーカーの接続

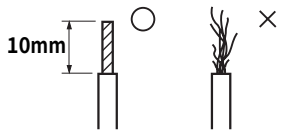
- 接続する際、右チャンネル(R)、左チャンネル(L)、“＋”(赤)、“－”(黒)を確認して正しく接続してください。極性(＋、－)を間違えて接続した場合、不自然な再生音となることがあります。
- メインスピーカーにはインピーダンスが6Ω以上のものを使用してください。メインスピーカーAとBを同時に使う場合は、インピーダンスが12Ω以上のスピーカーを接続してください。リア／センタースピーカーにはインピーダンスが8Ω以上のものを使用してください。それ以下のインピーダンスのスピーカーを使用すると、故障する恐れがあります。
- スピーカーコードの接続は、ショートしないように注意してください。ショートした状態で電源を入れると、保護回路が働き電源が切れる場合があります。このような場合は、電源コードを抜いてから、ショートしている箇所の接続をやり直してください。

- SUB WOOFER OUTPUT端子とアンプ内蔵サブウーファーのINPUT端子を接続します。
- EXTERNAL DECODER INPUT端子に機器を接続した場合は、必ずこの接続もしてください。
- ハイビジョンテレビやMUSEデコーダーなどの3.1ディスクリート音声端子をEXTERNAL DECODER INPUT端子と接続した場合は、本機のSUBWOOFER OUTPUT端子にサブウーファーをつないでも音は出ません。この場合は、メインスピーカーとサブウーファーを接続することでメインチャンネルの低音域をサブウーファーから出力することができます。（17ページ）



スピーカーコードの接続

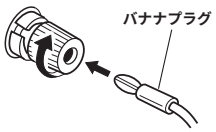
スピーカーコードの先端の絶縁部を10mm位はがし、しっかりとねじります。芯線がバラけているとショートしやすいのでご注意ください。



メインスピーカー端子

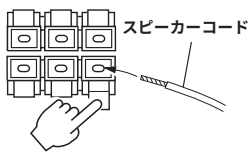
スピーカー端子を左にまわしてゆるめ、スピーカーコードをスピーカー端子の穴に差し込みます。スピーカー端子を右にまわしてしっかりと締めます。

市販のバナナプラグを使用する場合は、端子を強く締めてから差し込んでください。



センター／リアスピーカー端子

レバーを押してスピーカー端子の穴に差し込み、レバーを離します。コードがロックします。確実にスピーカーコードがロックされたか、コードを軽く引っ張って抜けないことを確認してください。



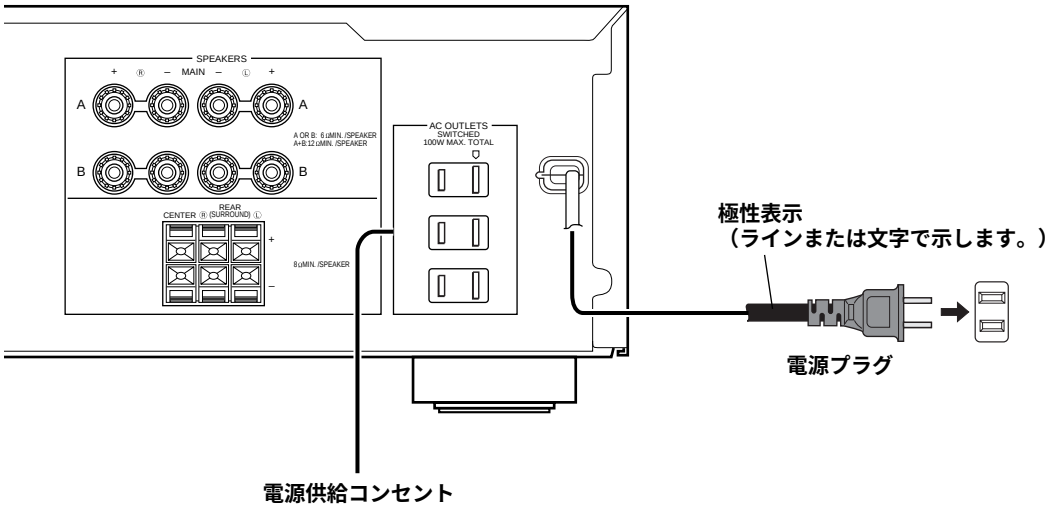
電源プラグ、電源供給コンセントの接続

電源プラグ

電源プラグは、すべての機器の接続が完了するまで、コンセントに差し込まないでください。
家庭用AC100V,50/60HzのACコンセントにプラグを差し込みます。本機の消費電力は270Wです。
本機の電源コードには電源トランスの巻始めが極性表示されています。プラグを差し替えて音質が変わるようでしたら、お好みの極性でお使いください。

SWITCHED AC OUTLETS（電源供給連動コンセント）

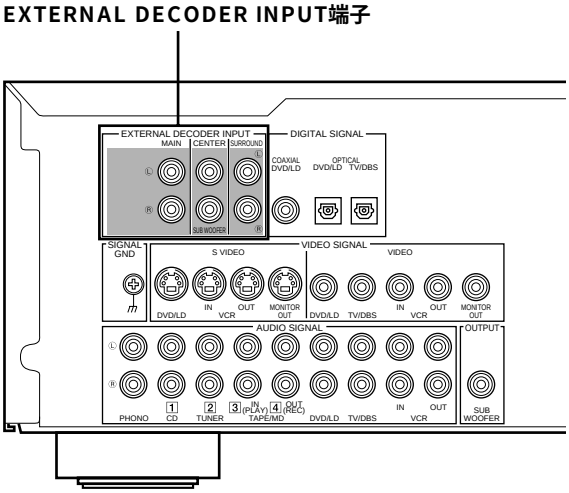
本機のPOWERスイッチと連動しており、3つのコンセントに合計消費電力が100Wまでのオーディオ機器に電源を供給することができます。
また本機コンセントの⏚マークの穴が電源トランスの巻始め側になっています。接続するオーディオ機器が極性表示されている場合には、極性を合わせて差し込んでください。



外部デコーダーの接続

本機のEXTERNAL DECODER INPUT端子は将来的発展が期待される多チャンネルディスクリート音声のデジタルテレビ放送などに対応しています。これらの音声をお楽しみいただくには、外部デコーダーなどのディスクリート音声出力端子（アナログ）を本機のEXTERNAL DECODER INPUT端子に接続します。

EXTERNAL DECODER INPUT端子

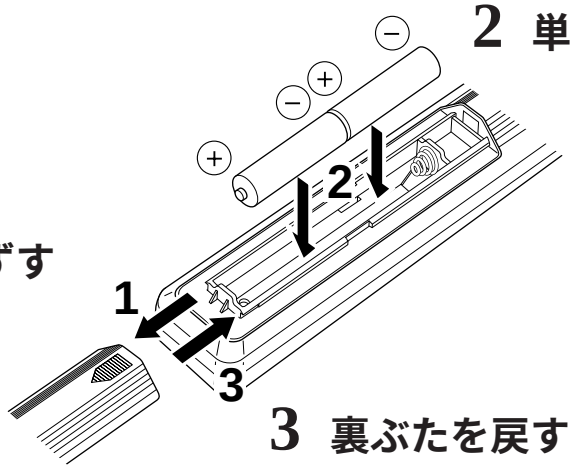


ハイビジョンテレビやMUSEデコーダのディスクリート音声（3・1）も接続できます。
ハイビジョンテレビ（デコーダー）の音声L、R出力およびセンター出力を本機のMAIN L、R INPUT端子およびCENTER INPUT端子に接続します。
サラウンド出力がステレオの場合は、市販のピンプラグケーブルを使って、本機のSURROUND L、R INPUT端子に接続します。（サラウンド出力がモノラルの場合は、市販の1P→2P分岐ピンプラグケーブルを使って本機のSURROUND L、R INPUT端子に接続します。）

サブウーファー出力について：
ハイビジョンテレビやMUSEデコーダーなどの3.1ディスクリート音声端子にはサブウーファー出力がありませんが、メインスピーカーのL、R端子にサブウーファーを接続すると、メインチャンネルの低音域をサブウーファーから出力することができます。接続については、サブウーファーの取扱説明書をご覧ください。

リモコンの準備

乾電池の入れかた



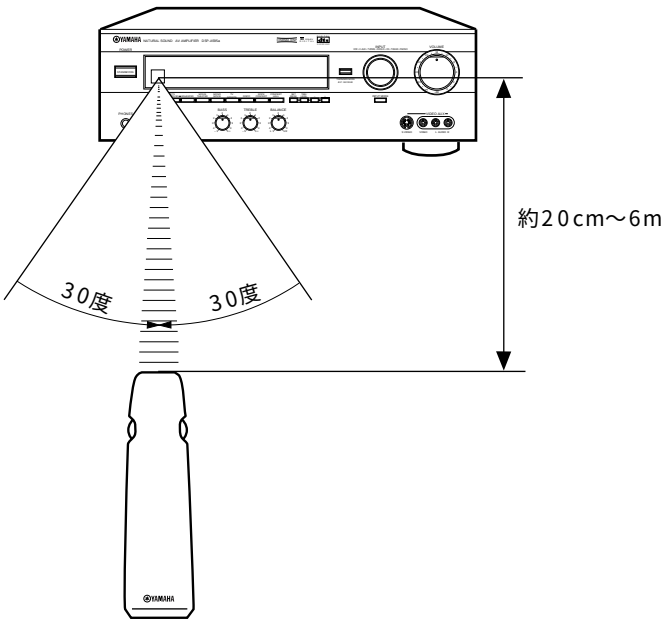
乾電池のご注意

乾電池は誤った使い方をすると、液もれが起きたり破れつすることがありますので、次の点に特に注意してください。

- 乾電池のプラス⊕とマイナス⊖の向きを表示どおりに正しく入れてください。
- 新しい乾電池と一度使用した乾電池をまぜて使用しないでください。
- 種類のちがう乾電池をまぜて使用しないでください。
  同じ形状でも電圧の異なるものがあります。
- 乾電池が使えなくなったり、本機を長い間使わないときは、乾電池を全部取り出してください。
- 乾電池には充電式と充電式でないものがあります。
  乾電池の注意表示をよく見てご使用ください。
- 液もれが起こったときは、ケースの中についた液をよくふき取ってください。

メーカーコードの保持について
乾電池は、使えなくなる前に早めに交換してください。乾電池の寿命がなくなったり、乾電池を取り出した場合、お客様ご自身でプリセットされたメーカーコードは約2分間保持されますが、2分以上経過すると消える場合がありますのでご注意ください。

リモコンの使用範囲



リモコン用乾電池の交換時期

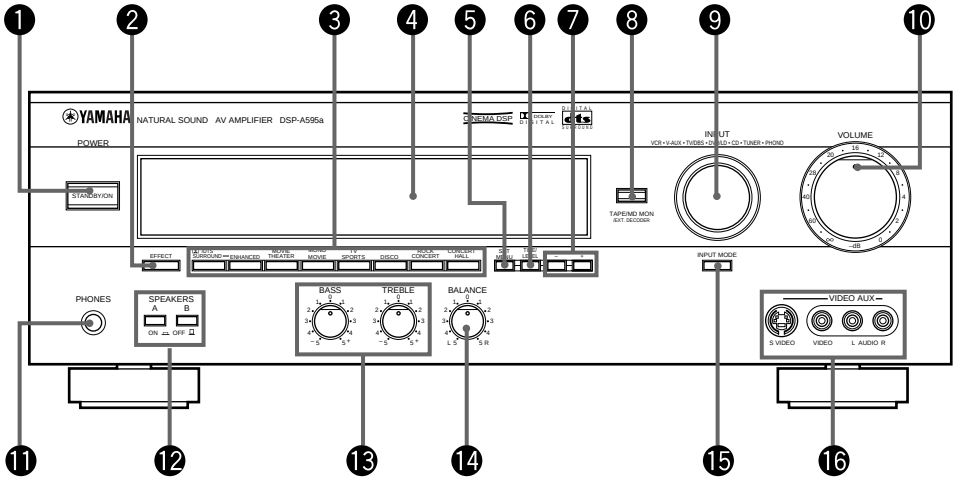
リモコン用乾電池の寿命は通常のご使用で約1年間です。
リモコン受信部に近寄らないと動作をしない場合は、乾電池を交換してください。

リモコン取扱上のご注意

- 受信部とリモコンの間に障害物があると操作できないことがあります。
- リモコンには衝撃を与えないでください。また、水にぬらしたり、温度の高い所には置かないでください。
- 受信部に直射日光や強い照明（インバーター蛍光灯など）が当たっているとリモコンが働きにくくなります。
  照明または製品本体の向きを変えてください。
- 他の機器のリモコンを同時に操作すると、動作をしないことがあります。

各部の名称とはたらき

フロントパネル



❶ **POWER STANDBY/ONスイッチ**（パワー スタンバイ／オン）

本機の電源を入／切します。
電源を入れるときは、音量を絞ってください。

- 電源が入っても、数秒間は本機のミューティング機能の働きにより音は出ません。

❷ **EFFECTキー**（エフェクト）

音場プログラムの効果をON/OFFします。OFFにすると、通常のステレオ再生になります。（センタースピーカーとリアスピーカーからの音は出ません。）

❸ **音場プログラムキー**

音場プログラムを選択します。（34ページ）

❹ **ディスプレイ**

入力ソース名や設定状態を表示します。（20ページ）

❺ **SET MENUキー**（セット メニュー）

セットメニューの項目を選びます。

❻ **TIME/LEVELキー**（タイム レベル）

ディレイタイム調節モードまたはスピーカー出力レベル調節モードを選びます。

❼ **－/＋キー**

セットメニュー項目の内容、ディレイタイム、スピーカー出力レベルを調節します。

❽ **TAPE/MD MON/EXT. DECODERキー**（テープ エムディー モニター エクスターナルデコーダー）

入力ソースに、テープデッキ／MDまたはEXTERNAL DECODER INPUT端子につないだ機器を選択します。キーを押すたびにTAPE/MD MON→EXT. DECDR→オフ（インプットセレクターで選んでいる機器の入力）の順に切り替わります。

❾ **INPUTセレクター**（インプット）

再生したいソースを選択します。（28ページ）

❿ **VOLUMEツマミ**（ボリューム）

全体の音量を調節します。右に回すほど音量が大きくなります。

⓫ **PHONES端子**（ホーンズ）

ヘッドホンを接続します。メインチャンネルの音が出力されます。ヘッドホンだけで聞くには、SPEAKERSスイッチ（A・B）をOFFにし、EFFECTキーでEFFECT OFFにしてください。

⓬ **SPEAKERSスイッチ**（スピーカーズ）

本機に接続されたメインスピーカーA・Bを選択します。A・B両方のスイッチをONにすると、A・B両方のメインスピーカーから音が出ます。

- SPEAKERSスイッチをON/OFFするときは、音量を絞ってください。

⓭ **トーンコントロール**

メイン左右チャンネルの低音（BASS）・高音（TREBLE）を調節します。

- トーンコントロール（BASS・TREBLE）は、メイン左右チャンネルだけに働き、センターおよびリアチャンネルには働きません。

⓮ **BALANCEツマミ**（バランス）

メイン左右チャンネルの音量バランスを調節します。0を基準にL側に回すほどR（右）側の音が小さくなり、R側に回すほどL（左）側の音が小さくなります。

ご注意

BALANCEコントロールは、メイン左右チャンネルだけにはたらき、センターチャンネル、リアチャンネルにははたらきません。

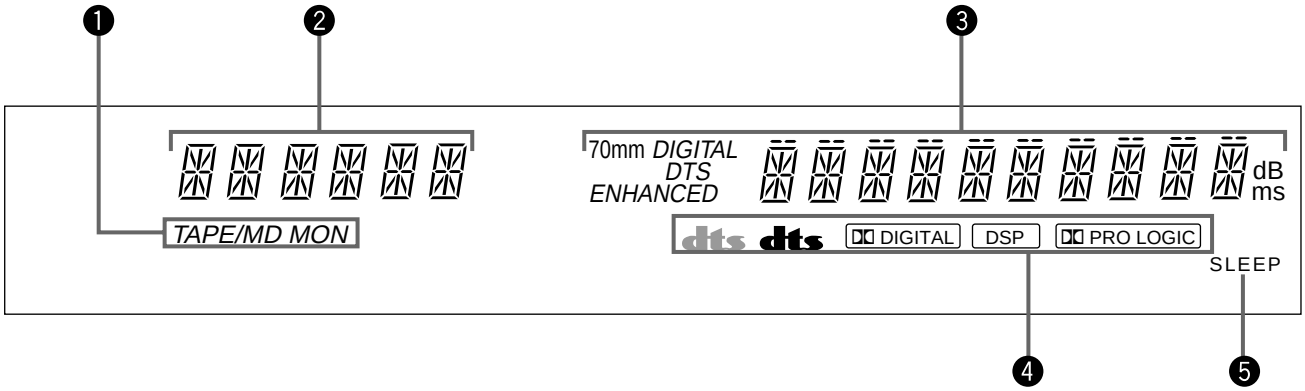
⓯ **INPUT MODEキー**（インプット モード）

DVD/LD、TV/DBSの入力をAUTO（信号に応じてデジタルとアナログが自動的に切り換わる）またはANALOG（アナログ信号固定）に切り換えます。

⓰ **VIDEO AUX入力端子**（ビデオ エーユーエックス）

8ミリビデオなどのビデオ機器を接続する予備入力端子です。
S VIDEO端子　：Sビデオの入力端子です。
VIDEO端子　：ビデオの入力端子です。
AUDIO L, R端子：オーディオ（音声）の入力端子です。
モノラルの場合は、L, Rどちらかの端子に接続してください。

ディスプレイ



❶ **TAPE/MD MONインジケーター**
入力ソースにTAPE/MDを選ぶと点灯します。

❷ **入力ソース名表示**

❸ **音場プログラム名／設定値表示**
選択した音場プログラム名、およびスピーカーレベルやディレイタイムなどのさまざまな設定値を操作に応じて表示します。

❹ **プロセッシングインジケーター**
DTSデコーダー（オレンジ色 dts：DVD、赤色 dts：LD）ドルビーデジタルデコーダー、ドルビープロロジックデコーダーの動作中、DSP音場処理中にそれぞれのインジケーターが点灯します。

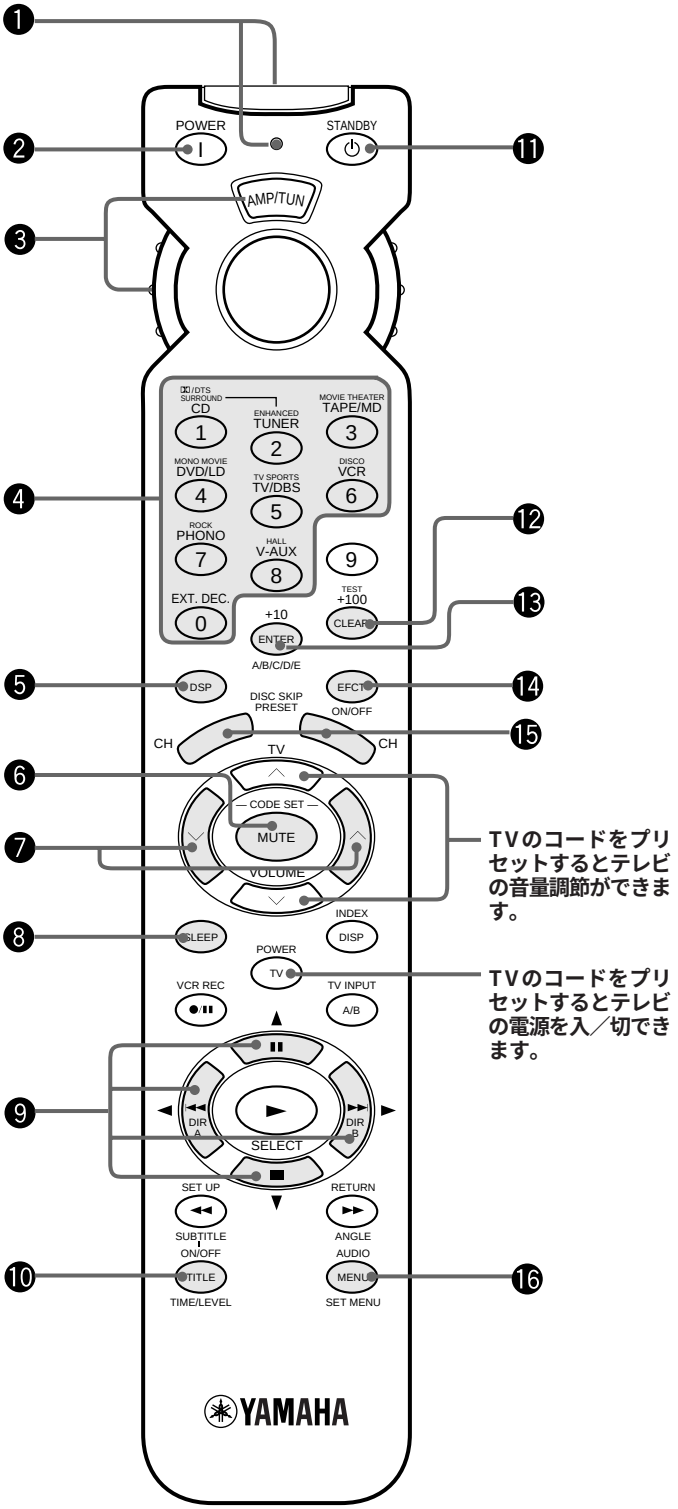
メモ

LDコンパチブルプレーヤーでDVDやビデオCDなどを再生したあとでDTS対応LDを再生した場合、オレンジ色の dts インジケーターが点灯することがありますが支障ありません。

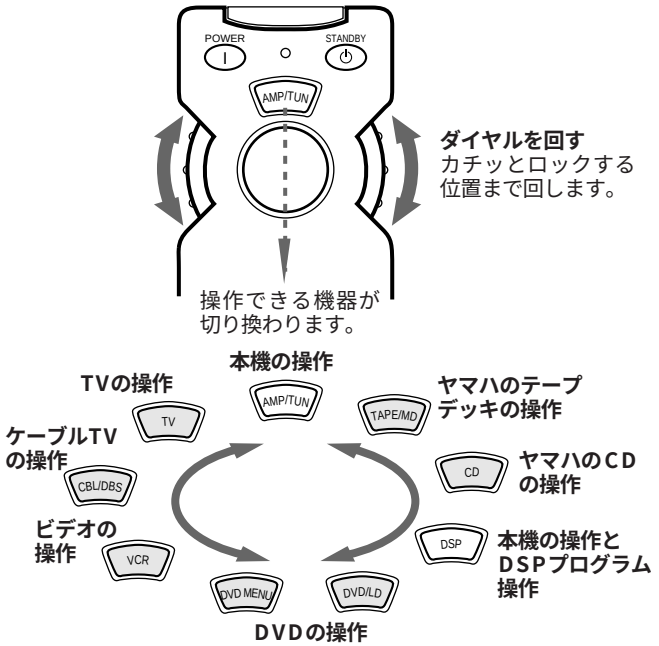
❺ **SLEEPインジケーター**
スリープタイマーの動作中に点灯します。

リモコン

本機のリモコンでは、ヤマハ各機器の操作はもちろんのこと、他メーカーの機器もそれぞれのメーカーコードをプリセットすると操作することができます（46ページ）。
ここでは、本機を操作するためのリモコン機能について説明します。（各機器の操作については41～45ページを参照してください。）



操作ポジションについて
本機のリモコンで本機および各機器を操作するには、まず操作ダイヤルで操作する機器を選んでからキーを押します。ダイヤルを回すと操作できる機器が表示されます。



メモ
上図の　　で示したポジションには、ヤマハ製品を含む各社のオーディオ、ビデオ機器のメーカーコードをプリセットして操作することができます。（46ページ）

アンプ／チューナーポジション

❶ **送信窓／送信インジケーター**
リモコンのコントロール信号を送信します。正しく送信されると送信インジケーターが光ります。

❷ **POWER（パワー）キー**
本機の電源を入れます。

❸ **操作ダイヤル／ポジション表示**
本機を操作するときは、ダイヤルを回して“AMP/TUN”表示にします（アンプ／チューナーポジション）。おもに音場プログラムを操作するときは、“DSP”表示にして操作します。（DSP操作ポジション：22ページ）

❹ **インプットセレクター／音場プログラムキー**
再生したいソースを選びます。（28ページ）
音場プログラムを選ぶには、DSPキーを押してから1～8のキーを押します。（34ページ）

❺ **DSPキー**（ディーエスピー）
音場プログラムを選ぶときに押します。DSPキーを押すと❶の送信インジケーターが約3秒間点灯し、インプットセレクター（1〜8）が一時的に音場プログラムキーに切り換わるので、この間に操作してください。
インプットセレクターに戻すには、もう一度DSPキーを押すか、❶の送信インジケーターが消えるのを待ちます。

❻ **MUTEキー**（ミュート）
本機の音を一時的に消します。ミュート中は“MUTE ON”が表示されます。解除するにはMUTEキーをもう一度押します。または、リモコンのインプットセレクター／音場プログラムキー、VOLUMEキー、EFCTキーなどのうち、どのキーを押しても解除できます。

❼ **VOLUMEキー**（ボリューム）
全体の音量を調節します。

❽ **SLEEPキー**（スリープ）
スリープタイマーを設定します。（39ページ）

❾ **セットメニュー設定キー／タイム・レベル調節キー**
▼／▲：セットメニューの設定項目、およびディレイタイム、スピーカー出力の調節項目を選びます。
◄／►：セットメニューの内容選択、およびディレイタイム、スピーカー出力を調節します。

❿ **TIME/LEVELキー**（タイム／レベル）
ディレイタイム、スピーカー出力を調整するときに押します。

⓫ **STANDBYキー**（スタンバイ）
本機の電源を切ります。

⓬ **TESTキー**（テスト）
テストトーンを入／切します。（26ページ）

⓭ **A/B/C/D/Eキー**
ヤマハのリモコン対応チューナーのプリセットグループを選びます。

⓮ **EFCTキー**（エフェクト）
音場プログラムの効果を入／切します。

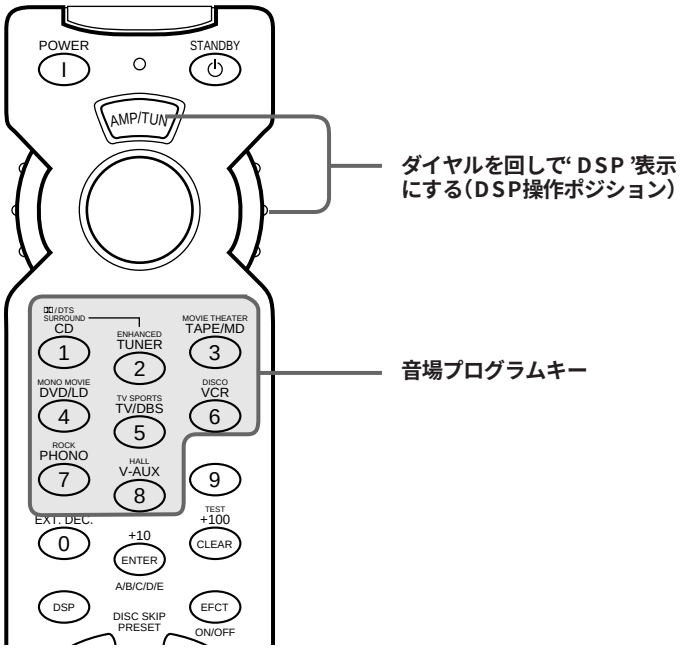
⓯ **CH－／＋キー**
ヤマハのリモコン対応チューナーのプリセットされた放送局を選びます。

⓰ **SET MENUキー**（セット　メニュー）
セットメニューを設定するときに押します。

ご注意
ヤマハBSチューナーDBS-1000を接続している場合、DBS-1000の電源が入っているときに本機の電源をリモコンで入／切すると、BSチャンネルが切り換わってしまいます。再度BSチャンネルを設定し直してください。

DSP操作ポジション

おもに音場プログラムを操作するときは、操作ダイヤルを回して“DSP”表示にすると便利です。DSP操作ポジションでは、インプットセレクターが音場プログラムキーに切り換わり、ダイレクトに音場プログラムが選べます。❺のDSPキーを押す必要はありません。



メモ
インプットセレクターによる入力選択と❺のDSPキー以外のすべてのキーはアンプ／チューナーポジションと同様に働きます。

ご注意
DSP操作ポジションでは、入力選択はできません。

スピーカーモードの設定<再生の前に>

ご使用になるスピーカーシステムに合わせて、5種類のスピーカーモード(センタースピーカー／リアスピーカー／メインスピーカー／バスアウト／メインレベル)を設定します。セットメニューの各スピーカーモードを呼び出しスピーカーモードの確認、および設定を行ってください。

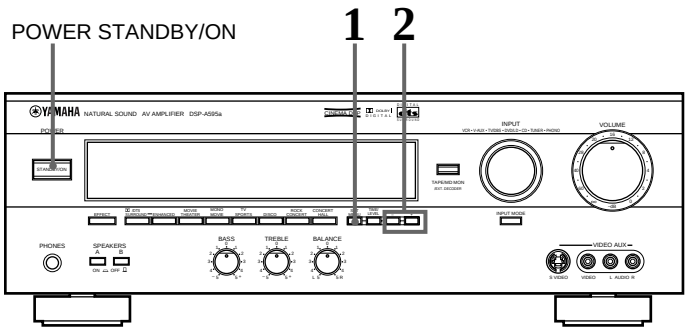
- 外部デコーダー入力(EXT. DECDR表示)のとき、スピーカーモード1～4の設定は出力に影響しません。メインスピーカーレベルのみが「5. M. LVL」の設定に従って出力されます。

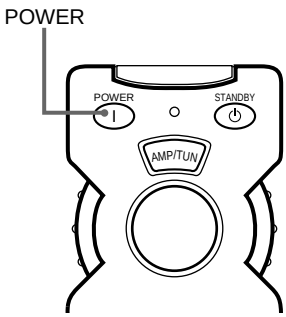
スピーカーモードの設定内容

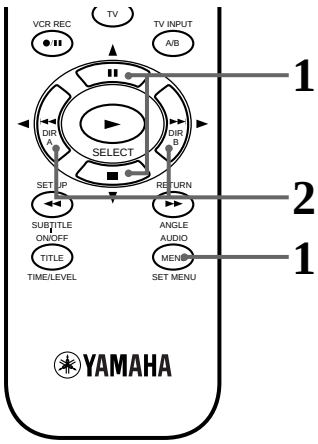
項目	設定内容	初期設定	可変範囲
センター **1. CNTR**	センタースピーカーの性能や有無に応じて、出力モードを選択します。	LARGE	LARGE/SMALL/NONE
リア **2. REAR**	リアスピーカーの性能に応じて、出力モードを選択します。	LARGE	LARGE/SMALL
メイン **3. MAIN**	メインスピーカーの性能に応じて、出力モードを選択します。	LARGE	LARGE/SMALL
バス **4. BASS**	LFE/BASS(低音)信号を出力するスピーカーを選択します。	SW	SW/MAIN/BOTH
メインレベル **5. M. LVL**	メインスピーカーレベルを選択します。	NRML	NRML/－10dB

設定のしかた

- 本体のPOWER STANDBY/ONキーまたはリモコンのPOWERキーを押して電源を入れます。



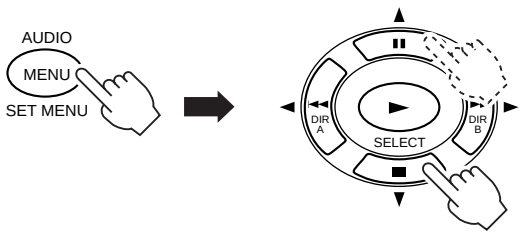




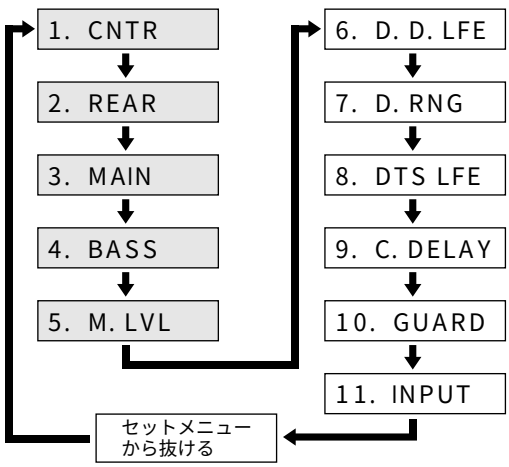
- リモコンで操作するときは、操作ダイヤルを回してAMP/TUNポジションにします。(DSP操作ポジションでも操作できます。)

1 SET MENUキーを何回か押して、設定したいスピーカーモードを表示させる

リモコンでは、SET MENUキーを押してから、▼／▲キーを何回か押して設定したいスピーカーモードを表示させる



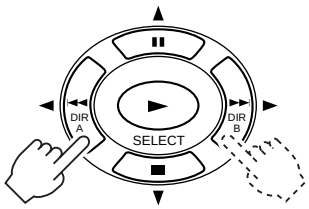
SET MENUキーまたは▼キーを押すと、セットメニューは次の順序で表示されます。1～5がスピーカーモードです。



- ▲キーを押すと逆順に表示されます。

2 **－／＋キーを押して設定する**

リモコンでは、◄／►キーを押して設定する



スピーカーモードの設定が終わったら

SET MENUキー（リモコンは▲／▼キー）を何回か押してセットメニューの表示を消します。

各スピーカーモードの設定内容

1. CNTR（センタースピーカーモード）

使用するセンタースピーカーに合わせて、モード（LARGE/SMALL/NONE）を選択します。

LARGE（ラージ）： センタースピーカーに大型のスピーカーを使用するモードです。センターチャンネル信号の全帯域を、そのままセンタースピーカーに出力します。

SMALL（スモール）： センタースピーカーに小型のスピーカーを使用するモードです。センターチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「4. BASS」（25ページ）で選択したスピーカーに出力します。

NONE（ノン）： センタースピーカーを使用していないときのモードです。センターチャンネル信号は、メインのL, Rスピーカーに同じレベルで振り分けられます。

ラージ

CNTR› LARGE

スモール

CNTR› SMALL

ノン

CNTR› NONE

2. REAR（リアスピーカーモード）

使用するリアスピーカーに合わせて、モード（LARGE/SMALL）を選択します。

LARGE（ラージ）: リアスピーカーに大型のスピーカーを使用したり、リアスピーカーへサブウーファーをスピーカーケーブル結線で接続して使用する場合（10ページ）のモードです。リアチャンネル信号の全帯域を、そのままリアスピーカーに出力します。

SMALL（スモール）: リアスピーカーに小型のスピーカーを使用するモードです。リアチャンネル（サラウンド）信号の90Hz以下の低音域は、「4. BASS」（25ページ）で選択されたスピーカーに出力されます。

ラージ

REAR› LARGE

スモール

REAR› SMALL

3. MAIN（メインスピーカーモード）

使用するメインスピーカーに合わせて、モード（LARGE/SMALL）を選択します。

LARGE（ラージ）： メインスピーカーに大型のスピーカーを使用するモードです。メインL, Rチャンネル信号の全帯域を、そのままメインL, Rスピーカーに出力します。

SMALL（スモール）： メインスピーカーに小型のスピーカーを使用するモードです。メインL, Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「4. BASS」（下記参照）で選択されたスピーカーに出力されます。

ラージ

MAIN: LARGE

スモール

MAIN: SMALL

4. BASS（バスアウトモード）

LFE/BASS信号を出力するスピーカーを選択します。
（LFE信号：ドルビーデジタルやDTSなどに含まれる低域効果音……15ページ）

SW（サブウーファー）: サブウーファーを使用する場合。
LFEと、1～3の設定により他チャンネルの低音域（90Hz以下）が、サブウーファーに出力されます。ただし、1～3の設定でLARGEまたはNONEが選択されている場合、LFEが含まれていない信号を再生しているときはサブウーファーから音は出ません。

MAIN（メイン）: サブウーファーを使用しない場合。
LFEと、1～3の設定により他チャンネルの低音域（90Hz以下）が、メインL/Rスピーカーに出力されます。

BOTH（ボース）: サブウーファーを使用し、さらにメインスピーカーモードの設定に関わりなく、メインスピーカーの低音域をサブウーファーにミックスする場合。
LFE、メインチャンネルの低音域（90Hz以下）と、1～2の設定により他チャンネルの低音域（90Hz以下）が、サブウーファーに出力されます。

サブウーファー

BASS: SW

メイン

BASS: MAIN

ボース

BASS: BOTH

メモ

“BOTH”に設定すると、「3. MAIN」（メインスピーカーモード）の設定にかかわらず、メインL、Rチャンネル信号の全帯域がそのままメインL、Rスピーカーに出力されます。

5. M. LVL（メインレベルモード）

メインスピーカーの音量レベルを選択します。テストトーンでのスピーカーレベル調整（26ページ）の際に設定しておけば、再度設定する必要はありません。

NRML（ノーマル）: 通常はこの設定にします。テストトーンでのスピーカーレベル調整も、まずこの設定で行います。

－10dB: テストトーンでのスピーカーレベル調整の際、リア・エフェクトスピーカーおよびセンタースピーカーの音量レベルを最大（＋10dB）にしてもメインスピーカーよりも音が小さい場合は、この設定にします。メインスピーカーの音量レベルを約1/3に下げることができます。

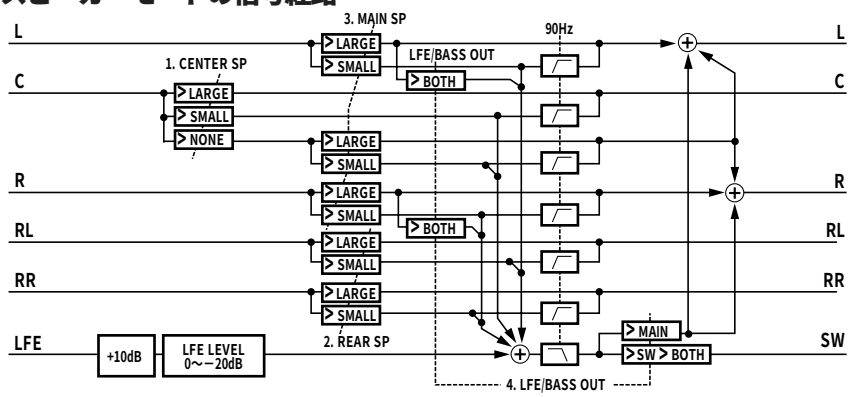
ノーマル

M.LVL: NRML

－10dB

M.LVL: -10dB

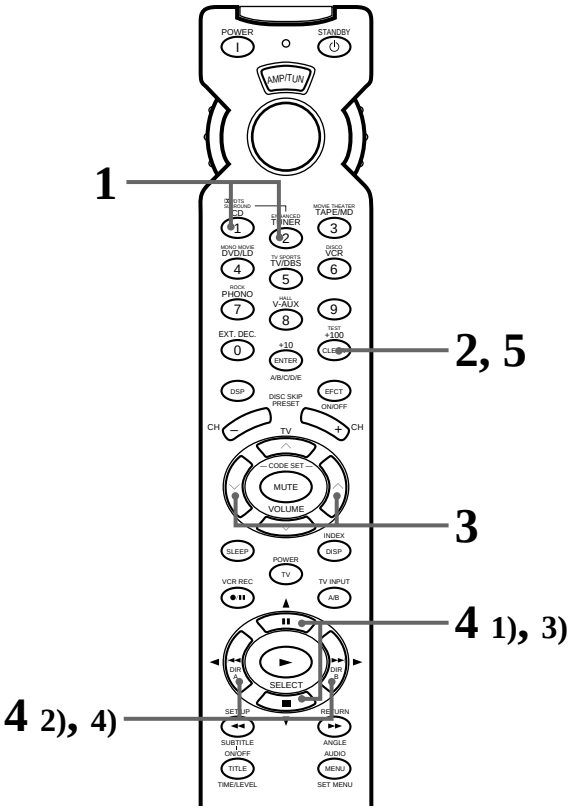
スピーカーモードの信号経路



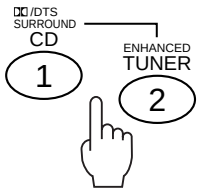
スピーカーレベルの調節＜再生の前に＞

テストトーンを聞きながら、設置した各スピーカーの音量レベルが同じになるように調節します。一度調節すれば、スピーカーや部屋を変えたりしない限り、再度調節する必要はありません。

- リモコンで操作します。操作ポジションが“AMP/TUN”または“DSP”になっていることを確認してください。
- 実際の視聴位置で調節してください。
- 左右のメインスピーカーの音量バランスは、あらかじめ本体のBALANCEツマミで調節しておきます。



1 DD/DTS SURROUNDキーまたはDD/DTS SURROUND ENHANCEDキーを押す



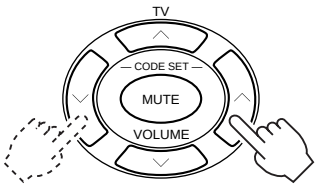
操作ポジションが“AMP/TUN”のときはDSPキーを押してから音場プログラムを選びます。

2 TESTキーを押す

各スピーカーからテストトーンが約2.5秒づつ聞こえ、次のように表示されます。

センターモードのNONEを選んでいるときは、センタースピーカーからテストトーンは出ません。

3 通常お聴きになる音量になるようにテストトーンの音量をVOLUMEで調節する



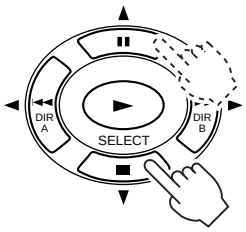
- テストトーンが聞こえない場合や、スピーカーの表示と聞こえる位置が違うときは、VOLUMEを絞り電源を切ってから、スピーカーの接続を確認してください。

4 センタースピーカーとリアスピーカーの音量を調節する

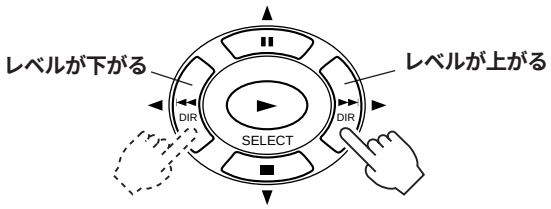
調節するスピーカーを選ぶには：▲／▼キーを押して調節するスピーカー表示（CENTER、L SUR.、R SUR.）にします。同じキーを押し続けると、選択したスピーカーにテストトーンを固定することができます。
音量調節するには：◄／►キーを押します。調節中のスピーカーにテストトーンが固定されます。

- センター、リアL、リアRからテストトーンが出ているときは、◄／►キーでテストトーンを出しているスピーカーの音量調節ができます。▲／▼キーでスピーカーを選ぶ必要はありません。

1) **センタースピーカーの音量調節：**
▲／▼キーを押して“CENTER”表示にする

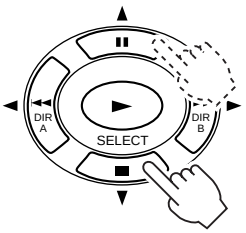


2) **センタースピーカーの音量がメインスピーカーの音量と同じになるように◄／►キーを押して調節する**

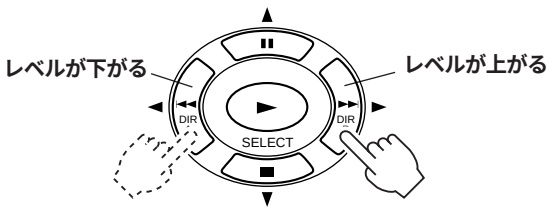


● センターモードがNONEのときはセンターレベルの調節はできません。また、メインスピーカーに振り分けられたセンターチャンネルの音量も調節できません。

3) **リアスピーカーの音量調節：**
▲／▼キーを押して“L SUR.”または“R SUR.”表示にする



4) **リアスピーカーの音量がメインスピーカーの音量と同じになるように◄／►キーを押して調節する**



3)と4)の手順をくり返して左右のリアスピーカーの音量を調節してください。

5 **調節が終わったら、TESTキーを押す**

テストトーンが消えます。

調節できるレベルの範囲

MINと－20dBから＋10dBです。調節したレベルが約1秒表示されます。MINのときは音量が最小になります。

入力が外部デコーダー（EXT. DECDR表示）のとき

TESTキーを押すと2チャンネルプロロジックに切り換わり、センター、リアのレベル調節ができます。

ご注意

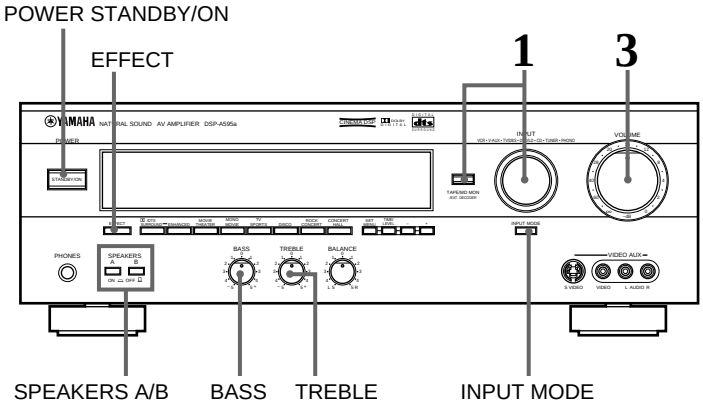
テストトーンでの調節では、メインスピーカーの音量を変えることはできません。

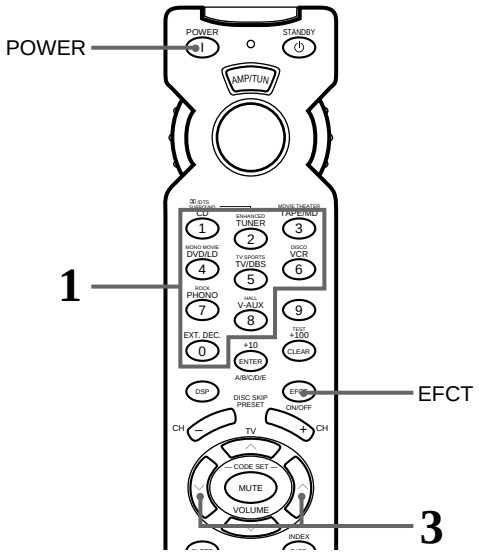
メモ

リア・エフェクトスピーカーおよびセンタースピーカーの音量レベルを＋10dBまで上げてもメインスピーカーより音が小さい場合は、セットメニューの「5. M. LVL（メインレベル）」を“－10dB”に設定します（25ページ）。メインスピーカーの音量レベルを約1/3に下げることができます。メインレベルを変更した場合は、センタースピーカー、リアスピーカーのレベル調整をもう一度行ってください。

再生する

VOLUMEを絞ってからPOWER STANDBY/ONスイッチまたはリモコンのPOWERキーを押して電源を入れます。メインスピーカーを2組接続している場合は、SPEAKERSスイッチで使用するスピーカーを設定します。





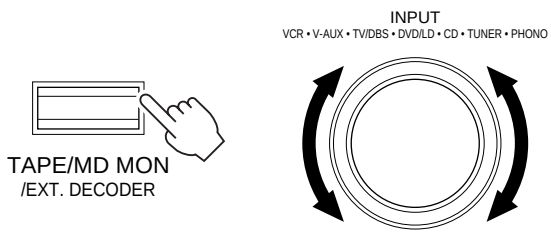
● リモコンで操作するときは、操作ダイヤルを回してAMP/TUNポジションにします。

1 インプットセレクターで再生するソースを選ぶ

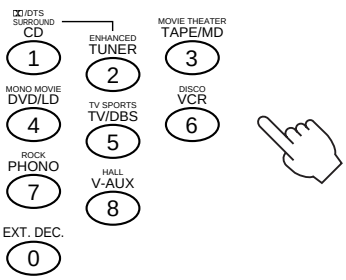
本体では、インプットセレクターを回して再生するソース名を表示させます(テープ／MDまたは6チャンネルディスクリート音声を聴くときは、TAPE/MD MON/EXT. DECODERキーを1回または2回押して再生するソース名を表示させます)。

リモコンでは再生するソースのインプットセレクターを押します。

<本体>



<リモコン>



オーディオ系

CD：　CDを聴く。
TUNER：　AM/FM放送を聴く。
PHONO：　レコードを聴く。
TAPE/MD MON/EXT. DECODER：
TAPE/MDのソースまたはEXTERNAL DECODER INPUT端子に入力した6チャンネルディスクリート音声を聴く。

本体のTAPE/MD MON/EXT. DECODERキーを押すたびにTAPE/MD MON→EXT. DECDR→オフ(TAPE/MD MON/EXT. DECODERキーを押す前に選んでいた入力)の順に切り換わります。

テープまたはMDを聴くときは、TAPE/MD MONインジケーターを点灯させます。(リモコンではTAPE/MDキーを押します。)

6チャンネルディスクリート音声を聴くときは“EXT. DECDR”表示にします。(リモコンではEXT. DEC.キーを押します。)

ビデオ系

VCR：　ビデオを見る。
VIDEO AUX：前面のVIDEO AUX端子に接続したAV機器を再生する。
TV/DBS：　テレビ放送または衛星放送を見る。
DVD/LD：　DVDまたはLDを見る。

DVD/LDまたはTV/DBS入力信号の切り換え

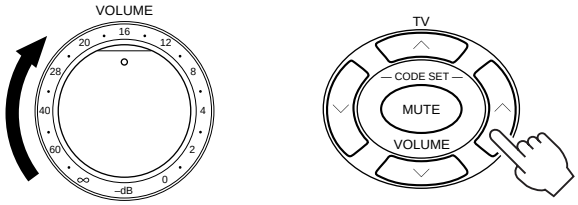
DVD/LDまたはTV/DBSを選ぶと、ソース名と入力モード*(AUTO/DTS/ANLG)が表示されます。その他の入力を選ぶと、ソース名だけが表示されます。
*入力モードについては、30ページを参照してください。

2 ソースの再生を始める

● 再生する機器の取扱説明書をご覧ください。

3 VOLUMEで音量を調節する

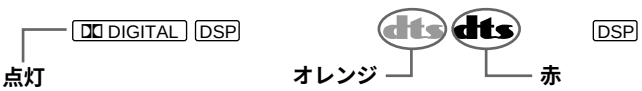
<本体>　　<リモコン>



必要ならば、音質をトーンコントロール(BASS、TREBLE)で調節します。「音質調節」を参照してください。

ドルビーデジタル信号やDTS信号を入力したときの表示

ドルビーデジタル信号を入力　　DTS信号を入力



デジタル入力端子からドルビーデジタル信号を入力すると、本体のディスプレイに DIGITAL インジケーターが点灯します。また、デジタル入力端子からDTS信号を入力するとdtsインジケーターが点灯します。DTS対応のLDを入力すると赤色のdtsインジケーターが、DTS対応のDVDを入力するとオレンジ色のdtsインジケーターが点灯します。DTS対応LDの入力時にオレンジ色のdtsインジケーターが点灯しても支障ありません。(50ページ)

ご注意

● DTS対応LDの再生中、“INPUT DATA ERR”と表示され、音が出なくなった場合は、再生を止めてからプレーヤーの電源を入れ直してください。

BGV機能

本体、リモコンのインプットセレクターでビデオ系ソースを選択した後、オーディオ系ソースを選択すると、映像はそのまま残り、BGV(バックグラウンドビデオ)として楽しむことができます。

音場プログラムを選ぶには

音場プログラムキーを押します。詳しくは34ページをご覧ください。

通常のステレオ再生

EFFECTキー(リモコンではEFCTキー)を押して“EFFECT OFF”表示にします。リア、センタースピーカーからの音は出ません。

● 入力をEXT. DECDR(外部デコーダー)にすると本機の音場プログラムは選べません。

ご注意

● TAPE/MD MONインジケーターが点灯していると、他のソースを選んでも音は聞こえません。テープデッキやMDを再生しないときはTAPE/MD MON/EXT. DECODERキーを押してTAPE/MD MONインジケーターを消してください。(リモコンではTAPE/MDキーを一度押します。)

● REC OUT端子に接続されている機器の電源が切られている場合、聴いているソースの音量が下がったり、歪んだりすることがあります。そのようなときは、接続機器の電源を入れてお使いください。

音質調節

BASS

低音域を調節するツマミで、右(+)に回すほど低音域が強調され、左(−)に回すほど弱まります。
0の位置でフラットな特性になります。

TREBLE

高音域を調節するツマミで、右(+)に回すほど高音域が強調され、左(−)に回すほど弱まります。
0の位置でフラットな特性になります。

● トーンコントロール(BASS・TREBLE)は、メイン左右チャンネルだけに働き、センターおよびリアチャンネルには働きません。

● トーンコントロール(BASS・TREBLE)でメインを極端に強調したり弱めた場合、センターおよびリアとの音のつながりが悪くなりますので注意してください。

一時的に音量を下げるには

リモコンのMUTEキーを押します。もういちど押すともとの音量に戻ります。または、リモコンのインプットセレクター/音場プログラムキー、VOLUMEキー、EFCTキーなどのうち、どのキーを押してもミュートを解除できます。

● ミュート中は“MUTE ON”を表示します。

入力モードについて

本機のDVD/LDとTV/DBS端子にはデジタル端子(OPTICAL、COAXIAL[DVD/LDのみ])とアナログ端子が装備されています。入力モードは、これらの入力端子の優先／固定を切り換えることにより、ソースに収録されているデジタル音声、アナログ音声をそれぞれ楽しんでいただける機能です。入力モードにはこれに加えて、DTS対応ディスク用に「DTS」固定モードがあります。

AUTO: MODE> AUTO

「ドルビーデジタル→デジタル(DTS)→デジタル(PCM)→アナログ」の優先順位で信号を選択します。

DTS: MODE> DTS

DTS信号固定。

ANLG: MODE> ANLG

アナログ入力固定。アナログ端子から入力された信号を再生します。

メモ

DVD/LDのCOAXIAL端子とOPTICAL端子に同時にデジタル信号が入るとCOAXIAL端子からの信号を優先して入力します。

入力モードの切り換えかた

本体のINPUT MODEキー、またはリモコンのインプットセレクター(DVD/LDまたはTV/DBS)を押すと現在の入力モードを表示します。入力モード表示中にもう一度押すと入力モードを切り換えることができます。

ご注意

- DVD/LDの入力モードは電源を切ると“AUTO”にリセットされます。
- TV/DBSの入力モードは電源を切るとセットメニュー「11. INPUT」(38ページ)での設定にリセットされます。
- デジタル音声が入っていないLDソフトでは、入力モードを“ANLG”(アナログ)に設定してください。
- DVD/LD入力での“AUTO”モードは、ドルビーデジタル音声入りのLDを検出すると自動的にデコーダーが切り換わるため、何も操作しなくてもドルビーデジタル音声が楽しめます。また、DVD/LDプレーヤーの通常の再生中以外では、ドルビーデジタル信号が検出されなくなるため、自動的にデコーダーがPCMに切り換わります。
- DVD/LDのドルビーデジタル音声再生時、ポーズ／チャプター送りなどから再生に切り換えると、ドルビーデジタル音声に切り換える前に、PCM／アナログ音声が一瞬出力されることがあります。
- 再生機器によっては、アナログとデジタルで異なる信号を出力する場合があります。必要に応じて入力モードを切り換えてください。

DTSソースの再生と入力モードの切り換えについて

- DTS対応のLDを“AUTO”の設定で再生すると、最初に本機がDTS信号を識別してDTSデコーダーが作動するまで短時間のあいだノイズが発生します。故障ではありませんが、これを避けるためには入力モードを“DTS”にしてください。
  また、DTS対応のLDを“AUTO”の設定のまま再生し続けると、本機は自動的に「DTS固定」となりその後のノイズ発生を防止します(赤色のdtsインジケーターが点灯)。この状態から通常のPCMのCDやLDを再生しても音が出ません(赤色のdtsインジケーターが点滅)。これらのディスクを再生するには、入力モードを“DTS”から“AUTO”に戻してください。
- DTS対応のLDを“ANLG”(アナログ)の設定で再生すると、DTSエンコード信号をそのまま再生するためノイズが出力されます。**DTSソースを再生するときは必ずデジタル入力端子に接続し、“AUTO”または“DTS”に設定してください。**

DTS信号の入力について

デジタル出力を持つLDプレーヤーおよびDTS対応DVDプレーヤーを本機のデジタル入力端子に接続するだけでDTS対応ディスクをお楽しみいただけます。本機はこれらのDTS信号を自動識別し、LDのDTS信号を入力すると通常赤色のdtsインジケーターが点灯し、DVDのDTS信号を入力すると通常オレンジ色のdtsインジケーターが点灯します。

※ LDのDTS再生において、オレンジ色のインジケーターが点灯することがあっても支障ありません。(50ページ)

DTS対応ディスクを再生するために特別な操作は必要ありませんが、入力モードの設定によりDTS信号の優先／固定を選択できます。

入力モード	入力信号の優先および固定
AUTO	DTSデジタル優先
DTS	DTSデジタル固定

ご注意

- デジタル出力のレベルが調整できるデジタル機器でDTS対応ソフトを再生する場合は、出力レベルを最大またはニュートラル(フラット)にします。これは、DTSデータをエラーなく本機に出力させるためです。この操作を行わないと、DTS対応ソフトは再生できないので注意してください。
- 一部のプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしてもDTS再生ができない場合があります。プレーヤーのデジタルアウトデータに何らかの処理がされている場合、通常のデジタル音声ではわずかな音量差やわずかな周波数特性差にしかならない処理でも、DTSデータではエラーを生じ、再生ができなくなるからです。
- DTS対応のLDの再生中に、状況によってはプレーヤーのデジタル出力にエラーが生じることがあり、“INPUT DATA ERR”と表示されます。この場合、再生を止め、プレーヤーの電源を入れ直してください。

音場効果を楽しむ

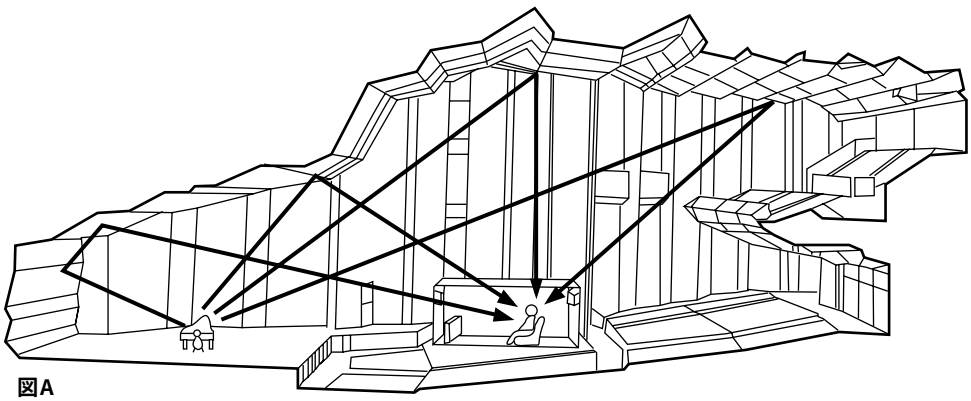
本機は、ドルビームービーサウンドを忠実に再生するムービーサウンド音場や、より幅広い表現力を持つCINEMA DSP音場プログラムに加え、世界各国の著名な演奏会場での実測データをもとに作成されたHiFi-DSP音場プログラムを内蔵しています。メモリーされている音場プログラムは13種類。再生するときに音場を呼び出し、その臨場感と効果をお楽しみください。

音場とは

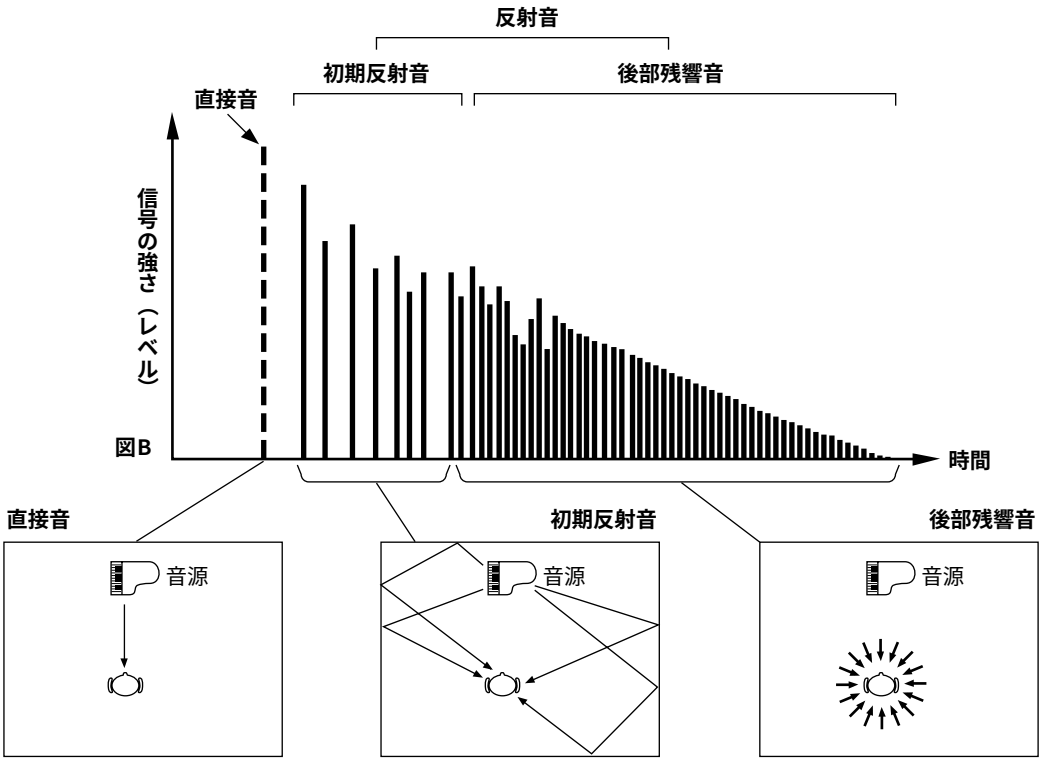
「その空間が持つ特有な音の響き」を音場と呼んでいます。
コンサートホールなどで、私たちは、楽器の音や歌手の声が直接聴こえてくる「直接音」のほかに、床や壁・天井などに一回反射してから聴こえてくる「初期反射音」、さらに何回も反射をくり返し、次第に減衰していく「後部残響音」を聴くことになります。（図A）
私たちは、直接音、初期反射音、後部残響音の一連の流れを一つの音として聴いているわけです。

反射音は、壁などに反射してから耳に到達するため、直接音より遅れてきます。そして時間経過とともに、壁や床・天井などに吸音され、直接音よりレベルが小さくなります。（図B）
これらの初期反射音と残響音の構成は、建物内部の形状や広さ、内装材料の種類などによって異なり、そのホール特有の響きが生まれます。それが「**音場**」です。

ヤマハでは、世界の著名なコンサートホールやオペラハウスなどで、反射音の方向・強さ・帯域特性・遅延時間などの音場情報を実際に測定し、その膨大なデータをROMに蓄積しています。
本機は、音場を再現するヤマハDSP（デジタルサウンドフィールドプロセッサー）を搭載、この音場実測データをもとに作成された音場プログラムを自由に選択し、著名ホールやライブハウスの音場をリスニングルームに再現することができます。



図A



図B

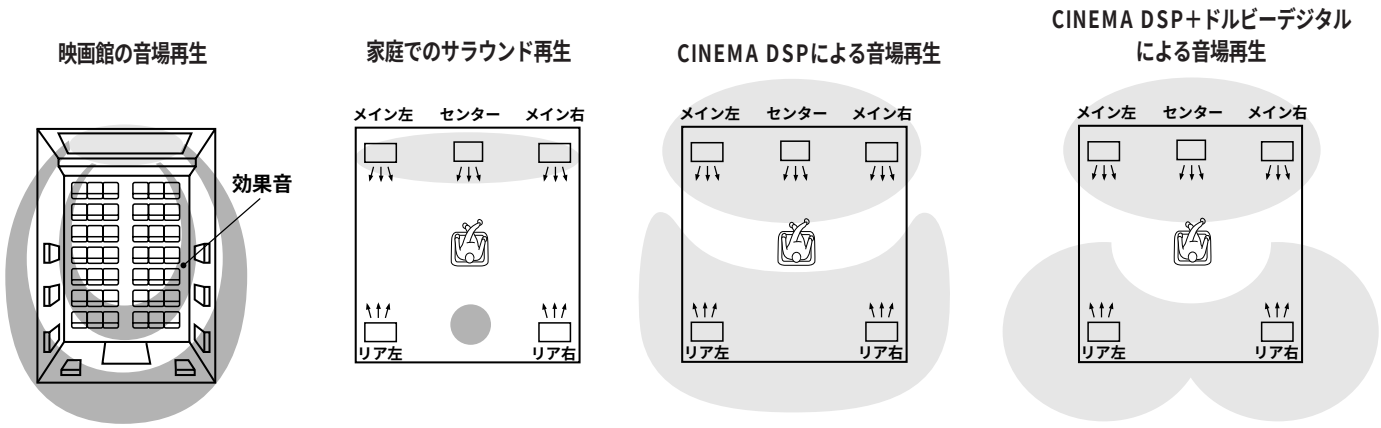
音場プログラムの詳細は32〜33ページをご覧ください。

CINEMA DSP音場プログラムの特長

映画製作者の意図するサウンドは、セリフは明瞭にスクリーン上に定位し、効果音はその奥、音楽はさらにその奥に拡がり、そしてサラウンドは視聴者を取り囲んでスクリーンの映像と一体になるようにデザインされています。

ヤマハDSPをAV再生用に進化させたプログラムが「CINEMA DSP」です。映画のサラウンドデコーダーであるドルビープロ・ロジックやドルビーデジタルとヤマハDSPを融合し、映画のサラウンドを最良の状態でデザインするダビングステージ(最終的な映画のサウンドデザインを完成させるファイナルミックス)でのクオリティをAVルームに再現するサラウンド音場です。
CINEMA DSPの音場プログラムでは、メインL/R、センターチャンネルにもヤマハDSP処理を加えることで、視聴者はセリフの実在感や効果音、音楽の奥行き感とともに、スムースな音源の移動感とスクリーンまで回り込むサラウンド音場に包まれます。

- 入力モードが“AUTO”または“DTS”に設定されている場合、ムービーサウンド音場プログラム(No.1)およびCINEMA DSP音場プログラム(No.2、3)でドルビーデジタルまたはDTS信号を入力すると自動的にドルビーデジタルまたはDTSに対応した音場処理になり、プログラムの名前も変わりますが、各音場効果のコンセプトは変わりません。



音場プログラム名と最適ソース

■ ムービーサウンド音場プログラム名と最適ソース

No.	プログラム名	特長および最適ソース
1	DOLBY PRO LOGIC(ドルビー プロ ロジック)	ドルビープロ・ロジック／ドルビーデジタルデコーダー、またはDTSデコーダーで正確に処理されたムービーサウンドをストレートに再生します。セパレーション特性に優れ、スムーズで正確な音源の移動や定位が得られます。
	ドルビーデジタルのとき：DOLBY DIGITAL(ドルビー デジタル)	
	DTSのとき：DTS(ディーティーエス ディーティーエス)	

■ CINEMA DSP音場プログラム名と最適ソース

No.	プログラム名	特長および最適ソース
2	DOLBY PRO LOGIC ENHANCED ドルビーデジタルのとき：DOLBY DIGITAL ENHANCED DTSのとき：DTS ENHANCED	ドルビーサラウンドおよびDTSのオリジナル定位を乱すことなく、正確なデコード動作とDSP処理を行います。 35mm映画館のマルチサウンドスピーカーを、より理想的なものへシミュレーションした音場です。サラウンド音場は、視聴者を左右後方から美しい響きで包み込みます。そのため、音の移動は後方から左右、スクリーンに自然につながり、映画制作側の意図する効果を再現します。
3	70mm MOVIE THEATER ドルビーデジタルのとき：DIGITAL MOVIE THEATER DTSのとき：DTS MOVIE THEATER	最新の映画のサウンドデザインをセリフと音楽効果音にクールに描き分け、静けさの中に広大なシネマ空間を演出します。高度なテクニックを駆使したドルビーステレオ、ドルビーデジタル、DTSソフトまでシネマサウンドの世界を仮想空間音場で楽しめます。
4	MONO MOVIE	古いモノラル名作映画専用のポジションです。オペラハウス系のプレゼンス音場と適度な残響処理により、往年の名作映画のモノラル音声が臨場感を持って再生されます。
5	TV SPORTS	様々なバラエティーや中継番組に、適用範囲の広い音場効果を再現。スポーツ中継のステレオ放送では、解説者は中央に定位し、歓声や場内の雰囲気は周囲へと拡がります。後方回り込みは適度に抑えてあるので、長時間使用しても違和感がありません。

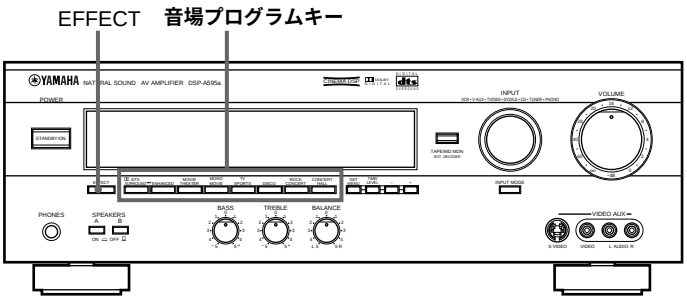
- No.1～3は、ビジュアルソフト DOLBY SURROUND と表示されているドルビーエンコードソースおよび dts と表示されているDTSエンコードソースの再生に最適なプログラムです。
- ドルビープロ・ロジックデコーダー、方向性強調回路*、またはドルビーデジタルデコーダー、DTSデコーダーが使用されます。
  * メインL/R、センター、リアの各チャンネルの音量を自動的に調節して音の移動感や方向感を強調します。
- メインL/R、センター、リアL/Rから出力されます。センタースピーカーを使用した場合は、良好なセンター定位が得られます。
- メインL、Rも方向性強調回路で信号処理されるので、ソースによっては左右メインスピーカーの音量が極端に異なる場合があります。（ドルビーデジタルおよびDTSを除く）
- プロ・ロジックおよびプロ・ロジックエンハンストは方向性強調回路を使用するため、ソースがモノラルの場合、リアスピーカーから音は出ません。
- 音場プログラムは名前にこだわらず、聴感上最も気に入ったものを選択してください。また、実際に聴くときは、プログラムの音場にリスニングルーム自体の音場が付加されます。プログラムの音場を楽しむには、リスニングルームをできるだけデッドに（反射音が無いように）調整しましょう。

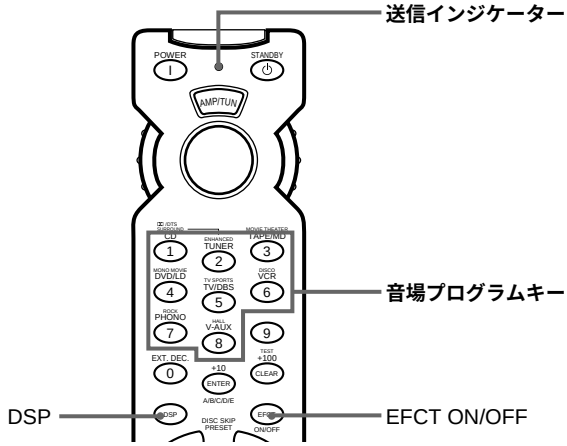
■ HiFi-DSP音場プログラム名と最適ソース

No.	プログラム名	特長および最適ソース
6	DISCO	ディスコミュージックに包まれる乗りの良い音場空間を演出するプログラムです。
7	ROCK CONCERT	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、客席は最高時で約460程です。客席中央左寄りの音場です。
8	CONCERT HALL	ヨーロッパに多くみられる内装材にシックな木の内張りが使われた、ミュンヘンにある2500席程度のコンサートホールです。繊細な美しい響きが豊かに拡がり、落ち着いた雰囲気を持っています。座席の位置は、1階の中央左寄りです。

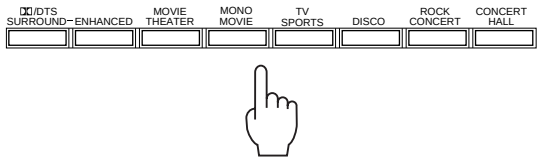
- No.6～8のプログラムではメインL/R、リアL/Rから出力されます。
- 入力が2チャンネル以外でエンコードされたドルビーデジタル信号のときは、No.6～8のプログラムでもセンタースピーカーから音が出ます。
- ドルビーデジタルおよびDTS入力時もプログラム名は変わりません。
- 実測データを採用しているため、プログラムによっては効果音の左右バランスが異なるものがあります。

音場プログラムの選びかた





本体で操作するには

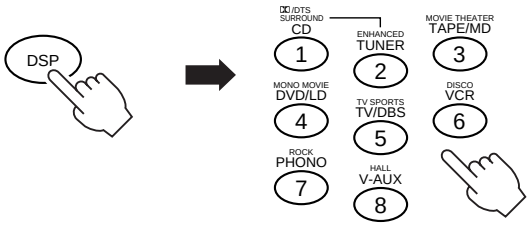


お好みの音場プログラムキーを押します。プログラム名が表示されます。

リモコンで操作するには

AMP/TUNポジションのとき：

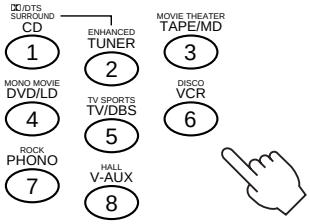
DSPキーを押してから、お好みの音場プログラムキー（1～8）を押します。プログラム名が表示されます。



● DSPキーを押すとリモコンの送信インジケーターが約3秒間点灯します。点灯している間に音場プログラムキーを押してください。

DSP操作ポジションのとき：

お好みの音場プログラムキー（1～8）を押します。



プロセッシングインジケーターについて

デジタル入力端子からDTS信号を入力すると dts インジケーターが点灯します。DTS対応のLDを入力すると赤色の dts インジケーターが、DTS対応のDVDを入力するとオレンジ色の dts インジケーターが点灯します。DTS対応LDの入力時にオレンジ色の dts インジケーターが点灯しても支障ありません。（50ページ）

DD DIGITAL

音場プログラム再生中、2チャンネル以外でエンコードされたドルビーデジタル信号再生時に点灯します。

DD PRO LOGIC

音場プログラムNo.1から3で再生中、2チャンネルでエンコードされたドルビーデジタル信号、PCM信号、アナログ信号再生時に点灯します。

DSP

音場プログラムNo.2から8で再生中に点灯します。

ご注意

ドルビーデジタルの記録チャンネル数は、ソフトにより異なります。

音場プログラムの入／切

EFFECTキー（またはリモコンのEFCT ON/OFFキー）を押すたびに音場プログラムの入／切ができます。音場プログラムをオフにするとEFFECT OFFが表示されます。

音場プログラムのメモリー

音場プログラムを設定すると、そのとき選んでいるインプットセレクターにメモリーされます。音場プログラムを変えない限り、インプットセレクターで入力を選ぶと、設定したプログラムになります。

ディレイタイムの調節とスピーカーレベルの再調節

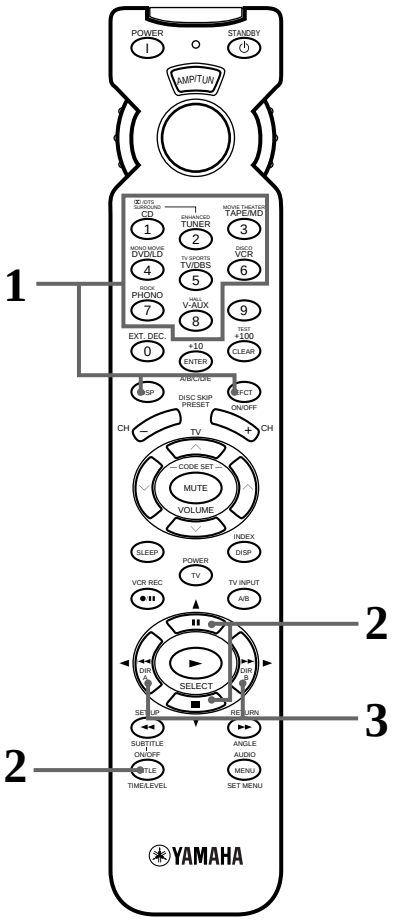
ディレイタイムは各プログラムごとに最適値がそれぞれプリセットされていますので、通常は初期値のままで十分お楽しみいただけます。また、スピーカーレベルもテストトーンで調節されていれば各音場効果をお楽しみいただけます。しかし、必要があれば、再生音を聴きながらソースやリスニングルームの状況に応じてさらに調節することができます。

ディレイタイム について：

- ディレイタイムを長めに設定すると、音場空間が大きく感じられ、短めに設定すると、音場空間が小さく感じられます。
- ディレイタイムは各音場ごとに設定でき、メモリーされます。

スピーカーレベル について：

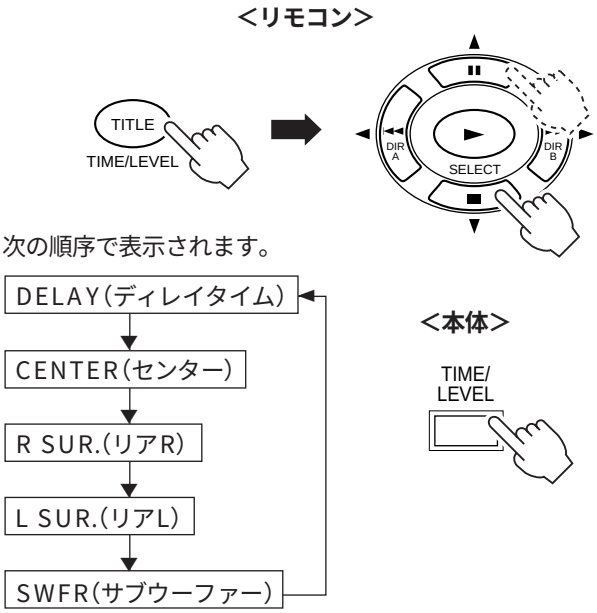
- スピーカーレベルはすべての音場に共通して設定され、テストトーンで調節したレベルは無効になります。
- センター、リアL/R、サブウーファーのスピーカーレベルが調節できます。
- 工場出荷時の初期値および調節範囲については次ページの表をご覧ください。



1 **音場プログラムを選び、再生する（34ページ）**

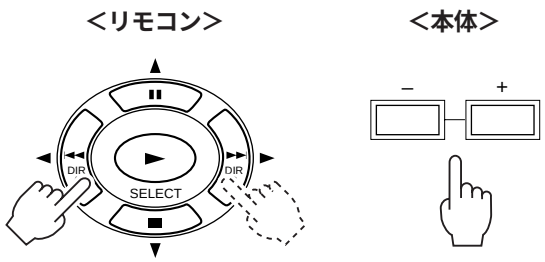
サブウーファーのレベルは音場プログラムを使わないときも調節できます。

2 **TIME/LEVELキーを押してから、▼／▲キーを何回か押して調節したい項目を表示させる（本体ではTIME/LEVELキーを何回か押す）**



- リモコンの▲キーを押すと、逆順に表示されます。
- セットメニューの「1. CNTR（センタースピーカーモード）」が“NONE”に設定されている場合は、センターの項目は表示されません。また、選択した音場プログラムによっては調節できない項目があり、表示されません。

3 **◄／►キー（または本体の－／＋キー）を押してレベルを調節する**



他の音場プログラムのディレイタイムを調節したいときは、手順1～3を繰り返す

ディレイタイムの可変範囲

	プログラム名	初期値（ms）	可変範囲（ms）可変ステップ＝1ms	変更値（ms）
1	DOLBY PRO LOGIC	20	15〜30	
	DOLBY DIGITAL（ドルビーデジタルのとき）	5	0〜15	
	DTS（DTSのとき）	5	0〜15	
2	PRO LOGIC ENHANCED	20	15〜30	
	DOLBY DIGITAL ENHANCED（ドルビーデジタルのとき）	5	0〜15	
	DTS ENHANCED（DTSのとき）	5	0〜15	
3	70mm MOVIE THEATER	20	15〜30	
	DIGITAL MOVIE THEATER（ドルビーデジタルのとき）	16	1〜99	
	DTS MOVIE THEATER（DTSのとき）	16	1〜99	
4	MONO MOVIE	49	1〜99	
5	TV SPORTS	9	1〜99	
6	DISCO	40	1〜99	
7	ROCK CONCERT	16	1〜99	
8	CONCERT HALL	44	1〜99	

- ディレイタイムを変更したときは、「変更値」欄に記入しておくと、設定した内容が消えたとき（2週間以上、本機の電源コードをコンセントから抜いたときなど）に便利です。

スピーカーレベルの可変範囲

スピーカー	初期値（dB）	可変範囲（dB）可変ステップ＝1dB	変更値（dB）
センター（CENTER）	0	MIN、−20〜＋10	
リア（右）（R SUR.）	0	MIN、−20〜＋10	
リア（左）（L SUR.）	0	MIN、−20〜＋10	
サブウーファー（SWFR）	0	MIN、−20〜0	

- プログラムNo.6〜8を使って再生中、2チャンネルでエンコードされたドルビーデジタル信号、DTS信号、PCM信号、アナログ信号入力時は、センターレベルの変更はできません。
- MINに設定すると音は出ません。
- スピーカーレベルを変更したときは、「変更値」欄に記入しておくと、設定した内容が消えたとき（2週間以上、本機の電源コードをコンセントから抜いたときなど）に便利です。

初期値に戻すには

＋キーまたは−キーを押し続けます。連続的に変化する値が途中でいったん止まる表示が初期値です。

セットメニューの設定

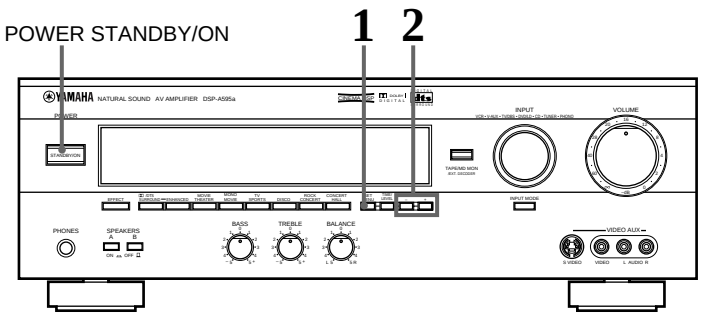
本機には11項目のセットメニューがあります。使用するスピーカーシステムに合わせて設定するスピーカーモード(23ページ)や、TV/DBSのインプットモードの設定などの機能がセットメニューに納められています。必要に応じてセットメニューを呼び出し、設定してください。

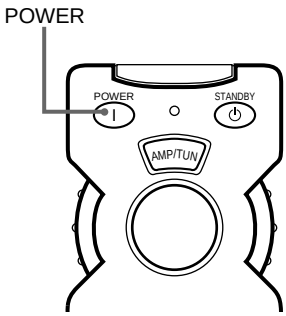
セットメニュー6〜8の設定内容

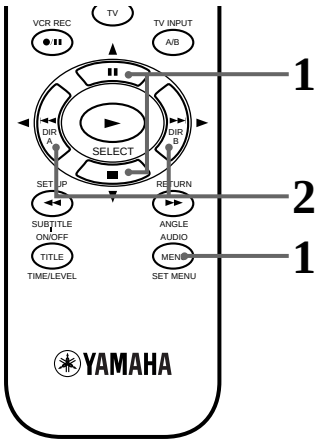
項目	設定内容	初期設定	可変範囲
ドルビーデジタルエルエフイー 6. D. D. LFE	ドルビーデジタルのLFE再生レベルを設定します。	0 dB	−20〜0dB(1dBステップ)
ダイナミックレンジ 7. D. RNG	ドルビーデジタル再生時のダイナミックレンジを選択します。	MAX	MAX/STD/MIN
ディーティーエスエルエフイー 8. DTS LFE	DTSのLFE再生レベルを設定します。	MAX	MAX/STD/MIN
センターディレイ 9. C. DELAY	センターディレイタイムを設定します。	0ms	0〜5ms(1msステップ)
(メモリー)ガード 10. GUARD	セットメニュー項目の設定やレベルなどを保護します。	OFF	OFF/ON
インプット 11. INPUT	TV/DBSの入力モードを選択します。	AUTO	AUTO/LAST

設定のしかた

● 本体のPOWER STANDBY/ONキーまたはリモコンのPOWERキーを押して電源を入れます。

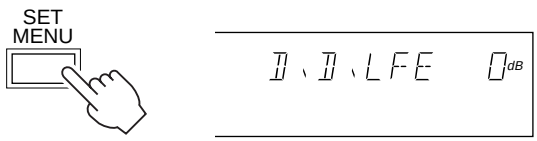




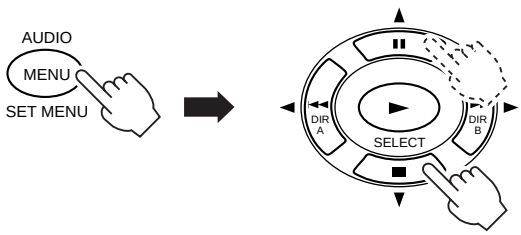


● リモコンで操作するときは、操作ダイヤルを回してAMP/TUNポジションにします。(DSPポジションでも操作できます。)

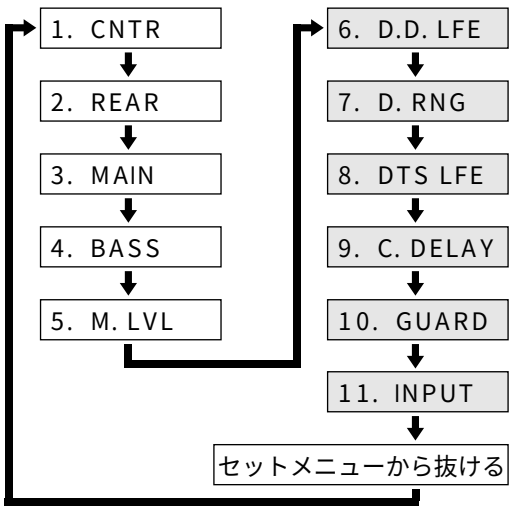
1 **SET MENUキーを何回か押して、設定したいセットメニューの項目を表示させる**



リモコンでは、SET MENUキーを押してから、▼/▲キーを何回か押して設定したいスピーカーモードを表示させる

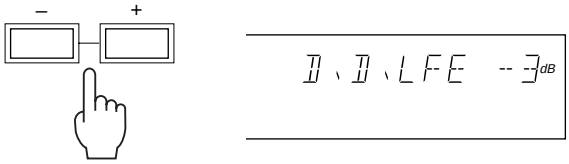


SET MENUキーまたは▼キーを押すと、セットメニューは次の順序で表示されます。(1〜5のスピーカーモードについては23ページを参照してください。)

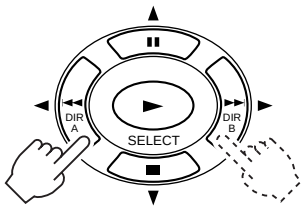


● ▲キーを押すと逆順に表示されます。

2 **－／＋キーを押して設定する**



リモコンでは、◄／►キーを押して設定する



スピーカーモードの設定が終わったら

SET MENUキー（リモコンは▲／▼キー）を何回か押してセットメニューの表示を消します。

各メニュー項目の設定内容

6. D. D. LFE（ドルビーデジタル LFE）

ドルビーデジタルでのLFE信号の再生レベルを設定します。（ドルビーデジタル再生時にのみ有効）

- LFE信号は、ドルビーデジタルソースにおいて、意図されたシーンでのみ出力される特殊な低域効果音です。
  ドルビー社の推奨により、LFE 0dB時は他の5チャンネルのレベルより＋10dBに設定されています。使用するサブウーファーなどの性能に応じてLFEを調整してください。

7. D. RNG（ダイナミックレンジ）

ドルビーデジタル再生時のダイナミックレンジ*をMAX/STD/MINの3種類から設定します。（ドルビーデジタル再生時のみ有効）

* ソフトに収録されている最小音から最大音までの幅をダイナミックレンジといいます。ダイナミックレンジが大きいほど音の強弱の差が大きくなります。

MAX： 映画館そのままのダイナミックレンジです。

STD（STANDARD）： ソフト制作者が家庭用として推奨するダイナミックレンジです。

MIN： 小音量でも聴きやすく、深夜の視聴に適したダイナミックレンジです。

ご注意

ドルビーデジタルソフトによってはダイナミックレンジ“MIN”に対応していないものがあり、音量が極端に下がる場合があります。そのような場合は、ダイナミックレンジを“MAX”または“STD”に設定してください。

8. DTS LFE（ディーティーエス LFEレベル）

DTSでのLFE信号の再生レベルを設定します。
LFE信号は、ドルビーデジタルまたはDTSソースにおいて、意図されたシーンでのみ出力される特殊な低域効果音です。使用するサブウーファーなどの能力に応じて、LFEレベルを調整して使用してください。

9. C. DELAY（センターディレイ）

センタースピーカーのディレイタイムを設定します。

- 通常センタースピーカーはメインL、Rスピーカーと同一線上に設置しますが、本来は同時に出た音が同時にリスナーの耳に届くように、3つのスピーカーとリスナーの距離が同一になるのが理想です。ディレイタイムを設定することによって、仮想的にセンタースピーカーの位置を遠ざけ、リスナーと3つのスピーカーとの距離を合わせることができます。目安として1ms増すと30cm遠ざかったことになります。
  センターディレイは、特にSMALLモードでセンタースピーカーを使用しているとき、セリフの量感に効果があります。

10. GUARD（メモリーガード）

セットメニュー項目の設定やレベルなどを保護します。「ON」に設定しておけば、誤動作による設定の変更を防ぐことができます。

メモリーガードで保護される設定

- 音場プログラムのディレイタイム値
- メモリーガード以外のセットメニュー項目
- センター／リア／サブウーファーのレベル

ご注意

- メモリーガードを「ON」に設定すると、テストモードに入れません。
- メモリーガードを「ON」に設定すると、他のセットメニュー（SET MENU1～9、11）は呼び出せません。

11. INPUT

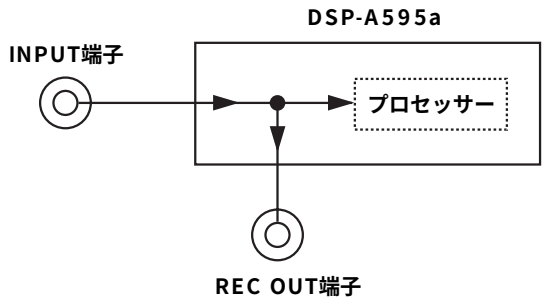
TV/DBSの入力モードを設定します。

AUTO： 電源オン時の入力の優先順位を、デジタル光入力→アナログ入力に設定し、入力を自動選択します。

LAST： マニュアルで設定した入力モード（30ページ）を、電源オフ時も保持します。

録音/録画について

本機は、インプットセレクターで選んだ入力ソースをそのままREC OUT端子に出力するため、録音するための操作を本機側で行うことはありません。



録音レベルの調整

デッキ側で行います。ご使用になるデッキの取扱説明書をご覧ください。

録音状態を録音中にチェックするには

3ヘッドのテープデッキで録音する場合、インプットセレクターのTAPE/MD MON/EXT. DECODERを押してTAPE/MD MON表示にすると録音同時モニターができます。

映像と音声を別々のソースから組み合わせて録画したいとき

インプットセレクターでビデオ系ソースの映像を選択した後、録音したいオーディオ系ソースを選ぶとBGV（バックグラウンドビデオ）録画をすることができます。

ご注意

- 音場効果を加えた音を録音することはできません。
- BASS、TREBLEおよびBALANCEの設定は、録音に影響しません。
- 本機の電源を切ると、本機に接続されている機器間の録音/録画はできません。
- 録音/録画する際、同一ソースの録音/録画はできません。
  (例：VCR IN端子から入った信号は、VCR OUT端子には出力されないので録音／録画することはできません。)
- EXTERNAL DECODER INPUT端子から入った信号は、REC OUT端子に出力されないので録音できません。
- DIGITAL SIGNALのDVD/LD端子およびTV/DBS端子から入力したデジタル音声を録音することはできません。DVD/LD、TV/DBSの音声を録音するには、デジタル・アナログ両端子を接続し、INPUT MODEキーで入力モードを“ANLG”（アナログ）に設定します。
- 本機では、S VIDEO端子とピンジャックのVIDEO端子間の信号経路は独立しているので、ピンジャックから入った信号はピンジャックに出力され、S VIDEO端子から入った信号はS VIDEO端子に出力されます。Y/C分離・Y/Cミックスの録画はできません。

スリープタイマー

設定した時間が経過すると電源が切れるので、聞きながらおやすみになれます。
リモコンで操作します。

1 再生する

- 本機のSWITCHED AC OUTLETのコンセントに接続した機器（ソース）を選びます。それ以外の機器を選ぶと、本機の電源は切れますが、ソース側の電源は切れません。

2 SLEEPキーを押して時間を設定する

押すごとに次のように切り換わります。
（単位：分）

設定時間を約3秒間表示したあと入力ソース表示に戻り、SLEEPインジケーターは点灯します。

- スリープタイマーは、電源を切ると解除されます。

スリープ動作を途中でやめるには

SLEEPキーを押して、SLEEP OFF表示にします。

タイマー再生／録音

市販のオーディオタイマーと組み合わせて、タイマー再生やタイマー録音をすることができます。
ご使用になる機器やオーディオタイマーにより操作方法が異なることがありますので、それらの取扱説明書もあわせてご覧ください。

接続

1	**本機の電源プラグをオーディオタイマーに接続する**
2	**タイマー再生する機器の電源プラグを本機のAC OUTLETSに接続する** 接続する機器の合計消費電力がAC OUTLETSの供給電力(100W)を超えないように注意してください。

操作

1	**すべての機器の電源をONにする**
2	**インプットセレクターでタイマー再生／録音するソースを選ぶ** **タイマー再生の場合：** 再生する機器をタイマー再生ができるように操作します。 **タイマー録音の場合：** 放送局を受信し、デッキなど録音する機器をタイマー録音ができるように操作します。
3	**本機のVOLUMEを調節する** タイマー録音で音出しをしない場合は、VOLUMEを絞っておきます。
4	**タイマー再生／録音開始時刻および終了時刻をオーディオタイマーでセットする** 設定した時刻になるとタイマー／録音が開始されます。

メモリーバックアップについて

本機のPOWER STANDBY/ONスイッチで電源を切っても、インプットセレクター、ディレイタイム、センターモード、セットメニューの設定、レベルなどの内容は消えずに、記憶(メモリー)されています。本機では、メモリー内容を保持するために、特殊なコンデンサーを内蔵してバックアップしています。また、約2週間は電源コードを電源コンセントから抜いても、メモリー内容はそのまま記憶されています。ただし、2週間以上電源コードをコンセントから外した場合には、バックアップしているコンデンサーが放電してしまい、メモリー内容が消えることがあります。このような場合には、必要に応じて各調節、設定を行ってください。

- 電源コードが電源コンセントに接続されていれば、POWER STANDBY/ONスイッチを切ってもメモリーは常にバックアップされています。メモリー内容が消えることはありません。

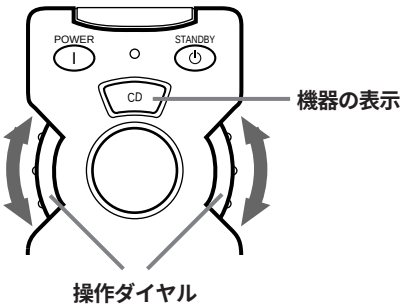
リモコンで操作する

本機のリモコンにはヤマハの機器を操作するための信号がすでにプリセットされていますが、さらに、他社の機器もそれぞれのメーカーコードをプリセットすれば操作できます。

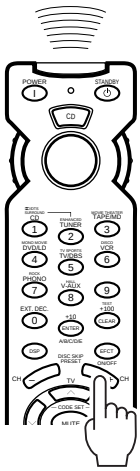
- **メーカーコードのプリセットのしかた、メーカーコードの一覧表については46〜48ページを参照してください。**

各機器を操作する

1 操作ダイヤルを回して、操作したい機器を選ぶ

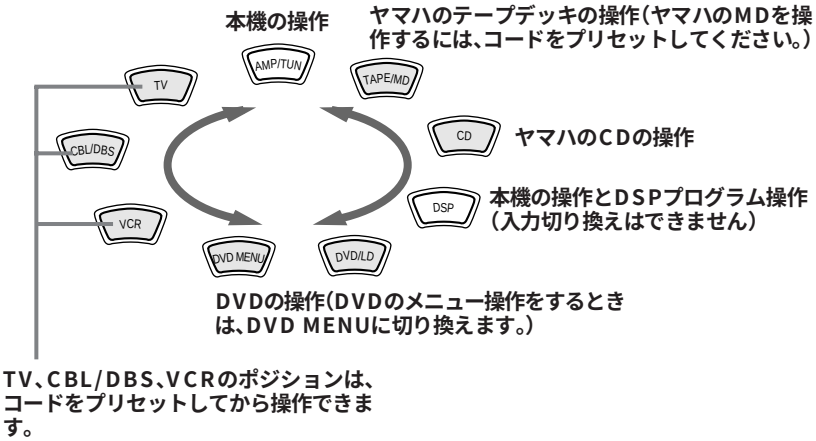


2 操作キーを押す



操作できる機器

9ポジションの中から操作する機器を選びます。操作ダイヤルを回すと下記のように操作できる機器が切り換わります。



コードをプリセットできるポジション

TAPE/MD、CDにはすでにヤマハの各機器を操作できるリモコン信号がプリセットされていますが、これらのポジションも含め、　　で示したポジションには、ヤマハ製品を含む各社のオーディオ、ビデオ機器のコードをプリセットして操作することができます。1つのポジションに1つのメーカーコードがプリセットできます。メーカーコードのプリセットのしかた、メーカーコードの一覧表については46〜48ページを参照してください。

ヤマハDVDプレーヤーについて

DVD-1000、DVD-S700をお使いのかたは、ヤマハDVDコード“4490”をDVD/LDポジションにプリセットしてください。

DVD/LDとDVD MENUポジションについて

DVDコードをプリセットすると、この2つのポジションに各操作信号がプリセットされます。

ご注意

一部のDVDではDVD MENUの操作ができないことがあります。また、DVD/LDにLDコードをプリセットするとDVD MENUの操作はできません。

2台目のVCRコードをプリセットするには

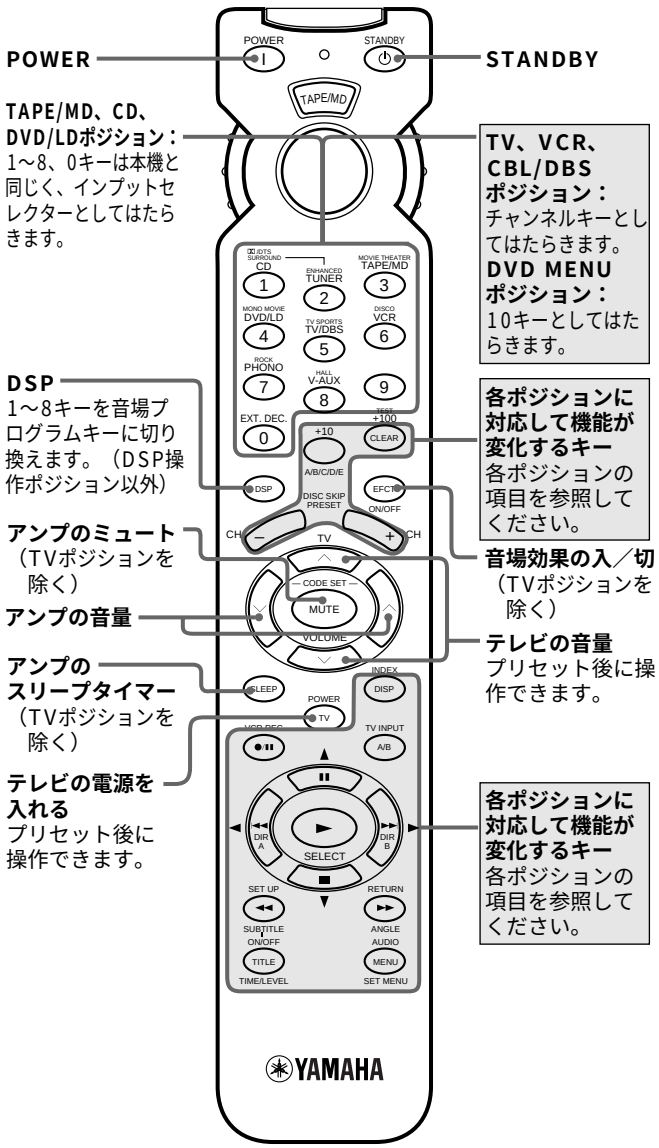
CBL/DBSポジションに2台目のVCRコードをプリセットできます。
また、DVD/LDにLDコードをプリセットした場合、DVD MENUポジションにプリセットすることもできます。

機器別のリモコン機能

ここでは、各機器のポジションで操作できるキーについて説明します。各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
AMP/TUNとDSP操作ポジションについては、21〜22ページを参照してください。

機器別の操作キーと本機を操作するキー

各ポジションでは、　　で示したキーで機器個別の操作ができます。さらに、これらのキー以外で本機も操作できます。

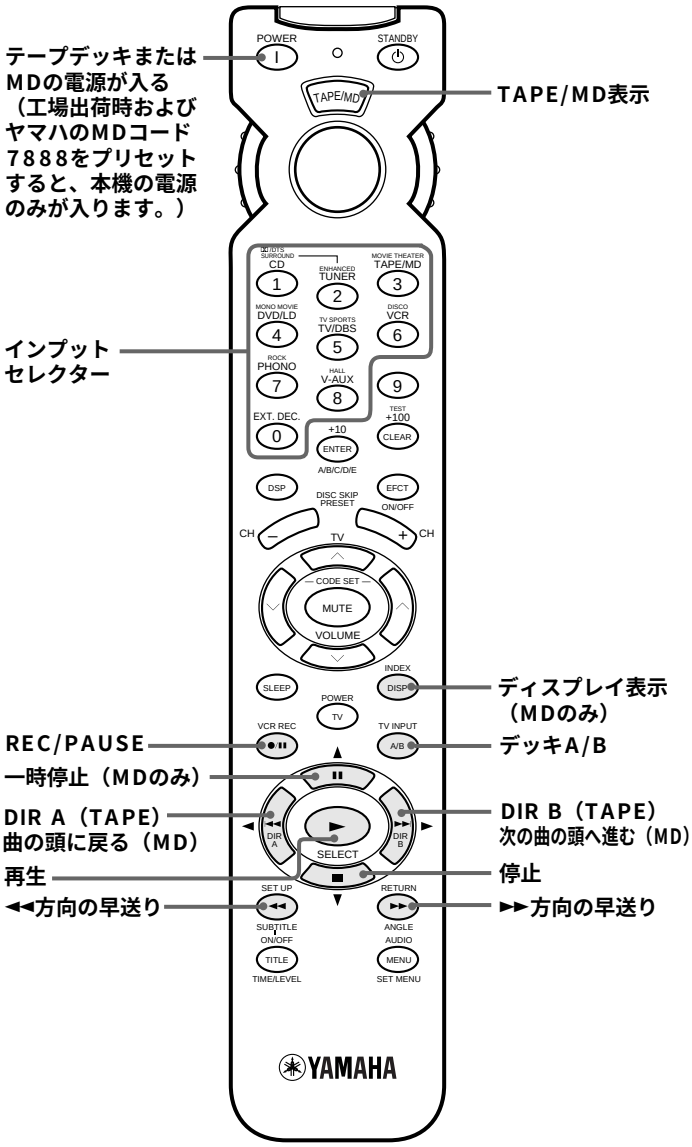


メモ

- POWERキーを押すと本機の電源が入ります。他機器の電源コードが本機背面のSWITCHED OUTLETSに接続されていると、本機と連動して機器の電源が入りますので、CDプレーヤー、テープデッキ、DVD/LDプレーヤーなどの電源にご利用ください。
- STANDBYキーを押すと、操作ポジションに関係なく本機および本機背面のSWITCHED OUTLETSに接続した機器の電源が切れます。

TAPE/MDポジション

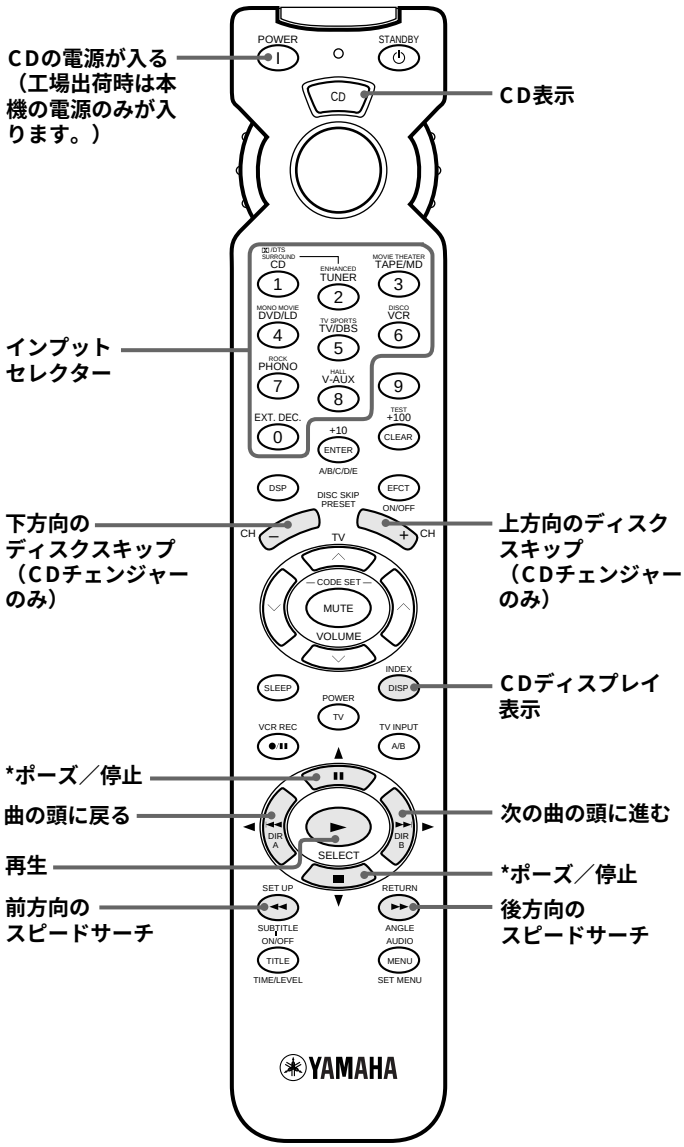
ヤマハのテープデッキが操作できます。
MDを操作する場合は、MDコードをプリセットしてください。（46〜48ページ）



機種によっては操作できないもの、操作方法が異なるものもあります。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

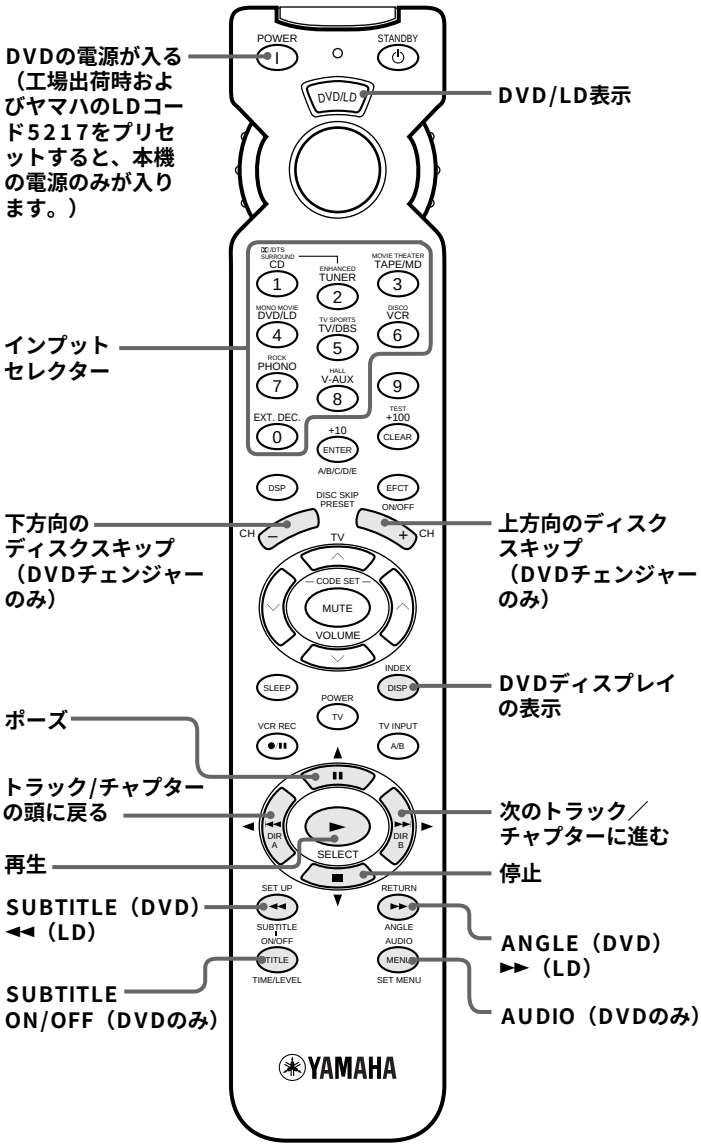
CDポジション

ヤマハのCDが操作できます。



DVD/LDポジション

DVDが操作できます。DVDメニューを操作するときは、DVD MENUポジションに切り換えます。
LDを操作する場合は、LDコードをこのポジションにプリセットしてください。（46〜48ページ）



メモ

TVコードがプリセットされていると、CDポジションでもTV INPUTが操作できます。

* ▮▮キーと■キーについて
工場出荷時およびヤマハのCDコード6082をプリセットすると、これらのキーは▮▮/■（ポーズ／停止）キーとしてはたらきます。

ご注意

DVD-1000、DVD-S700をお使いのかたは、ヤマハDVDコード“4490”をDVD/LDポジションにプリセットしてください。

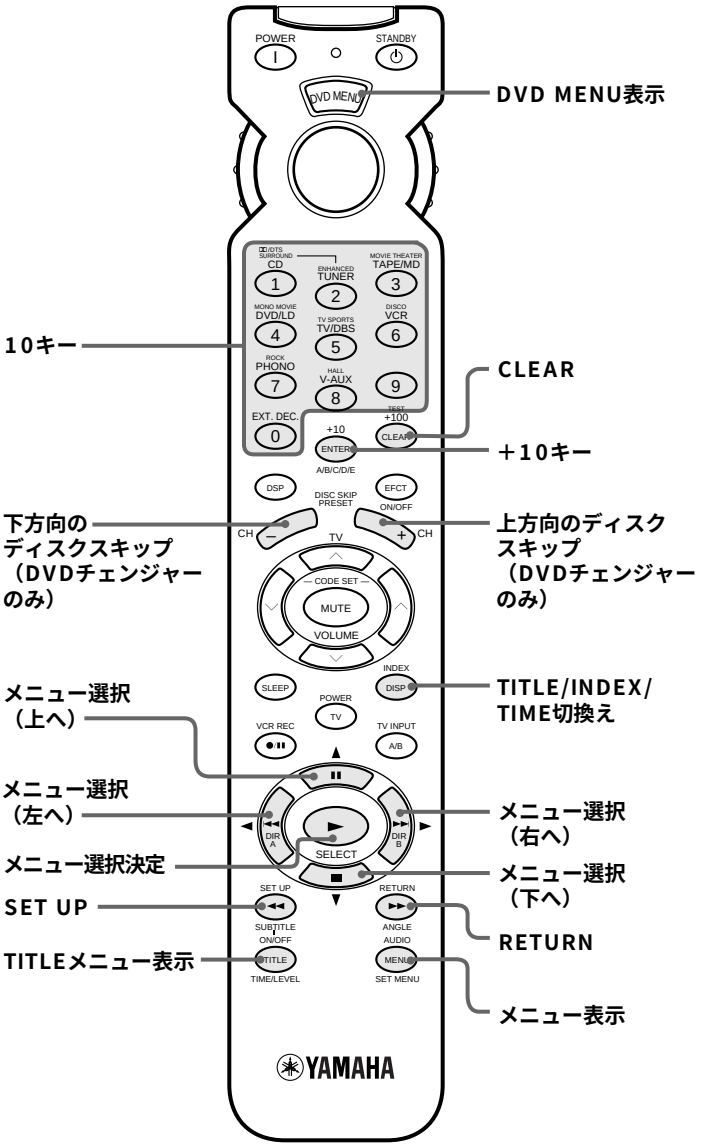
メモ

TVコードがプリセットされていると、DVD/LDポジションでもTV INPUTが操作できます。

機種によっては操作できないもの、操作方法が異なるものもあります。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

DVD MENUポジション

DVDメニューが操作できます。



ご注意

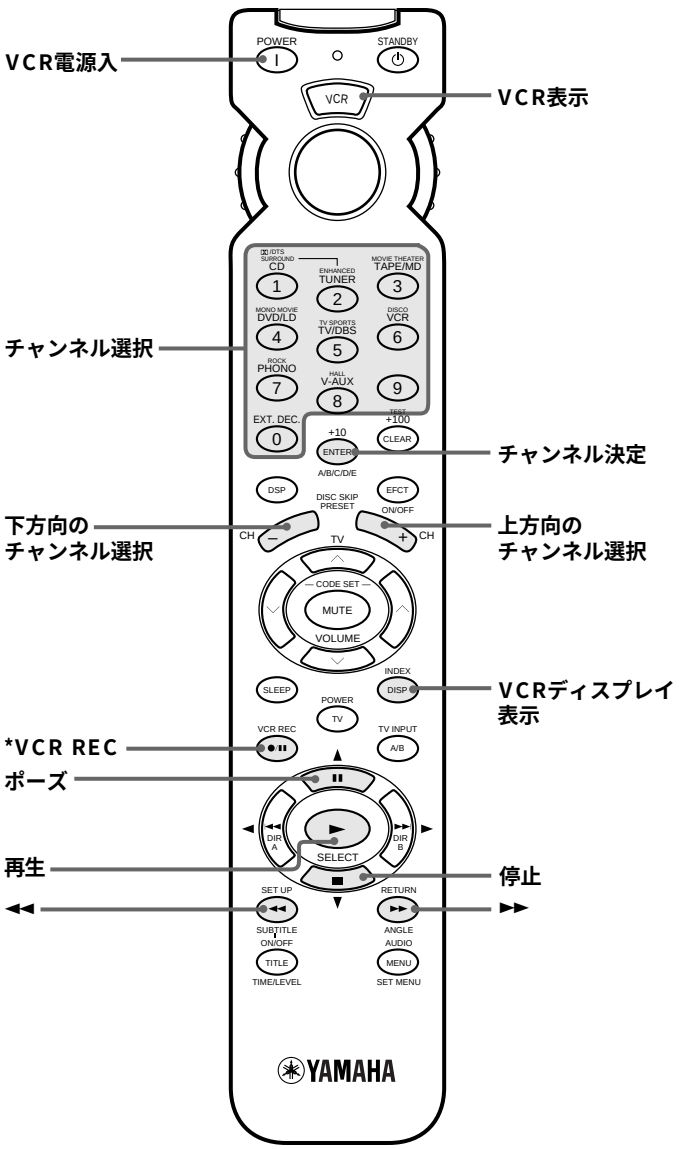
- 一部のDVDではDVD MENUの操作ができないことがあります。また、DVD/LDポジションにLDコードをプリセットするとDVD MENUの操作はできません。
- DVD MENUポジションにDVDまたはLDのメーカーコードをプリセットすることはできません。DVD/LDポジションにプリセットしてください。

メモ

TVコードがプリセットされていると、DVD MENUポジションでもTV INPUTが操作できます。

VCRポジション

VCRコードをプリセットした後に操作できます。



メモ

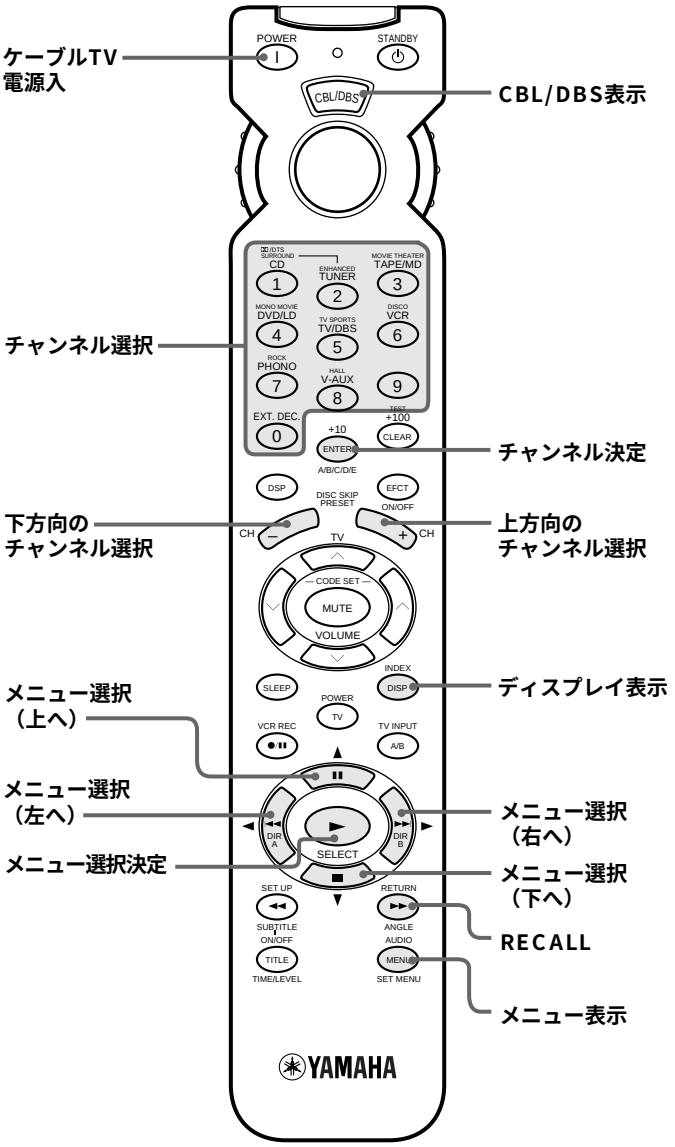
TVコードがプリセットされていると、VCRポジションでもTV INPUTが操作できます。

*　VCR RECキーは2回押すことで操作信号が出力されます。

機種によっては操作できないもの、操作方法が異なるものもあります。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

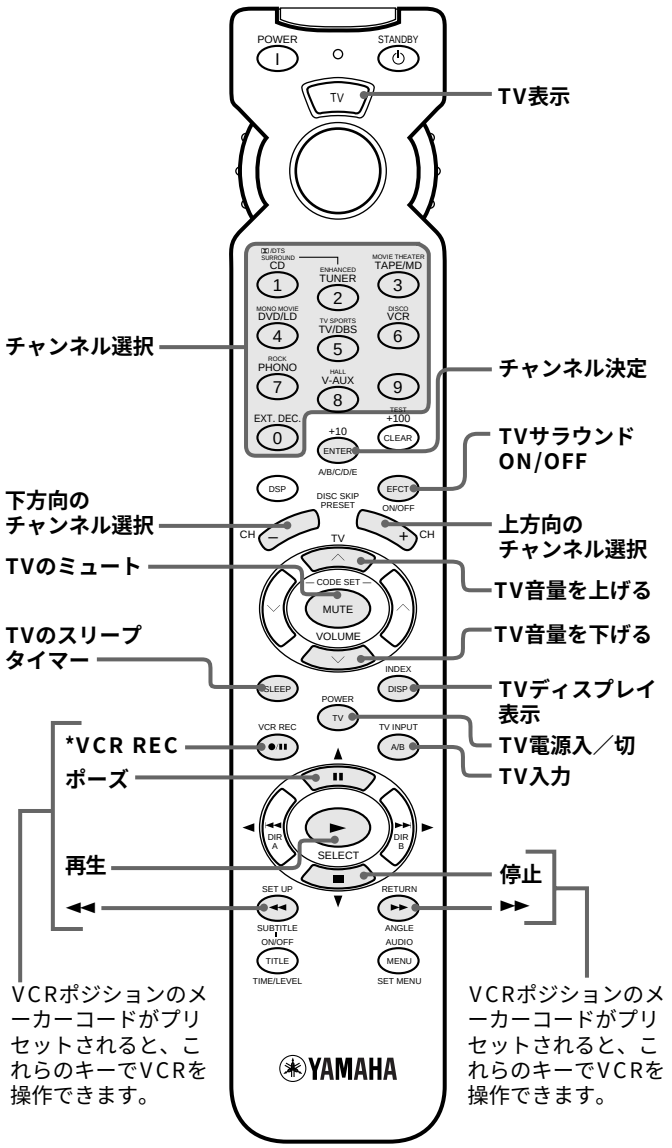
CBL/DBSポジション

ケーブルTVのコードをプリセットした後に操作できます。



TVポジション

TVコードをプリセットした後に操作できます。



メモ

- TVコードがプリセットされていると、CBL/DBSポジションでもTV INPUTが操作できます。
- CBL/DBSポジションに2台目のVCRコードをプリセットすることができます。プリセット方法は47ページを参照してください。

* VCR RECキーは2回押すことで操作信号が出力されます。

機種によっては操作できないもの、操作方法が異なるものもあります。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

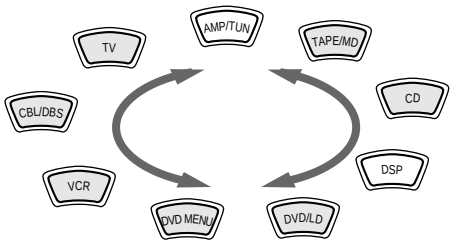
コードをリモコンにプリセットする

お使いのオーディオ、ビデオ機器のメーカーコードをプリセットすると、ヤマハ製品を含む各社の機器をリモコン操作することができます。

ご注意

他社のメーカーコードをプリセットしても、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。この場合は各機器専用のリモコンをお使いください。

コードをプリセットできるポジション

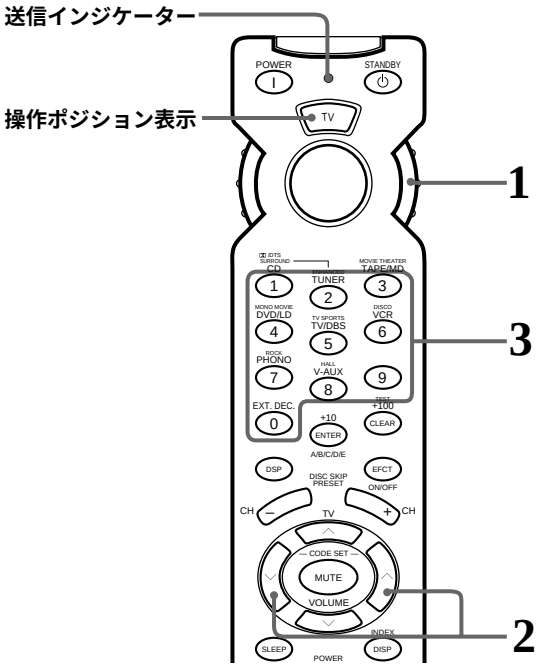


TAPE/MD、CDにはすでにヤマハの各機器を操作できるリモコン信号がプリセットされていますが、これらのポジションも含め、　　で示したポジションには、ヤマハ製品を含む各社のオーディオ、ビデオ機器のメーカーコードをプリセットして操作することができます。**1つのポジションに1つのメーカーコードがプリセットできます。**

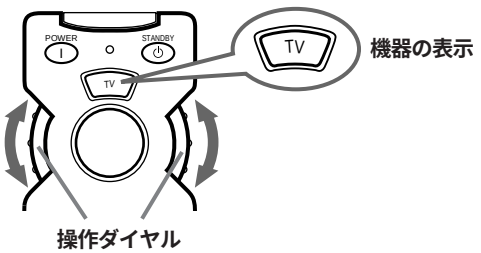
ご注意

- AMP/TUNおよびDSPポジションにはメーカーコードをプリセットできません。

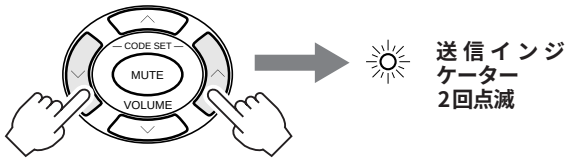
コードのプリセット



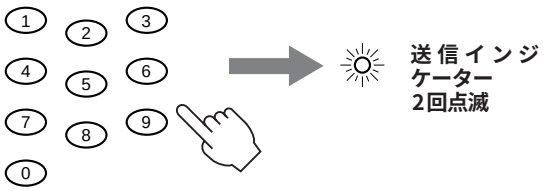
1 **操作ダイヤルを回して、メーカーコードをプリセットする機器を選ぶ**



2 **送信インジケーターが2回点滅するまでVOLUME ∧ ∨キーを押し続ける**



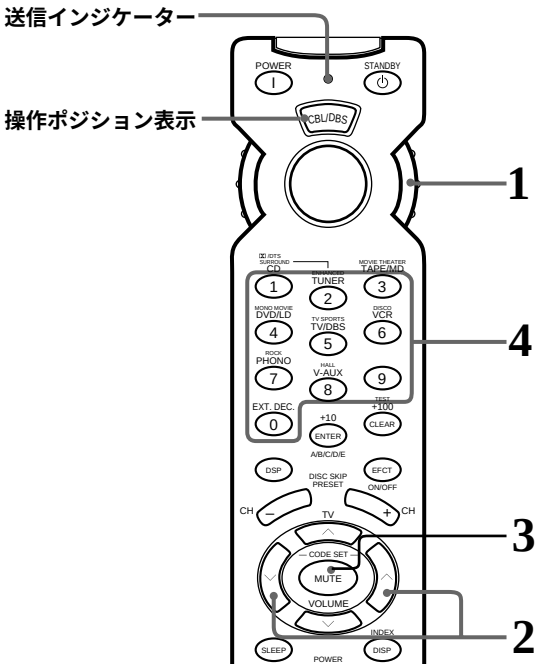
3 **機器のメーカーコード(4桁)を数字キーを押して入力する**



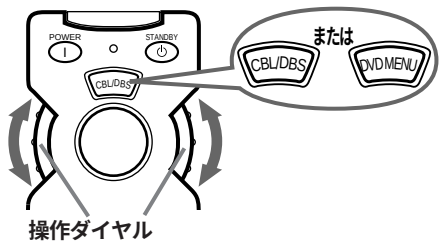
正しくプリセットされると、送信インジケーターが2回点滅します。

2台目のVCRコードをプリセットするには

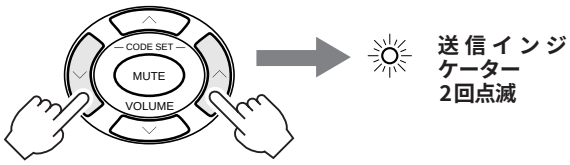
CBL/DBSポジションに2台目のVCRコードをプリセットできます。また、DVD/LDポジションにLDコードをプリセットした場合、DVD MENUポジションに2台目のVCRコードをプリセットすることもできます。



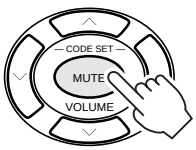
1 **操作ダイヤルを回して、CBL/DBSまたはDVD MENUポジションを選ぶ**



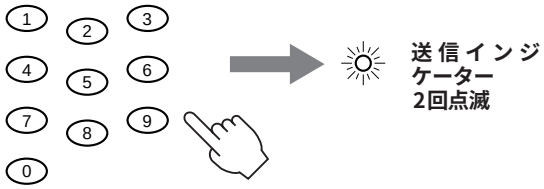
2 **送信インジケーターが2回点滅するまでVOLUME ∧ ∨キーを押し続ける**



3 **MUTEキーを押す**



4 **2台目のVCRメーカーコード(4桁)を数字キーを押して入力する**



正しくプリセットされると、送信インジケーターが2回点滅します。

プリセットするときの注意

メーカーコードが正しくプリセットされると、送信インジケーターが2回点滅します。

点滅しないとき

↓

手順2から操作をやり直す

操作をやり直すときは、次の点に注意してください。

- メーカーコード番号を確かめる。
- メーカーコードをプリセットするとき、操作ポジションを正しく選んでいるか、確かめる。
- 複数のメーカーコードがある場合は順番に入れてみる。
- リモコンの電池をいったん取り出し、もういちど入れてから(2分以内に行ってください)操作をやり直す。

メーカーコードをクリアーするには

各ポジションのクリアー

送信インジケーターが2回点滅するまでVOLUME ∧ ∨キーを押し続け、数字キーで“9999”を入力する
いま選んでいる操作ポジションにプリセットされているコードがクリアーされ工場出荷時の設定になります。

全クリアー

“AMP/TUN”と“DSP”以外の操作ポジションにする
↓
送信インジケーターが2回点滅するまでVOLUME ∧ ∨キーを押し続け、数字キーで“9987”を入力する
リモコンの全ポジションのコードがクリアーされ、工場出荷時の設定になります。

クリアーすると、工場出荷時のコードに戻ります。

TV：0047	DVD/LD：4545
CBL/DBS：2566	CD：6187(ヤマハ)
VCR：3060	TAPE/MD：8524(ヤマハ)

メーカーコード一覧表

下表のメーカー製品であっても形式、年式によって使用できないものがあります。
また、他社のメーカーコードをプリセットした場合、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。

TV

Hitachi	0145、0056、0032、0109、0151、0576
Mitsubishi	0093、0150、0178、0019、0512、0535
NEC	0030、0019、0056、0170
Panasonic	0051、0250、0226
Pioneer	0109、0166、0287
Sharp	0093、0165、0039
Sony	0000、0080
Toshiba	0154、0156、0060、0035、0149、0502
Victor	0053、0069、0160
Yamaha	0030、0019、0093

ケーブルチューナー

Pioneer	1144、1533

BSチューナー

対応メーカーなし

VCR

Hitachi	3240、3000、3042、3041、3166、3235
Mitsubishi	3048、3081、3067、3043、3061、3173、3196
NEC	3104、3067、3041、3038、3040
Panasonic	3035、3162、3225、3226、3227
Sanyo	3047、3240、3104、3046
Sharp	3048、3062
Sony	3035、3032、3000、3033、3034
Toshiba	3081、3045、3043、3041、3066、3212、3366、3384
Victor	3067、3041、3008、3384
Yamaha	3043

DVDプレーヤー

Panasonic	4490
Pioneer	4525
Sony	4533
Toshiba	4503
Victor	4558
Yamaha	4490、4545

LDプレーヤー

Pioneer	5059、5023
Sony	5193、5201
Yamaha	5217

CD

ADC	6018
Acoustic Research	6420
Adcom	6155
Aiwa	6157、6012、6124
Akai	6156
Arcam	6157
Audio Pro	6437
Audio Research	6157
Audio-Technica	6170
Audio Ton	6157
Audiolab	6157
Audiomeca	6157
BSR	6245
Bestar	6164
Burmester	6420
Bush	6245
California Audio Lab	6029
Carver	6157、6179、6437
Condor	6164
Crown	6122
Cyrus	6157
DAK	6245
DKK	6000
Denon	6003、6034
Elektra	6393、6437
Emerson	6305、6155、6164
Fisher	6179、6048、6088、6342
Garrard	6420、6393、6245、6280、6425
Genexxa	6032、6305、6164、6426
Goodmans	6305、6245、6280
Grundig	6157
Harman/Kardon	6426
Hitachi	6032、6155
Kenwood	6028、6037、6190、6048
Kodak	6287
Krell	6157
Kyocera	6018
LXI	6305
Linn	6157
Luxman	6093
MCS	6029、6043
MTC	6420
Magnavox	6157、6305
Marantz	6029、6157、6180
Matsui	6157
Mcintosh	6287
Memorex	6032、6305、6155、6164、6180
Meridian	6157
Micromega	6157
Mission	6157
Mitsubishi	6156
NAD	6000
NEC	6043
NSM	6157
Nagaoka	6018
Naim	6157
Nakamichi	6147
Nikko	6164、6170
Onkyo	6101
Optimus	6000、6032、6179、6305、6037、6420、6048、6145、6468、6087、6280、6342、6426、6437
Panasonic	6029、6303
Parasound	6420
Philips	6157、6287
Pioneer	6032、6305、6468、6244
Poppy	6164
Proton	6157
QED	6157
Quad	6157
Quasar	6029
RCA	6179、6305、6053、6155
Realistic	6179、6420、6155、6164、6180
Revox	6157
Roadstar	6461
Rotel	6157、6420
Royal	6420
SAE	6157
STS	6018
Sansui	6157、6305、6202
Sanyo	6179、6048、6087、6342
Scott	6305、6155、6164
Sears	6305
Sharp	6037、6180、6261
Sherwood	6114、6180、6426
Shure	6043
Sony	6000、6185
Soundesign	6145、6425
Tascam	6420
Teac	6420、6393、6180
Technics	6029、6303
Universum	6157、6437
Victor	6072
Wards	6157、6053
Yamaha	6036、6187、6261、6082、6712
Yorx	6461

MD

Kenwood	7826
Sony	7490
Yamaha	7888、7490

テープデッキ

ADC	8171
Aiwa	8029、8197
Akai	8283
Arcam	8076
Carver	8029
Denon	8076
Fisher	8074
Garrard	8308、8309、8375
GoldStar	8375
Grundig	8029、8375
Kenwood	8071、8092、8233、8234
Kyocera	8171
Magnavox	8029
Marantz	8029、8009
Memorex	8099
Mitsubishi	8283
Onkyo	8136、8282
Optimus	8027、8220、8337
Panasonic	8229
Philips	8029
Phonotrend	8337
Pioneer	8027、8220、8099
Revox	8029、8190
Sansui	8029、8009
Sanyo	8074
Sharp	8231
Sherwood	8337
Sonic	8375
Sony	8243、8170、8291
Teac	8280、8289、8308、8309
Technics	8229
Universum	8375
Victor	8244、8274、8303、8304、8310
Wards	8027
Yamaha	8097、8094、8478、8524

故障かなと思ったら

本機を使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しないとき、あるいは下記以外で何か異常が認められましたら、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせ、サービスをご依頼ください。

● 本機を使用中に強い外来ノイズ（落雷、過大な静電気など）を受けたり、誤った操作をした場合などに、本機が正常に動作しなくなることがあります。このような場合は、本機の電源を切り電源プラグをコンセントから抜き、約30秒後に再びつないで操作し直してください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
POWERスイッチを押しても電源が入らない	電源プラグの接続が不完全	電源プラグをコンセントにしっかり差し込み直してください
	スピーカーコードがショートしている	電源コードを抜き、スピーカーの接続をやり直して再度電源コードを差し込みます
音が出ない	インプットセレクターが再生したい入力ソースにセットされていない	インプットセレクターで再生したい入力ソース名を表示させます
	MUTEキーが押されている（“ MUTE ON ”表示が出ている）	リモコンのMUTEキーまたはリモコンのインプットセレクター／音場プログラムキー、VOLUMEキー、EFCTキーなどのうち、どのキーを押してもミューティングは解除され、音が出ます
	TAPE/MDモニターまたは外部デコーダー入力になっている	TAPE/MD MON/EXT, DECODERキーを何回か押してTAPE/MD MONインジケーターまたは“ EXT. DECDR ”表示を消してください（リモコンではTAPE/MDキーまたはEXT. DECキーを一度押します）
	ボリュームが絞られている	VOLUMEで音量を上げてください
	接続が不完全	接続を確認してください
片方のスピーカーから音が出ない	接続が不完全	接続を確認してください
片方のメインスピーカーから音がでない	BALANCEツマミがどちらか一方にかたよっている	BALANCEツマミで左右の音量バランスを調整してください
ハム音が出る	ピンプラグコードの接続が不完全	ピンプラグをしっかりと差し込み直してください
メインスピーカーから音が出ない	SPEAKERSスイッチが OFFになっている	SPEAKERSスイッチを押して、 ONにしてください
	接続が不完全	接続を確認してください
リア、センタースピーカーから音が出ない	EFFECT OFFになっている	EFFECTキーを押して、EFFECT OFF表示を消してください
センタースピーカーから音が出ない	センターモードがNONEになっている	センターモードを正しくセットしてください
	センターレベルが低い	センターレベルを上げてください
	音場プログラムNo.6～8を選択している	2チャンネルでエンコードされたドルビーデジタル信号、PCM信号およびアナログ信号再生時、音場プログラムNo.6～8では、センターの音は出ません
	接続が不完全	接続を確認してください
リアスピーカーから音が出ない	リアレベルが低い	リアレベルを上げてください
	音場プログラムNo.1またはNo.2でモノラルソースを再生している	他の音場プログラムを選択してください
	接続が不完全	接続を確認してください
通常のPCM CDやLDを再生すると音が出ない	入力モードが“ DTS ”固定になっている（赤色のdtsインジケーターが点滅）	入力モードを“ AUTO ”にもどして再生してください

故障かなと思ったら

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
DTSソースを再生すると“ザーッ”というノイズが出る	入力モードが“ANLG”(アナログ)になっている	必ずデジタル接続を行い、入力モードを“AUTO”または“DTS”固定にして再生してください
DTS対応のLDを再生するとオレンジ色のdtsインジケーターが点灯する	プレーヤー側でディスクの種類を誤確認している	DTSデコードに支障はありませんが、プレーヤーの電源をいったん切り、再度電源を入れてください(LDでは再びオレンジ色で点灯する場合がありますが故障ではありません。)
リモコンで操作できない	乾電池が消耗している	乾電池を2本とも交換してください
	リモコンと受光部の間に障害物がある	障害物を移動してください
	リモコンの操作範囲から外れている	本体のリモコン受光部に対して6m以内、角度30度以内の範囲で操作してください
	受光部に日光や照明(インバーター蛍光灯・ストロボライトなど)が当たっている	照明または本体の向きを変えてください
リモコンのキーで本機を操作できないものがある	リモコンの操作ポジションが“AMP/TUN”または“DSP”以外になっている	操作ダイヤルを回して“AMP/TUN”または“DSP”にします
リモコンで他社の機器を操作できない	メーカーコードが正しくプリセットされていない	メーカーコードをもういちどプリセットしなおしてください
本機を使用しているとチューナーやテレビから雑音が出る	本機とチューナーやテレビの設置場所が近すぎる	本機はデジタル信号を扱いますので、テレビと離して設置してください
本機に接続している機器にヘッドホンを接続して聴いていると、音が歪む	本機の電源が切れている	必ず本機の電源を入れてください
音場効果を加えた音が録音できない	本機のREC OUT端子に接続した録音機器で、音場効果を加えた音を録音することはできません	

参考仕様

オーディオ部

定格出力(20Hz～20kHz,0.04%THD,6Ω)

メイン L/R	70W＋70W
センター	70W
リア L/R	70W＋70W

実用最大出力(1kHz,10%THD,6Ω)

メイン L/R	125W＋125W
センター	125W
リア L/R	125W＋125W

入力感度/入力インピーダンス

PHONO MM	2.5mV/47kΩ
CD他	150mV/47kΩ
EXTERNAL DECODER INPUT	
MAIN L/R	150mV/47kΩ
CENTER, SURROUND L/R, SUB WOOFER	150mV/40kΩ

最大許容入力(1kHz)

PHONO MM (0.1%THD)	100mV
CD他 (EFFECT ON, 0.5%THD)	2.2V

出力電圧/出力インピーダンス

REC OUT	150mV/1.2kΩ
SUB WOOFER(MAIN SP:SMALL)	4.0V/1.2kΩ

ヘッドホン出力

CD他, 入力1kHz,150mV,8Ω	0.5V/390Ω

周波数特性(20Hz～20kHz)

CD他 MAIN	0±0.5dB

RIAA偏差

PHONO MM	0±0.5dB

全高調波歪率

PHONO MM REC OUT,20Hz～20kHz,1V	0.02%

信号対雑音比

PHONO MM(2.5mV入力ショート), REC OUT	80dB
CD他(EFFECT OFF, 150mV入力ショート), SP OUT	96dB

チャンネルセパレーション(EFFECT OFF, VOL. －30dB)

PHONO MM(入力ショート,1kHz/10kHz)	60/55dB
CD他(5.1kΩ入力ショート,1kHz/10kHz)	60/45dB

トーンコントロール特性

BASS可変幅	±10dB(50Hz)
ターンオーバー周波数	350Hz
TREBLE　可変幅	±10dB(20kHz)
ターンオーバー周波数	3.5kHz

フィルタ特性

MAIN,REAR SP:SMALL(H.P.F.)	fc=90Hz, 12dB/oct.
SUB WOOFER(L.P.F.)	fc=90Hz, 18dB/oct.

ダイナミックパワー　メイン L/R(IHFダイナミックヘッドルーム測定による)

8Ω	95W＋95W
6Ω	115W＋115W
4Ω	140W＋140W
2Ω	160W＋160W

パワーバンド幅(メインL/R,0.1%THD,35W/8Ω)	10Hz～50kHz
ダンピングファクタ(メインL/R,20Hz～20kHz,スピーカーA,8Ω)	60
残留ノイズ(メインL/R SP OUT)	150μV

ビデオ部

ビデオ信号	1.0Vp-p/75Ω
Sビデオ信号	Y：1.0Vp-p/75Ω C：0.286Vp-p/75Ω
最大許容入力	1.5Vp-p
S/N	50dB
モニターアウト周波数帯域	5Hz～10MHz,－3dB

DSP部

DOLBY PRO LOGICデコーダ	YAMAHA YSS918-F(1)
RAM	256kbit PS-RAM(1)
センターモード	ラージ／スモール／ノン
テストトーン	L→C→R→RS(R)→RS(L)
プログラム数	
HiFi DSP	3
CINEMA DSP	8
DOLBY PRO LOGIC	1
DOLBY DIGITAL	1
DTS	1

入出力部

入力端子

デジタル音声信号	同軸1(DVD/LD) 光2(DVD/LD, TV/DBS)
アナログ音声信号	8(PHONO, CD, TUNER, TAPE/MD, DVD/LD, TV/DBS, VCR, VIDEO AUX)
外部デコーダー6CH音声信号	1
コンポジット映像信号	4 (DVD/LD, TV/DBS, VCR, VIDEO AUX)
S映像信号	3(DVD/LD, VCR, VIDEO AUX)

出力端子

REC OUT	音声信号	2 (TAPE/MD,VCR)
	コンポジット映像信号	1(VCR)
	S映像信号	1(VCR)
OUTPUT	音声信号	1(サブウーファー)
ビデオモニター		コンポジット: 1, S: 1

スピーカー出力端子	メインL/R(A/B) センター リアL/R

総合

電源電圧	AC100V　50/60Hz
消費電力	270W
ACアウトレット	SWITCHED×3 TOTAL 100Wmax
寸法(W×H×D)	435×151×391mm
重量	12.5kg
付属品	リモコン、単3乾電池(2本)、リモコン操作チャート

＊仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

本機は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

＊「高調波ガイドライン」適合品とは、通産省・資源エネルギー庁の定めた「家電・汎用品高調波抑制対策ガイドライン」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルを考慮して設計・製造した製品です。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

● 保証期間
お買い上げ日より1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
- ◆ **技術料** 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
- ◆ **部品代** 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- ◆ **出張料** 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 持ち込み修理のお願い
故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※品番、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお薦めします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

ヤマハAV製品に対するお問合せ窓口
AVお客様ご相談センター
TEL (03) 5488−5500

■ ヤマハ電気音響製品サービス拠点
(ヤマハAV製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お持ち込み窓口)

北海道	〒064-8543	札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内 TEL (011) 512 - 6108
仙　台	〒984-0015	仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL (022) 236 - 0249
首都圏	〒211-0025	川崎市中原区木月1184 TEL (044) 434 - 3100
浜　松	〒435-0048	浜松市上西町911　ヤマハ(株)宮竹工場内 TEL (053) 465 - 6711
名古屋	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F TEL (052) 652 - 2230
大　阪	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内 TEL (06) 6877 - 5262
広　島	〒731-0113	広島市安佐南区西原6-14-14 TEL (082) 874 - 3787
四　国	〒760-0029	高松市丸亀町8-7 ヤマハミュージック神戸高松店内 TEL (087) 822 - 3045
九　州	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472 - 2134

愛情点検

★永年ご使用の本機の点検を！

こんな症状はありませんか？
- ● 電源コード・プラグが異常に熱い。
- ● コゲくさい臭いがする。
- ● 電源コードに深いキズか変形がある。
- ● 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- ● 電源を入れても正常に作動しない。
- ● その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。
事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650 浜松市中沢町10-1
AV機器事業部
営　業　部 TEL (053) 460−3451
品質保証室 TEL (053) 460−3405
住所および電話番号は変更になることがあります。

YAMAHA

Printed in Malaysia **** V403420

DSP-A595a
リモコン操作チャート

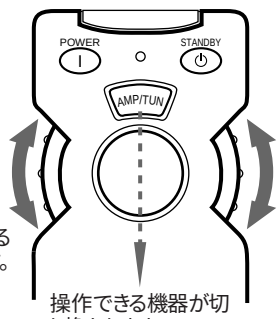
本機のリモコンでは、ヤマハ各機器の操作はもちろんのこと、他メーカーの機器もそれぞれのメーカーコードをプリセットすると操作することができます。

ご注意

他社のメーカーコードをプリセットした場合、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。

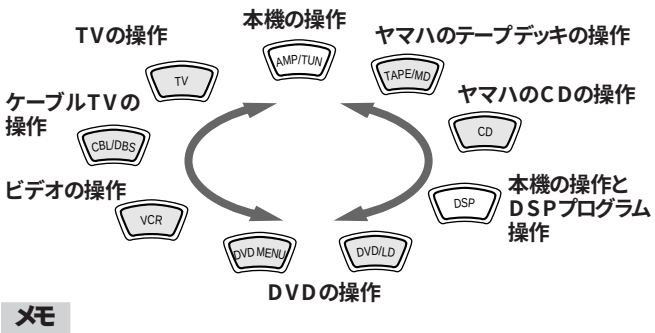
操作ポジションについて

本機のリモコンで本機および各機器を操作するには、まず操作ダイヤルで操作する機器を選んでからキーを押します。ダイヤルを回すと操作できる機器が表示されます。



ダイヤルを回す
カチッとロックする位置まで回します。

操作できる機器が切り換わります。

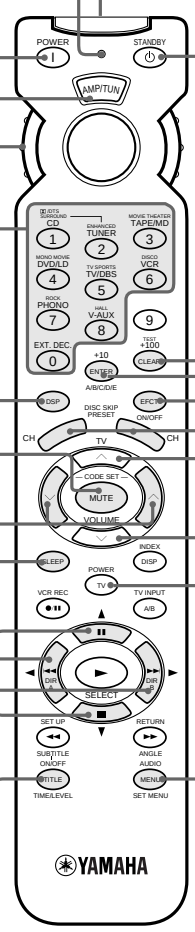


メモ

上図の　　で示したポジションには、ヤマハ製品を含む各社のオーディオ、ビデオ機器のメーカーコードをプリセットして操作することができます。

アンプ／チューナーポジション

本機の操作ができます。



送信窓／送信インジケーター
リモコンのコントロール信号を送信する。正しく送信されると送信インジケーターが光る。

POWERキー
本機の電源を入れる。

AMP/TUN表示

操作ダイヤル

インプットセレクター／音場プログラムキー

DSPキー
音場プログラムを選ぶときに押す。DSPキーを押すと送信インジケーターが約3秒間点灯し、インプットセレクター（1～8）が一時的に音場プログラムキーに切り換わるので、この間に操作する。インプットセレクターに戻すには、もう一度DSPキーを押すか、送信インジケーターが消えるのを待つ。

MUTEキー
本機の音を一時的に消す。解除するにはMUTEキーをもう一度押すか、リモコンのいずれかのキーを操作する。

VOLUMEキー
全体の音量を調節する。

SLEEPキー
スリープタイマーを設定する。

セットメニュー設定キー／タイム・レベル調節キー
▼／▲：セットメニューの設定項目、およびディレイタイム、スピーカー出力の調節項目を選ぶ。
◄／►：セットメニューの内容選択、およびディレイタイム、スピーカー出力を調節する。

TIME/LEVELキー
ディレイタイム、スピーカー出力を調整するときに押す。

STANDBYキー
本機の電源を切る。

TESTキー
テストトーンを入／切する。

A/B/C/D/Eキー
ヤマハのリモコン対応チューナーのプリセットグループを選ぶ。

EFCTキー
音場プログラムの効果を入／切する。

CH－／＋キー
ヤマハのリモコン対応チューナーのプリセットされた放送局を選ぶ。

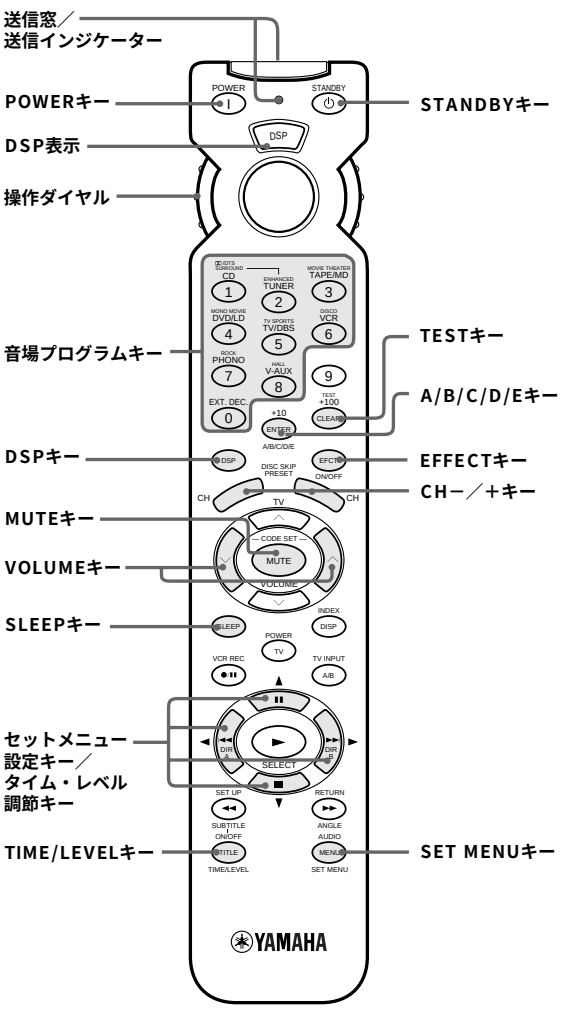
TVのコードをプリセットするとテレビの音量調節ができる。

TVのコードをプリセットするとテレビの電源を入／切できる。

SET MENUキー
セットメニューを設定するときに押す。

DSP操作ポジション

DSP操作ポジションでは、インプットセレクターが音場プログラムキーに切り換わり、ダイレクトに音場プログラムが選べます。DSPキーを押す必要はありません。インプットセレクターによる入力選択とDSPキー以外のすべてのキーはアンプ／チューナーポジションと同様にはたらきます。



送信窓／送信インジケーター

POWERキー

DSP表示

操作ダイヤル

音場プログラムキー

DSPキー

MUTEキー

VOLUMEキー

SLEEPキー

セットメニュー設定キー／タイム・レベル調節キー

TIME/LEVELキー

STANDBYキー

TESTキー

A/B/C/D/Eキー

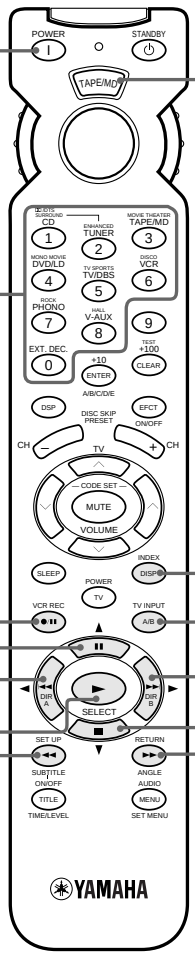
EFFECTキー

CH－／＋キー

SET MENUキー

TAPE/MDポジション

ヤマハのテープデッキが操作できます。
MDを操作する場合は、MDコードをプリセットしてください。



テープデッキまたはMDの電源が入る（工場出荷時およびヤマハのMDコード7888をプリセットすると、本機の電源のみが入ります。）

インプットセレクター

REC/PAUSE
一時停止（MDのみ）

DIR A（TAPE）
曲の頭に戻る（MD）

再生

◄◄方向の早送り

TAPE/MD表示

ディスプレイ表示（MDのみ）

デッキA/B

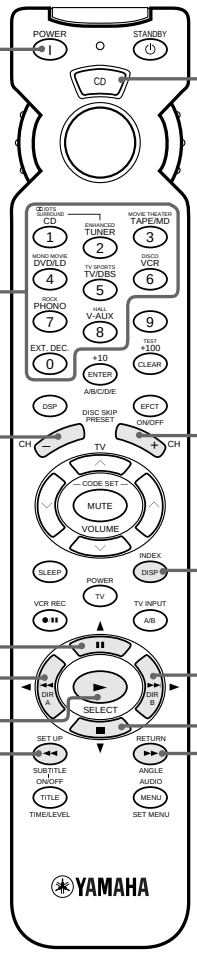
DIR B（TAPE）
次の曲の頭へ進む（MD）

停止

►►方向の早送り

CDポジション

ヤマハのCDが操作できます。



CDの電源が入る（工場出荷時は本機の電源のみが入ります。）

インプットセレクター

下方向のディスクスキップ（CDチェンジャーのみ）

***ポーズ／停止**

曲の頭に戻る

再生

前方向のスピードサーチ

CD表示

上方向のディスクスキップ（CDチェンジャーのみ）

CDディスプレイ表示

次の曲の頭に進む

***ポーズ／停止**

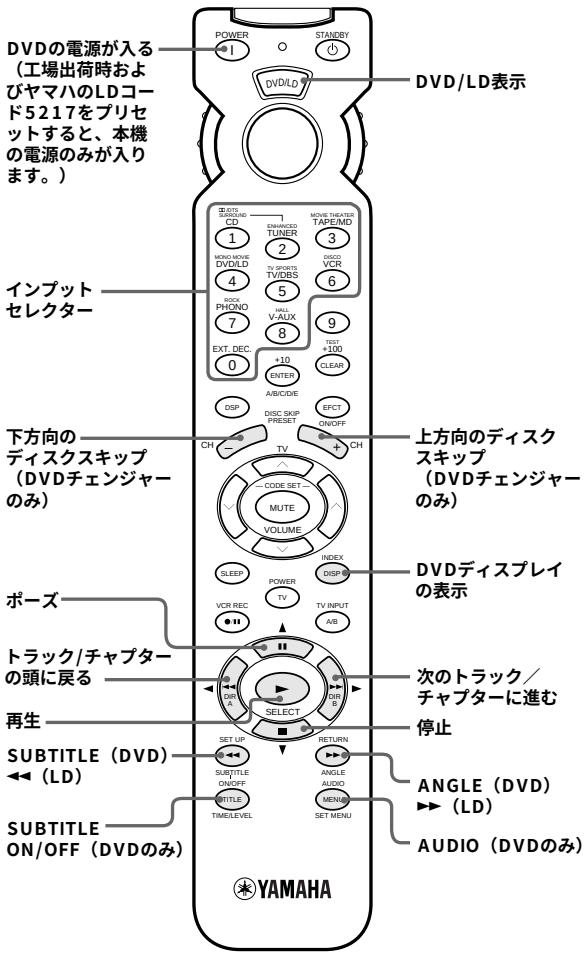
後方向のスピードサーチ

*　▮▮キーと■キーについて
工場出荷時およびヤマハのCDコード6082をプリセットすると、これらのキーは▮▮/■（ポーズ／停止）キーとしてはたらきます。

リモコン操作チャート

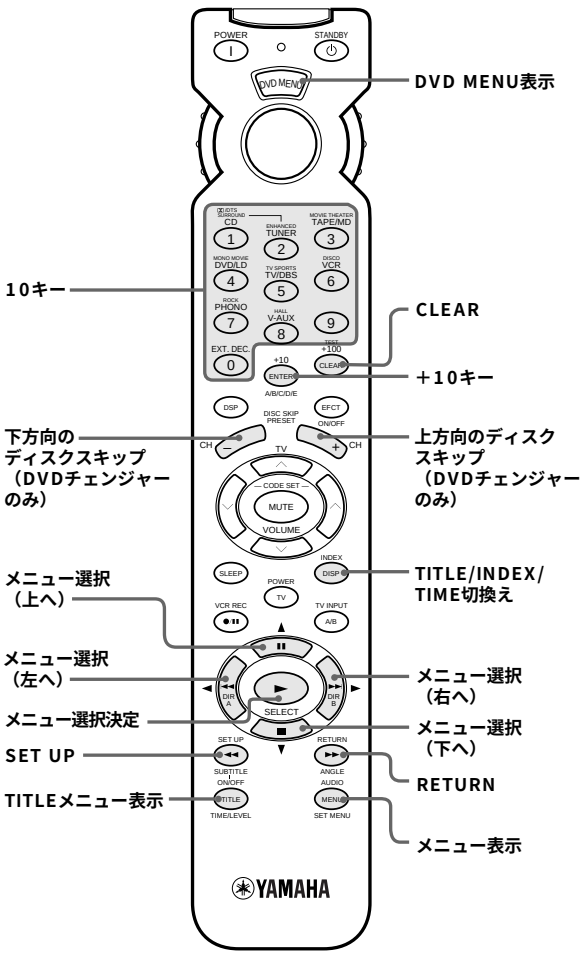
DVD/LDポジション

DVDが操作できます。DVDメニューを操作するときは、DVD MENUポジションに切り換えます。
LDを操作する場合は、LDコードをこのポジションにプリセットしてください。



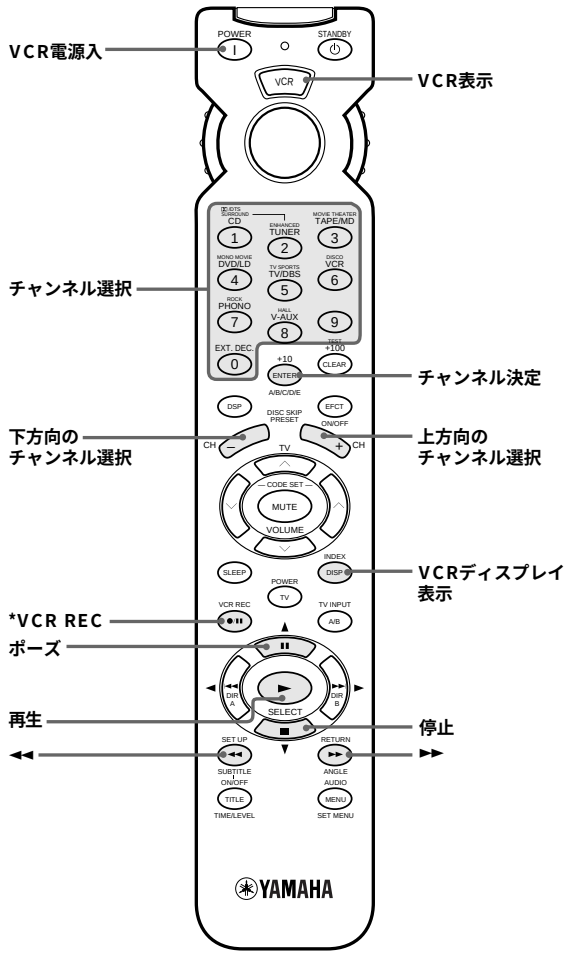
DVD MENUポジション

DVDメニューが操作できます。



VCRポジション

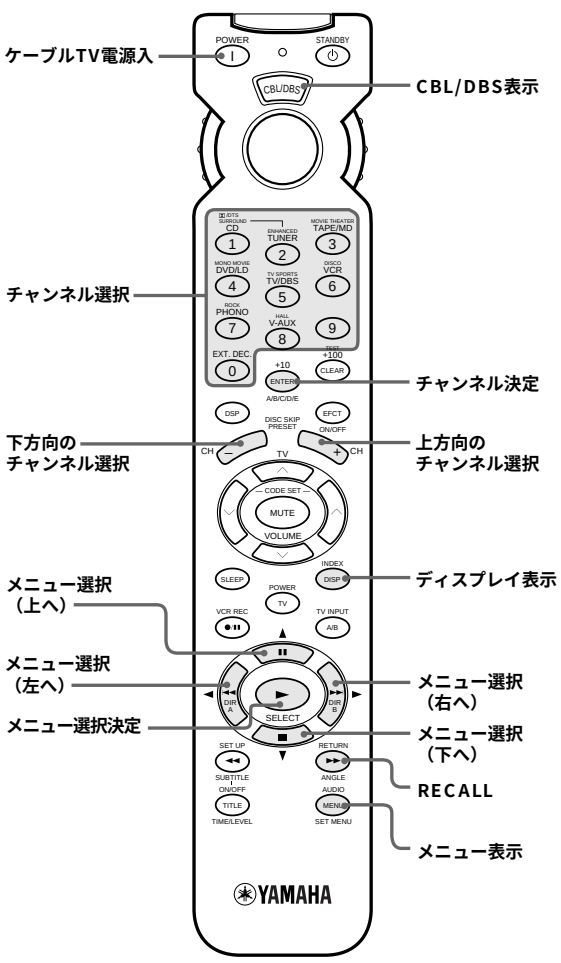
VCRコードをプリセットした後に操作できます。



* VCR RECキーは2回押すことで操作信号が出力されます。

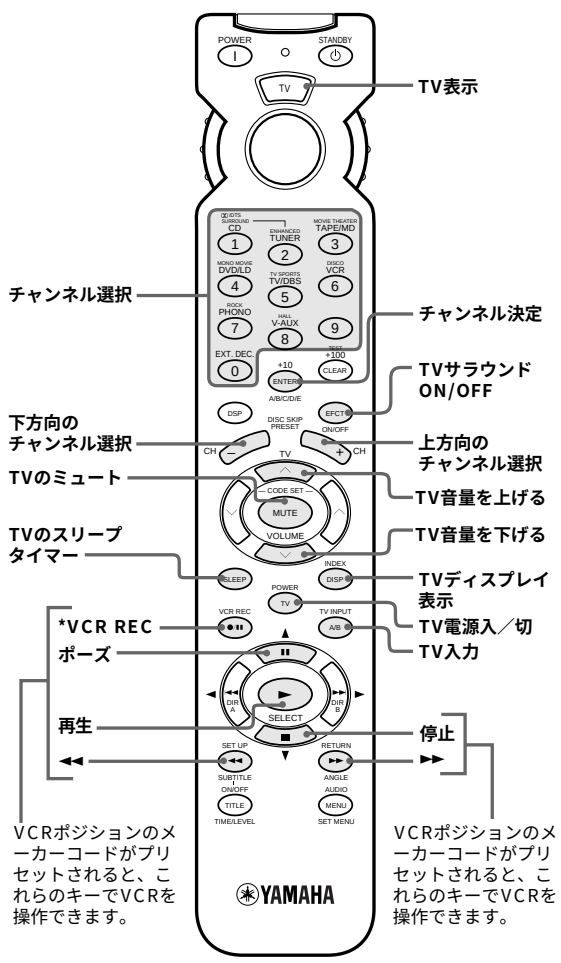
CBL/DBSポジション

ケーブルTVのコードをプリセットした後に操作できます。



TVポジション

TVコードをプリセットした後に操作できます。



* VCR RECキーは2回押すことで操作信号が出力されます。

くわしくは、本機の取扱説明書をご覧ください。また、本機以外の機器を操作する場合、機種によっては操作できないもの、操作方法が異なるものもありますので各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。